夕刊
滿洲日報
五月二十七日
發行所 大連市東公園町三十一番地 株式會社滿洲日報社

最後の通電を發して蔣氏、馮玉祥氏に忠告
閻錫山氏は馮玉祥氏に下野外遊勸告の通電を發す

【上海二十六日發電】蔣介石氏は二十五日馮玉祥氏に宛て長文の最後忠告電を送り又閻錫山氏も馮玉祥氏に宛てその外遊を勸告した通電を發した、其の大意は左の如くである

反省し悔悟せば逮捕令を取消さん
＝蔣介石氏の通電＝

予の三度に亘る忠告にもかゝはらず貴兄は反省せず、ために中央が貴兄を國民黨より除名し免官し更に貴兄を逮捕査辦するの命令を發するの餘儀なきに至りしことは予の遺憾極まりなきところなり、惟ふに

貴兄は 廣西派と夙に結びたり、貴下が西北の邊陬に籠りて飽くまで中央に弓を引かんとする時は自から武漢派廣西派の轍を踏み自滅せんのみ予が一度起つて貴下を討伐するはいと容易なるところなり、されど予は吾等が革命の歴史に偉大なる足跡を印したる貴下の悲慘なる最後を見るに忍びず、漸く訓政期に入りたる中國を再び戰火の巷と化し幾多の無辜の同胞を殺戮し建設事業を破壊し去るは予の最も煩悶するところである、例へ逮捕査辦令發布さるとも貴下が自ら

過ちを 悟り反省するあらば中央は貴下の逮捕令を取消すであらう、冀はくば西北の窮地に在りて自ら墓穴を掘らんよりも遠く外國に出で、支那が内亂を止め國威發展を期せねばならぬ理由を究められよ

一切不問に附し共に外遊せん
閻錫山氏からの通電

誤解と中傷に出發した貴下と蔣介石との意見疎隔が遂に干戈に訴ふるに至らば革命の前途は將に累卵の如く危うし、予は國を愛し貴兄を愛するが故に……局より見て貴兄の忍耐……を不問に附して遠く外……んことを望む、貴兄が外……なば予も勿論貴兄と共……し貴兄が歸國せぬ以上……する意思なし、總ては國家のためである、古人は云ふ「軍刀を棄なば直に佛たらん」と、冀はくば此の心事を以て熟慮三度し故國の危急を救はれんことを

上海に着いた犬養翁（左は古島一雄氏 二十三日寫す）

孫文靈柩車昨夕北平を出發
◇…百一發の弔砲轟く裡に

【北平二十六日發電】靈柩車は本日午後五時豫定の如く前門驛を發し南下したが宋慶齡女史は靈柩車の前方車に入つたまゝ戸を鎖して誰にも面會せず商震、何世禎氏等の見送りにも出でず遂に姿を見せず、百一發の弔砲轟き見送り一同の脱帽裡に孫文遺骸は北平を離れ生前最も愛好した金陵紫金山へと向つた

靈柩車天津を通過

【天津廿六日發電】孫文靈柩車は午後八時着津、支那側各團體代表列國軍司令官領事團等二千餘名の敬虔なる默送裡に八時半南下した

荻川放談(43)
弔文（其一）

一昨廿五日は舊暦四月十七日で故張作霖の遭難一周年に當る、張家では其祭事も行はれたようだが、世は殆どこれを忘れたる如く、時も時、獨り故孫文の移靈祭が喧傳さる、若し故孫文が支那革命の宗主なら、故張作霖は支那革命から赤賊退治の元祖ならずとせんや、其志望は武力を以て國民黨革命を破壊せんとするにあつたにせよ、之に赤賊討伐の名を附し、實際に國民黨の共産化を濟ふた、これなくんば今日の支那は、共産魔の爲に滅茶苦茶になつて居つたかも知れない。

◇

國民黨が第三インタアナショナルの支持援助を受けて、廣東から北伐に進んだときを憶ふと、支那が破壊と云ふ奈落に沈むとしか考へられなんだ、それが今日あるを致して、故孫文の移靈祭まで行はるゝに至つたは、國民黨が第三インタアナショナルから離脱したからで、此離脱こそ、故張作霖の掲げた赤賊討伐の旆旗に怯えし結果なり、それで若し國民黨が故孫文を崇むるなら、國民は故張作霖に對し深甚の感謝を表すべきに、今日此頃そうした聲すら聞えぬはどうした譯か。

◇

斯う書くと、過去ならそりやそうかも知れないが、現在ではそんな莫迦者は世間にあるまい、ないのみか、日本が故張作霖に同情を寄てた所以こそ、こゝだとの理解も存んで來るならん、日本は善隣支那の共産化を嫌ふ、是東洋の平和を紊せばなり、それで今や張作霖なきも其人によつて掲げられし赤賊討伐の旆旗は朽つるものでなし、こゝに此旆旗を翳して、赤賊退治元祖遭難の一周年に、功績を稱えて其の靈魂を弔ひ、之に若干の言葉を寄せんとす。

◇

思へば故張作霖も、勢威を望んで自我を振舞ひ、これに東三省民の膏血を注がしめたことは僅少でなく、前記の功績を以て或は此の罪咎を償はれぬかも知れず、其の遭難一周年の淋しきはこゝらかとも察ぜらる、そうとすれば亡父の遺業を享けたる張學良は、代つて其罪咎を償ふべき善政を布き、それで動もすれば隱れんとする亡父の功績を發揚するに努むべし、是ぞ孝の道祭の基にして、善政もこゝから生る、然らば善政が如何云へば亡父の常に唱へた保境安民、其保境安民が要求する日支經濟提携こそ大切で、亡父の命日に、僧を呼び經を讀むなんかは第二義に屬するなり。

中央黨部の宣言書

【上海二十六日發電】中央黨部宣傳部は全國民黨員及び全國民に與ふる數千語に亘る長文の宣言書を發表したが其の要點は民國十五年以來の馮玉祥氏の凡有罪惡を並べ立てた上
一、馮玉祥の眼中には孫總理なく革命なく支那國家もない、只私利私慾あるのみ
二、總理奉選祭に全世界の賓客が萬里を遠しとせずして參加するのに彼は自から來らざるのみならず西北各地方の交通機關を破壊し西北方面の國民の奉安祭列席を阻害してゐる、反革命の罪惡之より甚だしきはない
等の點を力說し最後に此の逆賊を征伐するにあらざれば眞の和平統一は望まれず、國民は一致協力して中央を支持せよと結んでゐる

滿蒙鐵道驛傳競爭踏破行程

驛傳競爭成績
◇…十九日午前八時十分開始
◇…廿七日午前八時十分現在

紅班 踏破鐵道 二〇八五・五哩（實走行程二五〇五・八哩）
白班 踏破鐵道 一一三六・四哩（實走行程一八七五・三哩）

滿蒙鐵道驛傳競爭
紅白兩班四選手が明朝長春で邂逅
秋山、木村紅班と加藤、神藏白班殆ど同時刻に引繼

我社驛傳競爭紅班秋山選手は廿七日午前八時海倫を發してハルビンに向つたがハルビン歸着は午後六時過ぎの豫定である、斯くて同選手は十時四十分ハルビン發、南下して廿八日朝長春に至り此處に十日間二千餘哩を走破せる同選手の行程は終り同班第二走者木村選手が新なる活躍を開始する、又白班の加藤選手は豫定の如く廿六日夜西安一泊廿七日午前七時西安發、奉天行直通列車に投したが午後九時奉天着、十時十分直に北上し廿八日午前七時長春着此處にて第三走者神藏選手に引繼ぎをなす、即ち廿八日朝は長春に於て兩班の四選手が偶然に邂逅するといふ場面が演出されるわけである

紅班の第二走者
木村選手けさ出發す

紅班秋山選手は十九日午前八時十分大連驛を出發し既に九日間二千餘哩を走つて今朝海倫を出發する豫定であるが、秋山選手と某地點に於て引繼ぎをなすべき第二走者木村選手は二十七日午前八時十分發急行列車で大連驛出發北行した驛には細田班長、南里、藤井、長谷部等各選手、及び大連市長代理として小泊庶務課長その他の見送りがあつたが、木村選手は某方面に於ける或種の冒險的作戰を實行すべく、出發前細田班長、南里選手らと再度打合せをなし意氣揚々出發した

◇木村選手出發前の密議◇ けさ十三列車展望車にて……右より紅班第二走者木村選手、南里選手、細田班長

驛傳競爭の途につきし人々へ
長尾 昌一

旅し行く驛傳の男こそ愛しけれあはただし日に生命こめつつ
◇
ただただに先を急くといふ旅の驛傳の男に幸こそ祈らむ
◇
たまさかる驛傳の男に幸あれやその驛路につつがあらせず
◇
今宵はも何處の驛や過ぎつらむあらしあらすな驛傳の男に
◇
その生命傳へて時も早や歸れ十五の驛路めぐるその男よ
◇
遼遠し十五の驛路めぐる男は愛しかりけり自愛祈らむ

東鐵重役らけふ來連
歐亞連絡會議の歸途

今月十五日より廿四日まで京城で開催された歐亞連絡會議出席者烏鐵及東支鐵道重役エムシヤノフ氏外九名は近藤滿鐵船舶部員の案内により廿七日大連入港のばいかる丸で來連、直にヤマトホテルに入り小憩後旅順に赴き各所を視察したが廿八日は沙河口工場及び中央試驗所を視察し同日午後二時山本滿鐵社長訪問の上歸任すると

入閣是非で板挾みの床次氏
新黨の内部二論に分る

【東京特電二十七日發】内閣改造の根幹とも見られつゝある床次氏の入閣に就て新黨クラブ側の見解は依然兩樣に分れてゐる、即ち
一、榊田清兵衛、大内暢三、長島隆二等の諸氏は成立後既に二ケ年を經たる現内閣に入ることは現内閣過去の功罪をすべて分擔することゝなるのみならず政友會側は之を以て聯立内閣と稱するかも知れぬが理論上、實際上新黨が併呑さるゝ純政友會内閣であるから床次氏のためには斷じて採らざる處であるといふ
一、金杉英五郎、岡喜七郎、本多貞次郎、津崎尚武等の諸氏は床次氏の生くる途は現内閣に入閣して政友會と接近し適當の機會に渾然融合するにあると稱してゐる
兩說とも床次氏本位であることは一致してゐるが此の兩派の間に立つ床次氏が近く首相より勸說を受けた際如何なる態度を執るかは興味を以て見られてゐる

滿鐵社員會評議員會
廿五日午後の分

滿鐵社員會評議員會は既報の如く廿五日正午休憩後午後一時再開左の如く諸議案を附議決定して午後五時過ぎ散會した
△鐵道無賃乘車證に關する件 俸給七十圓以下の職員及傭員に對し二等乘車證を發給する事は社業の現狀より見るも猶ほ考慮の餘地ありとして多數で否決
△日本人社員の家族にして七十歲以上の高齢者にパス發給の件（附添人を含む）保留
△幹事會の狀況を地方聯合會代表者に通知する件、可決
△昭和三年度決算並に本年度豫算承認の件、可決
△ファンクション・システムを人事制度に採用の件 本案は社内各部に於ける特殊技能者所謂エキスパートが從來兎角冷遇され待遇等に於いて不安なる地位にあり、故に人事制度に職能本位制を採用して專門家を擧軍優遇すると共に社員の採用に際しても嚴密な適性檢査による科學的試驗を經て入社せしめるにあり、前大藏理事時代よりの懸案であるが採決の結果人事制度研究委員會を設けて考究することに決定
△社員會組織改正に關する件 今期評議員會の重要案件である本案は議論百出し就中開原撫順等の反對あつたが結局直接選擧制の如きは理想に走り過ぎる嫌ひあり議長より撤回を提議したるも更に幹事會に於て案を練ることに落着き保留となつた

納税成績は良好
總額の四割は教育費に

大連市役所では過般市會に於て決定した昭和四年度戸別割六十七萬六千餘圓の内、第一期分の徴税令書三萬一千餘通を目下大々納税義務者に送達して居る、右に就き市當局は語る
恒久的財源の乏しい大連市は昭和四年度一般會計總豫算額百十六萬一千餘圓の約七割即ち八十七萬七千餘圓を市税に待つ有樣で、しかも市の財政は今日の收入を翌日に所謂る其の日暮しなので若し歳出の七割に達する市税の納税成績が假に不良であつたら直に行き詰る外はないが、幸に本市の納税成績は非常に良好で、就中市税中最權要の戸別割が殆ど完納に近い好成績を示して居るので今日迄財政的に何等の支障を來さなかつたので將來も市民各位の努力に依り一層向上を期し度いと思ふ
なほ市税總額の四割戸別割の約半分を教育費に充當してゐる譯である

人事

▲廣井辰太郎氏（東京帝大教授）廿七日バイカル丸にて來連
▲宮原國雄氏（豫備陸軍中將）同上
▲三村友義氏（砲兵中佐陸軍省兵器局員）同上
▲大庭秀藏氏（砲兵中佐陸軍造兵局員）同上
▲エムシヤノフ氏外九名（歐亞連絡會議出席者一行）同上
▲橘高廣氏（警視廳檢閲係長）同上
▲淺野舞踊研究所一行 同上
▲富永能雄氏（滿鐵用度事務所長）同上歸任
▲尾間明氏（本社取締役）同上
▲伊藤洪俊氏（旅順工大教授）同上
▲伊藤肇氏（滿鐵醫院醫長）同
▲庵谷忱氏（奉天商工會議所會頭）廿七日來連遼東ホテルへ
▲村岡慶一郎氏（大倉組奉天支店長）同上
▲板垣征四郎氏（歩兵大佐關東軍參謀）廿七日着任の挨拶に縣訪
▲田中千吉氏（大連民政署長）二十七日旅順水交社に擧行の海軍記念日祝賀會參列のため旅順へ
▲石本鏆太郎氏（大連市長）同

大觀小觀

◇東北四省の積極的保境安民主義とやらで、關内出兵決定すと。身のほどを知らぬも甚だし。
◇犬養翁が國民黨の新人連に訓諭してゐる。彼等の崇敬する孫文氏は無茶苦茶の排日をやれとは遺訓しなかつた筈だ。
◇果然、蔣馮兩氏の下野說。國民政府統一のため形式的にも引留むべからず。しかし恐らくは芝居であらう。「下野々々爾を奈何せん」
◇改造には床次氏の入閣が絶對條件といふ。若しフラれたら潰れる内閣か。
◇本溪湖神社問題は近來の不祥事當局者の威信を云爲するよりも、人心の激發を防ぐことが必要。
◇石本市長はスポーツを解する由但しスポーツの精神を解するか何うかは判らず。

天氣豫報
廿八日（晴後曇）南東の風
日出四時三十二分 日沒七時九分
滿潮前零時三十五分 後一時
干潮前六時十五分 後八時

けふ、大連の海軍記念日
驅逐艦の檣頭高く「ゼット旗」飜へる
記念祭や祝賀會、講演會等々で　各方面大いに賑ふ

今二十七日は海軍記念日と云ふので、大連神社では午前十時より記念祭を執行、石本市長は市民を代表してこれに參列した、一方市役所主催の記念日祝賀會は午前十一時半からヤマトホテルに於て催され市長、市關係者、目下入港中の驅逐艦「槇」乘組の將校及市民等多數參集してこの佳き日を記念し合つた、尚驅逐艦「槇」では午後一時五十五分、恰度日本海戰に於て「皇國の興廢この一戰にあり」と云ふ

信號を 發した時刻を期し「ゼット旗」を檣頭高く揭げてサイレンを高々と鳴らす、その外午後四時からは海軍協會主催の春日池に於ける軍艦模型爆沈が賑やかに催される、尚市內各學校の催し事では

▲工業專門學校　正午から春日池にて學生の射擊演習を勇ましく行つた
▲商業學校　午前九時全校の生徒が講堂に集つて驅逐艦槇の新見少佐の論演を聽き正午終る
▲第一中學校　午前九時より小關海軍大尉の「現在及將來の海軍」と題する講演會があつた
▲第二中學校　旅順の安田海軍大尉を招き午前八時半から記念講演會を開きそれが終るや職員のテニス競技會にと移つた
▲彌生高女　午前八時より澄田校長が海軍記念日に對しての講演をなし、これが終るや直ちに運動會にと移りテニス、バスケツトボール等賑やかに行はれる
▲神明高女　午前九時より運動會を催してこの日を記念し合ふ

小學校 では
▲常盤小學校　講話後中央公園で模擬戰が賑やかに行はれた
▲伏見臺小學校　講話後野球試合
▲朝日小學校　靑島攻擊に參加した海軍の兵隊さんのお話があつた

また日本橋、春日兩小學校でも矢張講話あり春日校兒童は午後四時半から鏡ケ池で行はれる海軍協會主催の模型軍艦爆沈を見學、松林小學校では瀨尾中尉の講話後校庭で運動會を催した、その他嶺前、南山麓、沙河口大正等も同じく講話又は運動會を催してこの佳き日を記念した

水交社祭典に聖上親しく臨御
いと莊嚴に執行さる

【東京二十七日發電】二十七日第二十四回海軍記念日に際し東京水交社の祭典は午前十時半岡田海相以下水交社員並に戰死者遺族參列して嚴肅裡に執行、天皇陛下は午前十一時四十分御出門同五十分着御、伏見總裁宮首め、東鄕元帥各大臣奉迎、陛下には岡田海相の御先導で祝賀會場臨御、海相は天皇陛下萬歲を奉唱し午餐膳上には粗末な握り飯と數子が盛られ陛下の御前に其の一皿を獻上した、午後零時四十分陛下には餘興の大相撲を終始御興深く御覽あらせられ午後三時四十分還幸あらせられた

我國のトーキーは珍しい中だけ
けさ、滿鐵の招聘で來連した　橘高廣氏映畫界を語る

立花高四郞のペンネームで映畫評論家として知られてゐる警視廳檢閱係長の橘高廣氏が滿洲映畫界及び滿蒙事情視察のため滿鐵情報課の招聘で廿七日入港のばいかる丸で來連したが東京を中心とした最近の映畫界の傾向について語る

トーキーは武藏野館がフオツクスの部分トーキーを封切したが大體に

評判が よくないやうだ　其後契約上のことで紛糾してゐる、パラマウントもこの廿九日に第一聲をあげるが、我國ではトーキーは先づ經濟上難しい、例へばWE社の如きは機械一臺に技師一名をつけるといつた調子だし、その取扱が甚だ面倒な上に、フキルムの生命は短く且つ東京の一流館で封切しても之が配給系統が確立されてゐない

米國で こそ今まで無聲だつた映畫が聲を出すといふのでアトラクションを與へたかも知れぬが、日本では立派に解說者がゐて映畫は聲を持つてゐるのだからトーキーが珍らしいといふ時代が過ぎれば下火になるだらう、しかし之はドラマテイツクな映畫のことで二三卷のサウンドピクチアーは相當に歡迎される、それで斯んな事が言はれてゐる、やつと映畫が藝術らしくなつて來た時にサウンドが加つて映畫はまた大黎明期に入つたと……、一方映畫興行は

行詰り でボードビルのやうな所謂レヴユウも凋落し出し、更に角變態的興行をつゞけてゐる、新しい言葉はあの女優にエス、エがあるとか無いとか云ふのでエス、エとはセキジアル、アツピールを意味してゐる

尚橘氏は社告の如く廿八、九日の兩夜大連滿鐵社員倶樂部食堂で本社主催の下に映畫講演會を催すことになつてゐる（寫眞は橘高廣氏）

旅費まで添へて淚の說諭願
乳吞兒と兩親を捨てた娘の　國元から大連署宛に

乳兒と年老た兩親を振り捨てゝ家出し女給に成り下つてゐる娘を歸して下さいと旅費まで添へて淚の說諭願が二十七日大連署に舞ひ込んだ——山口縣豐浦郡彥島町境田與一の二女キソノ（二〇）は昨年末生れて間もない子供を親に押しつけて家出し、大連市岩代町ロンドンカフエーに女給に住み込んだが其後兩親は再三歸國を勸めたが手紙の返事すら出さず勝手な生活を續けてをり、乳兒は每日母を慕つて泣き通し、兩親は身の行末を案じ遂に警察のお力で娘を歸して下さいといふのである

寫眞說明
（左）上は大連神社の記念祭、下は街頭に飜る祝旗（右）上は驅逐艦「槇」に揭げられんとする「ゼツト旗」下は常盤小學校兒童の模擬戰

又も暴行監禁で小崗子署訴らる
金州居住の支那人から

目下繫爭中の小崗子署對青山醫師事件にまり又も小崗子署長萩野谷信順氏及び猪股司法主任千葉德生主任、田尻巡査の四氏を相手取り金州會家會王新才（三七）から暴行並に不法監禁の告訴を二十七日大連地方法院檢察局に提出した、訴面によれば

告訴人 王は去る三月十四日所用あり青山醫師の宅を訪ねてゐる際小崗子署田所巡査が突如入り來り、王に對し「藥を出せ」と命じたが、王は自分は當家の者でない旨を答へると同巡査は矢庭に王を亂打した上捕縛し本署に引致數十回に亙り笞刑を加へて猪股司法主任の强要的訊問をもつて王に對しモヒ賣買の事實を陳述せよと迫つた、しかし告訴人は何等の犯罪なき爲め、その旨を答へるや同司法主任は無法にも再び監房に押し入れ、十六日午後九時ごろまで三日間に亙り不法拘禁したといふのである

告訴の裏面には相當複雜なる事情が介在してゐるらしいが苟くも**警察官**が民間とこの種の告訴のなし合ひをなして爭ふことは警察權の威信に關する問題であると非難の聲が高いが、監督官廳は事件の取調べを進める一方小崗子署に對し相當干涉的態度に出づるものと見られ成行は注目されてゐる

旅大刑務所
吉林省の監獄長らが參觀

【吉林特電二十七日發】吉林高等法院書記官長單作丹氏を初法院關係者及び監獄長等一行七名は獄制改善に資すべく今回二班に分れて旅順、大連の刑務所その他兩地法院を參觀する事となり、第一班は一兩日中に出發する筈であるが、第二班は約一週間後第一班の歸吉を待つて出發する豫定である、又一行は次の如し

第一班　吉林高等法院書記官長單作丹　第二監獄典獄長（吉林）馬昱珊　第二監獄典獄長（哈爾賓）單作著　通譯官　昆作華
第二班　吉林高等檢察廳首席檢察官業露華、監獄科長、陳鼎　第二監獄長（長春）李振藩　通譯官　吳仁華

今泉家の不幸
夫人と長女　相次で逝去

本社營業局販賣部員今泉文次氏は去る廿五日長女美佐子（一〇）を喪ひ其葬儀を濟ましたばかりの廿六日夜また夫人綾子（三一）に逝かれ重ねぐの不幸に際會した、綾子さんは去る二月長女分娩後產後の肥立惡く大連醫院に入院治療中藥石効なく母子とも相次で逝いたものである、夫人の葬儀は本日午後五時途中葬列を廢し市內常安寺に於て執り行はれる

泉二博士
撫順炭礦視察

【撫順特電二十六日發】司法省刑事局長泉二博士は隨員三名と共に二十六日午前九時二十五分の列車にて來撫、大林署長の案內にて古城子露天掘、製油工場を視察したが語る

十數年前小坂鑛山の小規模な露天掘を見た事があるが石炭は坑內掘しかないと思つてゐた處、斯くも大仕掛の露天掘を見て吃驚した、石炭を露天で掘れる事は經濟的にも有利であらうし第一數萬の坑夫の保健上喜ばしい事だ、又燃料界の時代的に要求する重油が七萬噸も年々製產し得る製油工場を日本の手に依つて經營し得る事は大きな國家的誇りであり、行詰れる日本の液體燃料界も是で救はれるであらう

尚博士一行は同日午後三時半にて離撫、二十七日奉天一泊、哈爾賓視察三泊の後再び奉天に引返し京城を視察、六月八日ごろ離鮮歸京の豫定であると

戀女房から傷害の告訴沙汰
打撲傷を負せた夫に

市內武藏町七十四番地祈禱師伊藤富全（四六）は加賀町四〇番地永木正次郞の妻シオ（四二）と姦通しこの程大連地方法院に於て懲役二年を言渡されたが、その戀女房から今度は傷害の告訴を出した——卽ち伊藤とトオの馴れ合ひの動機は一昨年シオの夫正次郞が有金を持つて家出したのは自分に

信仰が 足りないからと思ひ立ち每日伊藤の祈禱所に通つてゐるうち情交し、遂に昨年七月本夫正次郞に姦通の告訴を出され先日懲役二年を言渡されたが（本夫の告訴取下げで事件は消滅となつた）其後二人は天下晴れて夫婦となり同棲生活を續けてゐるうち伊藤はシオに厭氣を感じて虐待し去る四月離緣して終つた、本月初めシオは自分の荷物を引取りに伊藤方に訪れると伊藤は「お前の荷物はないお前のやうな女を妻にした覺えはない」と口論を初め伊藤はシオの

頭部を 毆打し全治一週間內の打撲傷を負はしたといふので中年の戀もはかなく散つて遂に告訴沙汰となつたものである

支那軍艦、渤海灣で邦船の拉致を企つ
漁船保護の遼海丸が幸ひ取戻し　關東廳警告を發す

渤海灣漁撈が始まつたので同方面に本邦漁業者が多數入込み漁撈に從事してゐるが、廿六日午後一時ごろ支那軍艦海鷗丸は三山島沖五浬の地點に於て、第二艦隊司令袁方獻の命なりと稱し漁撈に從事中の日本汽船神祐丸を拉致せんとしたのを、幸ひ漁船保護の爲め出動中の大連水上署遼海丸が發見、阻止の上取戻したが、渤海灣は支那の領海なるが故に

日本人 の漁撈を許可せずとの理由の下に今後も同樣の行動に出でん形勢あり、同所は支那側陸地より三浬以外の海面で國際法により當然、黃海領域に屬する場所であるから本邦人の漁撈に對し何等容喙の權利はない筈で、關東廳では右報告に接し遼海丸の無電を以て支那側の今後に於ける同樣不法行爲に對し警告を發し反省を促すことを命じ、目下支那艦監視と共に引續き警戒中である

驛待說明

◇紅白兩車は期せずして最後に旅順に下車しそれから旅大道路を自動車かオートバイで大連驛の決勝點に入ることに一致したが同日であるか何うかはまだ判斷がつかないしかし旅順に下車する時間だけは一致しないことだけは今から想像が出來る、それは紅班は最後に金福線があり白班は營口線を最後に通過することゝなると思はれるからだ

◇紅の場合を考へると金福線は城子疃發が午前八時二十五分と午後二時三十五分で周水子で旅順線に乘換へると旅順へは午後二時五十九分か午後十時三十八分に到着することになる、又白班の場合は京奉線溝帮子から營口に出て大石橋で本線に入るとすると溝帮子營口間は一日一回運轉であるから大石橋を午前零時三十五分發で南下するより外なく周水子着が六時五十七分でこれが大連發一番列車に連絡するから午前九時三十六分旅順着となる譯である

◇だが白班が若し溝帮子營口間を京奉線通過の際にでもすまし營口大石橋間だけを後とすれば大石橋歸着は每日七回あるが、本線への連絡は五回しかなくこれが又周水子から旅順への連絡は四回に減じて結局旅順着は午前なら九時三十六分、午後なら二時五十九分、七時三十分、九時三十五分、十時三十八分着となる

淺野舞踊團一行來る

九州小倉に於て上中流家庭の少女を集め純眞なる舞踊を發表してゐる淺野舞踊研究所一行は、所長淺野喜平氏に引率され二十七日入港のばいかる丸にて來連、一行は學校を休んでの旅行なので教師も同行し學課の遲れざる樣注意してゐるといふ、滿鐵社員倶樂部並に大連音樂院舞踊科主催、滿鐵社會課主催の下に二十八、九の兩日午後七時半より協和會館に於て舞踊大會を開催の筈

△△△△△濱崎滿倶投手
渡滿最初の失敗

市內花園町五十一番地竹內方元愛大野球選手濱崎眞二君は本年四月滿鐵鐵道部に入社し滿倶正投手として既に君の元氣な姿を幾度か滿倶グラウンドに見せてゐるが、濱崎君未だ滿洲の油斷ならない小盜兒は御存じないと見え、二十六日午後五時ごろ三十圓の白毛布を物干棹に掛けておいた儘盜まれ二十七日小崗子署に屆出でたがこの小盜兒は、山東省福山縣生れ鄒本嚴（三七）と云ひ目下取調中

浦田家の不幸

南滿教科書編輯部員浦田繁松氏の令息昭三君は豫て病氣の處二十七日午後五時死去した、因に葬儀は二十八日午後四時沙河口西本願寺にて執行

◇…奉天の神木として信仰されてゐた松島町の大きな柳は愈滿鐵で撤去することゝなり神木の祟りを恐れる苦力を督勵して廿五日切り倒した、怪物ござんなれと大刀を拔き拂つて待ち構へてゐたものもゐた【奉天發】

◇…營口縣立々師範學校、高級中學校、商業學校、女子師範學校その他小學校の教員五十餘名は奉票暴落で增俸方を知事に請願し、本月から增俸を實施する旨明言されてゐたに拘らず、今以て實施されないので教員達は同盟罷業斷行の氣勢を示してゐるため縣當局では大に警戒してゐる【營口發】

平安異香（1）

多默太郎作　中一彌畫

非常線（一）

銀の雨と降りそゝぐ、初春の眞晝の日ざしを享けて、上氣した女の頬のやうに、ふくらかに赤く咲いた庭の梅、風もないのにヒラリと散つて、泉水の水に音もなく泛ぶと、ピチリと魚が躍る。

縁に、眼を細くして、ゴロゴロ咽喉を鳴らしてゐる小猫一匹。

ふとその時、なまめかしい、賑やかな嬌聲と共に、檜扇をハタハタと掌にうつ音が聽こえた。今日の歌合せの會の餘興に招いた女傀儡子の藝が始まつたのであらう、なまめかしい色の袖や裳が、深々と垂れた御簾越しに、ヒラヒラするのが見え始めた。

今日は正月の子の日。この日禁裏に子の日の御遊があるのに倣つて、この女ばかりの下屋敷にも子の日遊びが催されたのである。所は兵庫福原の荒田郷である。

時は治承四年、平相國清盛が全盛絢爛の時代である。この時、この荒田郷や平野郷に邸宅を營んだものといへば、平氏に非ずんば人に非ずの平家一門か、さもなくても平氏に何かの關係を有つて當世の顯職にある名門貴族の他はなかつたので、したがつて、今女傀儡子の袖の香に、見物の上﨟の微笑に、囁きに、嬌妖滴るばかりの雰圍氣を作つてゐるこの邸も、名ある顯門の別業に相違ないのである。

然しこの時、この艶色嬌聲をよそにして、裏庭の雜木林の中にぽつねんと座つてゐる一人の男があつた。布子に奴袴に錆た野太刀一本、下男である。貯魚池に寄つて蹲踞んでゐるので、魚でも釣つてゐるのかと思ふと、大事さうに膝ん坊を抱きこんで、水藻に泡の立つのを眺めながら呟いてゐる。

「どうしたもんだらうなあ。助けたいのは山々だが、鞍馬の山の瀧落し、助けりや此方の命がねえと來らあ。だがあいつに云はせりやあからうだ。與七さんだつて纏さんだつて、時々此處へ來ては助けてやらうかなんて云ふのだけど、あんた奴に恩を着るのは厭だ、彌陀六さん、あたしやお前がなくちや助かつてやらないんだよつて。テヘ、、、可愛いことを云やがらあ——彌陀六さん、あたしやお前がまだ獨身でゐることも、ちやんと聞いて知つてゐるんですよ、かテヘ、、、滑つこい肌だらうたあ」

ふらふらと立上つて、向ふを見ると、雜木林の端づれにしよんぼりと、軒の崩れた納屋が一棟立つてゐる。それへ歩いて行つて、

「おつうちやん」

「………」

「おつうちやん、おつうちやん」

「誰だい？あ、彌陀六さん？」

「大きな聲をするでねエ。まあ顔を見せな」

「この顔かい」

女を監禁するのでわざわざ嵌めたものらしい新しい鐵格子の入つた窓へ、夕顔のやうにぽつかりと白い顔を浮ぶ。

「辨當の時刻でもないのに彌陀六さん、何しに——あ、分つた。お前、助けてくれるんだね」

「うむ、まあさういふつもりになつたんだが、おつうちやん、お前の方に間違はないだらうなあ。何しろ此方は命がけだからなあ。一つ間違へば首が飛ぶ」

「あ、今日は子の日だね。皆は遊びに夢中になつてゐる。こんないい都合はありやしない。それでお前は今日にしたんだねエ。利口だよ。何の馬鹿の彌陀六なもんか。あさあ早くこゝを出しておくれ。あたしやもう氣違ひになりさうなんだから」

「あゝ出すよ、出してやるよ。だが、お前の方に」

「分つてゐるよ。あたしやお前にまんざらでもないんだよ。一緒になるよ、一緒に。嘘なんかいふおつねかね。京都へ行つて御前様にこんな薄情な目にあはされた怨みを晴らしさへすりや、あたしや清々してお前のお内儀さんになつて百姓なとして暮すのさ。間違ひつこはないんだから早くよう彌陀六さん」

「よし、さうなりや俺も男だ。おつうちやん安心しろ、出してやるぞ」

「まあ、頼もしいわねエ」

彌陀六、腰の刀を拔いて鐵格子をギシギシ、やつてゐたが切れないので、こん度は手だ。五人力の彌陀六の力は恐ろしい、さしもの鐵格子がグウと曲がる。

これには流石のおつねも驚いたが、頭を出してみて、

「もう出られるか知ら」

その時、

「彌陀六、彌陀六や」

誰かゞ呼び呼び此方へ來る樣子

發聲映畫雜話（二）

矢野クニジ

さて雜話は雜然として進行するが、發聲映畫が價値を見出されたのは前記の通りである。然らば何時頃から工夫されてゐたかは明記出來ないが、先鞭をつけた人は發明王トーマス、エイエデイソンであつて、音聲を蓄音機のレコード板に吹込みつゝ一方撮影を行ふと云ふ大抵の人が考へつきさうな方法であつた。しかしこんな方法では俳優の動作と音聲が完全に同期化しない。氣合が合はないので間が拔けた樣なものになつて全々失敗であつた。が、このシンクロナス、モーションを巧に行へば良いと云ふ考へで、このモーションを機械的に行はしめる撮影記音の方法を考案してエデイソンはキネト、フオンなる名前をつけた。

この方法で撮影と記音には見事成功したがさて映寫となると再び動作と臺詞は相前後してシンクロナイズしなく失敗に終つた。其後エデイソンは其儘に放棄してゐた樣であつたが、今月ワーナーブラザーズ會社のヴアイタフオンと云ふ發聲映畫方式はこの原理に外ならないものでシンクロニズムと云ふことを改良して巧妙に行つてゐるにすぎない。又我國の東條研究所に於てこの程完成の域に達したと傳へ、某キネマ會社との間に製作契約が成立したと云はるゝものもこのキネト、フオンの改良されたものである。

今日發聲映畫として價値あるものを擧げるならば先づ次の四種に指を屈すべきである。

1、フオー、フヰルム
2、ムーヴイ、トーン
3、フオト、フオン
4、ヴアイタ、フオン

1は前記の如くド、フオレー博士の發明に成り、2と3はこの原理に大同小異のもので、4はエデイソンの流れを汲んだキネト、フオンの成長したものである。ムーヴイ、トーンを提げて立つてゐるのが、パラマウント、ユニバーサル。メトロ、ゴールドウイン。コロンビヤ。ユナイテツド、アーチスツ等の各映畫會社で、フオト、フオンはパテー、ジエネラル、エレクトリツク會社より權利を受けて使用し、ヴアイタ、フオンは前記の如くワーナーブラザー會社が振り翳してゐる方式である。特許權は1、2、4ともウエスターン、エレクトリツク會社が持つてゐる。

映畫と演藝

童謠舞踊大會 プログラム決る

大連滿鐵社員俱樂部大連高等音樂院主催滿鐵社會課後援の二十八九日兩夜の淺野童謠民謠舞踊大會のプログラムは左の如くである

第一部

一、日本青年團歌　淺野百合子
二、空は青雲　淺野ユリ子、山田ツネ子、山田トヨ子
三、バタコ　石井キヨエ、竹内エミ子
四、スターダンス　石井キヨエ、今井キミエ、竹内エミ子、小園マサ子
五、鐘金草　山田トヨ子、田山ツネ子
六、船頭歌　淺野百合子
七、兵隊さん　竹内エミ子、石井キヨエ
八、荒城の月　山田ツネ子、淺野百合子、山田トヨ子

第二部

一、兎の讀本　梶谷洋子、川原トシエ
二、野の花　淺野百合子、山田トヨ子、小園マサ子
三、足柄山　竹内エミ子
四、スイツルの旋律　石井キヨエ、小園マサ子
五、別後　淺野百合子
六、雪やこんこん　川原トシエ、梶谷洋子
七、オリエンタルダンス　淺野百合子、山田ツネ子

第三部

一、南米の面影　西園みよ子、稲垣滿壽子、伴奏吳種子
二、新舞踊小品　荒川清子、唄某夫人、尺八草崎圭山、ピアノ村岡樂童
　イ、祇園町
　ロ、滿洲前衛の唄
三、ヘブライの少女　荒川秋子、伴奏横山幾子
四、舊舞踊老松　荒川清子、伴奏村岡樂童
五、南京言葉　石井キヨエ、竹内エミ子
六、つばき　山田トヨ子、小園マサ子
七、鉢をおさめて　山田ツネ子、山田トヨ子
一、出船の港　淺野百合子
二、てるてる坊主　竹内エミ子
三、新作小倉節　淺野百合子
四、お嫁入り　梶谷洋子、石井キヨエ
五、道中双六　川原トシ子、小園マサ子、山田トヨ子
六、月の沙漠　山田トヨ子、山田ツネ子、小園マサ子、淺野百合子
七、軍艦マーチ　全員

滿洲日報

支那官憲哈爾賓の勞農總領事館を搜索

館員全部を檢束して取調ぶ 馮援助の策動暴露か

【哈爾賓特電二十七日發至急報】當地勞農總領事館に於て廿七日午後二時當地總領事メリニコフ、駐奉總領事クズネツオフ、東支鐵道副理事長チルキン氏以下七十名が秘密會議を開催中奉天張學良氏の電命に依り突然支那官憲のため家宅搜索を受けたが、同館員が狼狽の餘り書類を燒却せんとしたので消防隊を招集するなど大騷ぎを演じ、目下なほ全館員を檢束して書類を檢閲中である、その原因は現在滯哈中の前奉天總領事クズネツオフ氏が當地總領事館と聯絡して勞農政府の馮玉祥援助に關し種々策動した爲めであると傳へられて居る

奉軍愈よ關內へ

平津地方の引繼は 六月五日頃か

【奉天特電二十七日發】張學良氏は昨廿六日再び蔣介石氏より察哈爾及び平津地方の讓渡、平奉線の全收入を軍費に流用を條件として至急關內出兵方要求の電報に接したので取敢ず關內前鋒軍を八個師に增員に決したる外、熱河駐在の鄭澤生の騎兵第三十一軍に對し遷安に進出すべき命令を發した因に奉天軍が平津地方を徐永昌軍から引繼ぐのは大體六月五日頃と傳へられる

馮派の便衣隊員 東北各地に入込む

【奉天特電二十七日發】馮玉祥氏は蔣介石氏と戰鬪開始にあたり張學良氏の動靜及び東三省各地の軍情調査の爲め此程部下の便衣隊員九十餘名を派遣するに決し先發は商人に變裝して三々伍々隊を組んで目的地に出發したとの報告を南京政府より得た張學良氏は管下各關係機關に對し之が取締方を通告したが此の便衣隊が目的地とし居るところは錦縣一帶、新民縣、營口縣、安東縣、瀋海鐵路沿線、奉天城內等であると

韓石寢返說は 矢張り宣傳

蔣介石氏側で製造した

【上海大矢特派員二十七日發電】良誠軍と衝突せりとか、馮軍は河南を抛棄して陝西に退却等の說傳へられ、當初は蔣介石氏側の宣傳なるやも知れずとして七分迄疑ひをもつて見られてゐたが、その後續々韓復渠氏寢返り說がまことしやかに傳へられるので、今日では寢返り說が一般に信ぜらるゝに至つた、然るに記者が支那側の信ずべき消息通に質した所によれば寢返り說を傳へる電報は盡く蔣介石氏派の製造せる謠言で未だ河南よりどこへも信ずべき電報とて達してゐない、これは全く蔣介石氏がせめて奉安祭までも民心の動搖を防がんとして放てる謠言なること明かであると

(上海大矢特派員二十七日發電の冒頭) 五日來馮軍韓復渠、石友三、孫氏等馮氏に寢返り、韓復渠軍と孫……

孫文陵墓

國民政府は過般南京紫金山にこれが陵墓を造營中のところこの程漸く竣工し靈柩は去る二十六日北平發本二十八日南京に到着六月一日盛大なる奉安祭が執行されることになつた、寫眞は南京紫金山のふところ、明太祖陵孝陵と並んで新たに造營された孫文陵墓

北平で客死した孫文の靈柩は丸四年北平西部の碧雲寺に安擱されてゐたが全國統一に成功した

韓復渠軍の寢返り原因

近く討馮通電を發せん

【北平二十六日發電】各方面の情報一致して馮氏の主力なる韓復渠軍の對馮態度動搖し來れることを……

關內警備司令に孫氏を推す

張學良氏との會見で 孫氏は健康勝れぬとて拒絕

【奉天特電二十七日發】この程來奉せる孫傳芳氏は張學良氏と打合せの上二十六日大連に向つたが、仄聞するところに依れば、學良氏は孫氏に對し、關內警備司令に就任すべく勸めたところ孫氏は健康が勝れぬ故を以て一應拒絕した、然し多分同氏は受諾するものと見……

日本兵と知りながら巡警は故意に射擊

捕へられた一犯人の自白により 我總領事館交涉開始

【奉天特電二十七日發】二十五日午後九時頃駐奉步兵第三十三聯隊第五中隊が奉天鐵西に於て野外演習中突然支那巡警が我が兵に對して發砲せる事件に付て我が憲兵隊で嚴重取調の結果犯人の中一名は日本軍隊であることを知りつゝ殊更に狙擊せる旨を自白したので、我が總領事館では支那側に對しいよ〳〵交涉を開始する筈である

馮玉祥軍 全部平漢線以西に配置

【北平二十七日發電】平漢鐵路局長何成濬の電報に依れば、馮軍は目下信陽の西百支里の桐柏より南陽間に二師、南陽に五師、南陽洛陽間に二師、鄭州より潼關に亘り其の一部駐屯、兵力總數は十五萬以上と見られ、鐵道以東には一兵も見ず、糧食の大部は洛陽に貯藏され中牟縣白沙河の鐵橋は全く破壞された

報じてゐるが、其の原因として傳へられる處は
一、馮の蔣介石討伐通電は大義名分に添はず國民の同情を得る價値なし
二、馮蔣若し戰はゞ馮に勝目なし
三、漢口で蔣と會見以來蔣より多額の軍費供給を受けた
等で場合に依つては石友三、門致中氏等聯合して反馮通電を發するやも知れぬ形勢にあり、若し斯くなる時は馮は河南放棄の外道なしと言はる

孫文靈柩車 濟南を通過

【濟南二十七日發電】孫文の靈柩車は今朝八時四十分濟南着九時十分南下した、津浦線濟南驛は出迎への人で埋められたが日本人に對する不穩の空氣はなかつた、西田領事は驛に出迎へて花輪を捧げた群衆の中に在つた記者の耳にした一私語に「孫總理の靈柩は軍艦で海路南京に運され此の靈柩車の中には安置されて居ない筈だ」と云ふのがあつた

過般の覺書通り條約交涉を繼續

大使館昇格は急には實現せぬ 上海に着いた芳澤公使語る

【上海大矢特派員二十七日發電】芳澤公使は今日午後二時半着上海丸にて着滬、船中にて語る

慌しい

旅だつたが、奉安式參列の準備は出發までに漸く間にあつた、今夜矢刻に乘込み明朝出港二十九日午前九時南京着、同日午後外交部長と會見三十日伊太利、獨逸の諸國公使と共に御信任狀を捧呈する、一日は奉安式、二日は蔣主席の招待會があり、予は三、四日に上海に歸り二、三日內に陸路或は海路北平に赴く、北平滯在は十日か二週間で又上海に歸り通商條約交涉を繼續する、條約交涉に關する日本側の打合せは大體濟んでゐる、今後の成行き如何は豫言し難いが兎に角交涉開始し得る樣になつてゐる、條約交涉が支那時局に影響されることなきやとの質問を受けたが

日本は

四月下旬往復せる覺書に明示されてゐる通り交涉を繼續するもので今更覺書の趣意を變更する必要を認めない支那時局の影響は支那政府の決定すべきことで我々の干涉すべきところに非ず、又これがためかれこれ心配の必要なし、馮玉祥氏が各國公使館に致したといふ中立要求の通牒は旅行中でまだ見てゐない、在支公使館の大使館昇格は決定されてはゐるが多少準備に時日を要するから早急には實現せぬ、大使館を上海に移すことについてはまだ具體的計畫はないが事實上予が上海にゐるから事務は上海に移るわけだ

一二週間

の豫定で歸國した外務省に出向ひてゐた程で頗る……十五日の滯在で東京出發間際迄往復廿三日の旅行で東京には僅……たまでゞ、八月中旬にはまた日本に歸ると語つてゐた、尙芳澤公使は日本政府及び田中首相より孫文靈前に贈る花環挽張を携へて來た、尙同船には支那公使汪榮寶氏も乘込んでゐたが奉安式參列のため

出迎への爲め蔣氏徐州へ

【上海廿七日發電】蔣介石氏は靈……

蔣氏徐州へ 靈柩車出迎へ

【南京二十七日發電】蔣介石は本……

宮崎未亡人等南京に到着

【南京廿七日發電】故孫文靈柩奉安祭列席の宮崎滔天未亡人、同龍介氏の一行は今朝七時南京到着、國民政府は驛頭に海軍々樂隊及び衞戍司令衞隊一隊を派遣し歡迎の意を表した、犬養、頭山翁の一行は午後四時到着の豫定である

柩出迎への爲め今朝浦口發列車で宋美齡夫人、唐生智氏等を同伴し徐州に赴くこととなつたが同地で陳調元、徐源泉、毛炳文氏等の軍部首腦者會合し對馮軍事會議を開かれる模樣もある

陳調元氏は移靈祭不參

山東不安で

朝六時浦口發徐州に赴いた、明朝十時靈柩車に同乘歸京の筈である

【青島廿七日發電】山東警備憲兵司令吳思豫は移靈祭參列の爲本日正午出帆の大連丸で南京に向つたが吳元來陳調元が行く筈であつたが吳思豫が行く事になつた理由は憲兵二師の兵力では置き去りにされて不平を懷く顧震、任應岐、劉珍年孫殿英等の有力雜軍多數散在して居るので、之等を改編して懷柔する治安維持上重大なる脅威となつて居るか然らざれば兵力の增派を要求するためであると

國債整理は政府の一大試煉

政府の方針注目さる

【東京二十七日發電】國債五十八億圓の整理方針確立に關して二十五日小川、中橋、山本三相は協議を重ねたが此の公債方針を實行せんとせば現內閣並に黨の重要政策上一大轉換を招來するものであつて鐵道公債問題の處分と共に政府の一大試煉と見られてゐる、即ち國債整理の實行に伴ふ財源は政府が今日まで唱道し來つた兩稅委讓案へ直接甚大なる影響を與へ當然之が放棄を覺悟すべきものであるが、田中首相は地租委讓に關しては過般議會に於て聲明せる方針に何等の變改をも見て居ないことを聲明してゐるので此の間の處置對策については一大決心を要するの時機に到來したのであるが果して首相が內閣改造と共に此の一大政策を以て國民に見ゆるや、政界のみならず財界の注目するところとなつて來た

鈴木喜三郎氏 首相と會見

つたものではないと釋明するが處があつた

【東京二十七日發電】鈴木喜三郎氏は本日午後四時より一時間に亘り官邸に田中首相と會見、內閣改造問題に就て意見の交換をなした

床次氏に入閣交涉

近く行はれん

【東京特電二十七日發】政友會の秦豐助氏は過般來湯河原に於て床次氏と數次會談し政局に關する意見を交換して入閣を慫慂したが床次氏は廿八日歸京することゝなつたので首相は近くいよ〳〵正式に床次氏の入閣を求むる筈である

民政黨政策 具體化を協議

【東京廿七日發電】民政黨は曩に決定せる金解禁、金融制度、公債政策、對支問題を始め十三政策を具體化せしむるに決し廿八日午前十一時から總務會を開き特に各特別委員長理事も參加し之が調査方針を定め、特に財界不安問題對策を協議する筈である

張學良氏の教育振興

私財五百萬元を投ず

張學良は教育振興の目的を以て曩に遼寧省管內各縣に新民學校三十二校を創設すべく各縣知事に命じたが最近更に私財五百萬元現大洋を同校の創立資金として支出し同時に東北文化社委員に對し右新民學校を至急開校せしむる樣命じた

中支教育視察

遼寧省に於ては今回管下各縣下に於ける教育關係者中より三十名を選拔し江蘇、浙江の學事視察をなさしむべく目下準備中であるが一行は六月六日大連より海路上海に向ふと

金福公司總會

八分据置案可決

【東京二十七日發電】大倉組を大株主とする金福鐵路公司は二十七日午前十時工業倶樂部に於て總會を開き、配當八分据置案を可決し任期滿了の監査役全部重任に決定

同仁會大會へ

【東京二十七日發電】貴族院議員金杉英五郎氏は同仁會々長近衞公の代理として來る六月一日東京驛發神戶より上海丸で上海へ直行し南京、天津を經て北平に赴き同仁會大會に臨み歸途奉天大連に立ち寄る筈である

有田局長 奉天經由北平へ

【東京二十七日發電】外務省有田亞細亞局長は二十七日午後八時四十五分東京驛發朝鮮經由奉天に赴き、同地に滯在後北平天津を經て六月末歸朝する事となつた、右は國民政府との諸懸案も一通り解決し殘るは條約交涉のみとなつたので、此の機會に政府は滿蒙鐵道問題其の他懸案の交涉を開始する方針の下に林奉天總領事と種々打合せをなしたる後、六月初め北平に於て芳澤公使と會見條約問題交涉に關し協議する重要任務を帶びてゐる

モ博士に叙勳

【東京二十七日發電】今回來朝したモツト博士に二十七日左の通り叙勳の御沙汰があつた

萬國基督教青年會理事長 ジョン、アール、モツト 叙勳一等授瑞寶章

英巡洋艦へ答禮

田中大連民政署長、石本市長代理小泊庶務課長兩氏は廿七日午前十時答禮のため英國巡洋艦カムバーランドを訪問した

拓務省官制は骨拔でない

前田長官より釋明

【東京廿七日發電】政友會總務會は二十七日午後一時より本部に開會、衆議院より萬國商事會議並に支那視察に派遣すべき政友會代表を左の如く決定した

▲萬國會議出席者 山本愼平、眙中楠右衞門、森本千吉、木村淸治

▲支那視察員 久恒貞雄、伊藤仁太郎、中井一夫、中谷貞賴

次で前田法制局長官より最近政府は樞府の反對に屈從し拓務省の官制は全く骨拔きとなり、朝鮮は所管外となつた樣誤傳されてゐるが、事實は斷じて然らず、官制には朝鮮總督の事務を統理すとあるから所管內に在る事明瞭で、從來豫算等も特別會計となつてゐたものが拓務省所管になり決して骨拔きとなるものである

政友會が功勞章制定

【東京特電二十七日發】田中首相の人事行政に對して兎角の批評が多いが就中黨內の意向では多年黨の爲に盡瘁した長老でありながら自ら名聞を求めず不遇の地位にあるものが殆ど其の功績に報いらるゝ處ないのは遺憾であるといふのである、首相も近來此の點に留意し始めたやうであるが更に全國の各支部を通じて多年黨務に努力した長老に對し功勞章といふやうなものを贈る案を立てたので目下幹部の手に於て詮衡中であると

歐亞連絡準備協議會

本月末哈爾賓に於て開催される歐亞連絡時刻表會議及び日滿歐亞連絡運輸寢臺約束手續に關する日本側の下打合せ會議は二十七日午後一時から滿鐵社員倶樂部にて開催された、出席者は左の如くであつて廿八日まで開會する

▲滿鐵 古山第二涉外係主任、角田涉外課員、彥坂營業課員、森審査係員

▲鮮鐵 佐藤參事、福田營業課員

▲鐵道省 新井國際課長、小林事務官

吳光新氏夫人 けふ別府へ

城口顧問と

二十六日出帆の香港丸で吳光新氏の顧問城口忠一郞氏は第二夫人吳少梅及二子を伴ひ別府に向つたが同氏は去る二十四日同船にて第一夫人吳璟蓮及第二夫人を連れ歸連したものである、因に今度は當分大連には歸らぬ由、尙同船には元張宗昌第四師長祝安德氏も乘つて居たが仄聞するに張宗昌氏は此度の亡命の際には僅かの所持金しか無かつた爲同氏が此の調達の爲在滿直魯系の將官連から金融を圖り是を持參するのだと云ふ噂もある

兩班選手愈よ今朝長春で引繼

木村選手は吉敦線 神藏選手は哈爾賓に向ふ

吳惑局車約一時間にして金州驛頭に分れをつげた驛傳競爭紅白兩班の選手……紅班秋山選手は長驅して滿洲里に飛び更に轉じてボグラニチナヤに走り北滿國境の東西兩極を一貫し、次でこれと

十字形

に呼海線より東支南部線と一週間に亘つて縱橫に馳驅して堂々二千哩を征服して萬丈の氣を吐いたに反し、白班は牛步遲々として一驛又一驛一線又一線と只堅實に急がず騷がず離關から離關へと貪食的努力をつゞけて尙紅班の半行程を辛うじて踏破し得たに過ぎない狀態であるが、その間離局の大半を終つた、この兩班の期せずして兩極端の作戰は日々刻々フアンを熱狂せしめつゝ一週間を過ごしたが

圖らず

もこゝに紅班は秋山第一走選手より木村第二走選手に白班は能勢、加藤の兩選手行程を完了して第三走者神藏選手に滿鐵最北端長春驛に於て今朝八時前後殆ど同一時に落合つてともに引つぎをたすことゝなつた、即ち紅班秋山選手は昨夕六時半呼海線馬船口驛に歸還するや直ちに松花江を渡つて哈爾賓に出で七時四十分發列車に投じて今朝五時五十九分長春に到着して木村選手に引つぎ木村選手は午前八時半發吉長鐵道頭道溝站より吉林

敦化に

向ひ、又白班加藤選手は昨夜午後九時瀋陽線の踏破を終つて第三走者に引つぐべく奉天に現はるや、班長よりの飛電は驛頭に來着を待ちうけ轉じて長春に急行神藏選手に引つぐべしとの豫定變更に、小憩の暇もなく自動車を驅つて滿鐵奉天驛に歸り午後十時十分發列車に移乘して北行今朝七時長春に到着神藏選手に引つぎをなし、神藏選手は直に秋山選手のコースを逆に午前八時二十分發……

加藤選手 長春に向ふ

【奉天特電二十七日發】瀋陽線の踏破を終つた加藤白班選手は本日午後九時太原支社長等多數の出迎へをうけて當地に到着したが、當地に於ても第三走者に引つぐべき豫定を變更して長春に至り神藏選手に引繼げとの命令をうけ、直に自動車にて約四十分を疾走し發車前三分間滿鐵奉天驛に到着午後十時十分發で長春に向つた

哈爾賓に向つて出發す

分發を以てることゝなり、偶然にも兩班四選手は長春市民の大歡迎裡に落ち合つて、後繼二選手は北と東に分れて壯途に上り、大任を果した前走二選手はともに昨日までの血塗ろの奮鬪を忘れて、光風霽月手を携へて南へ……歸社の途につく筈である

應募一萬八千通

廿七日夕まで到着の分

驛傳競爭所要時間豫想投票懸賞募集は廿七日夕までに到着した分の中廿五日發信の分とソレ以外の分と嚴密に撰り分けた結果合計一萬八千三百四十六通の多數に上つたが大體此れより增加することは少いと見られる、勿論之は未開封の儘の通數のことであつて實際の票數は此の四、五倍になるであらう尙此の大多數は在滿の人々であるが內地朝鮮支那等各地よりの應募數が案外に多いことも注目を惹いてゐる

驛傳ゴシップ

◇驛傳競爭所要時間の豫想投票といふことは必然時々應募者が自らダイヤを作つて見ねば判らぬことになり各方面で熱心な研究者を續出したが中には折角苦心したダイヤを其の儘にするは惜しいといふわけか態々兩班の班長に送られる向きがある、然し惜しいかな其の大部分は實際の狀況を無視し單に鐵道の時間を結び合せたものに過ぎない、支那側の鐵道は地圖の上では大抵續いてゐるが鐵道每に連絡點が離れてゐるとを知らぬ向が多い

◇世間の話を聞くと時間の豫想には斯うといふのがある、本紙に所載の各鐵道時間を結びつけて復路や連絡區間の時間を無視したものである、又、全體の哩數と列車一時間の平均速力で割つて計算したといつて頭の好さを誇つてゐる人もある、斯うなると擘ろ御愛嬌の方だ

◇紅だ、白だと何處へ行つても驛傳の話——そして驛傳フアンを生じ全滿愛讀者を擧げて紅と白との兩班に分けて白熱的な驛傳時代を現出した。したがつて一會社、一商店、一家庭——否屋の藝妓部屋まで紅が勝つ、イヤ白が勝つの二派に分れて、兩班に對する熱烈な激勵の電報、手紙が日々幾十通となく配達される、白の加藤選手が消息を斷つた時など一時に海嘯のやうな電話の見舞に留守をあづかる班長以下選手は大に感激した

安田銅子

「バーカー大佐」と稱し男になりすまして花嫁を貰ひ六年間も誤間化してゐた立派な「女」アーマ・アーケルスミス夫人の化けの皮が剝がれた▲そしてその女はとう〳〵懲役九ケ月に處せられた▲罪名は結婚屆を出す際に名を僞り性を僞り「二重結婚」をしお上を馬鹿にしたといふ僞證罪だが判決に當つて判事は「この教育なく無遠慮なる圖太い女は神の宮を穢し自然の掟を亂し乘へ人の世の法と良俗とを蔑ろにした」と述べてゐる▲犯人のアーケル・スミス夫人は相手のエルフリダ・ハワード孃と二年間も交際した上、今から六年前堂々と結婚し前後四年間立派に夫婦生活をして來た▲エルフリダ夫人も自分の「夫」が女であらうとは今度新聞で見て初めて知つた位でその間の玄妙不可思議には誰あつて驚かぬものがないと云ふ變り方である

出船入船（五月廿八日）

▲出船 △第廿一共同丸午後七時

▲入船 △第廿六共同丸

特産

◇定期後場（銀建）

▲大豆（强調）單位厘

限月	寄付	高値	安値	大引
五月末	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
六月末	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
七月末	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
八月末	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
九月末	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

出來高 四十八車

▲三等大豆（出來不申）

▲豆粕（强調）單位厘

限月	寄付	高値	安値	大引
六月限	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

出來高 三千枚

▲豆油（出來不申）

▲高粱（保合）單位厘

限月	寄付	高値	安値	大引
六月末	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

出來高 十一車

▲包米（出來不申）

◇現物後場（銀建）

	寄付	大引
混保大豆（袋込）	六五〇〇	六五三〇
大豆（裸物）		
出來高	二十車	
三等大豆	出來不申	
豆粕	二一六〇	二一六五
出來高	五千枚	
豆油	一六二〇	一六二〇
出來高	二千二百瓩	
高粱	出來不申	
包米	出來不申	

錢鈔

◇定期後場（單位錢）

期	寄付	高値	安値	大引
近	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

出來高 期近 一百八十五萬圓

◇現物後場（單位錢）

	銀對金	銀對洋	金對洋
一時半	[illegible]	[illegible]	一八〇
二時半	[illegible]	[illegible]	一八〇
三時半	[illegible]	[illegible]	一八〇

出來高 銀對金 一萬圓 銀對洋 一千圓

商品

後場 出來不申

神戶特産物（廿七日）

大豆現物	七五〇
先物	六五〇
豆粕現物	二二七
先物	二二〇
滿洲小麥	四八〇
豆油現物	三三五〇

大阪綿糸

限	後場寄	後場引
六月	二二七六〇	二二八三〇
七月	二二六五〇	二二六四〇
八月	二二四九〇	二二四八〇
九月	二二二九〇	二二二六〇
十月	二二〇五〇	二二〇四〇
十一月	二一九三〇	二一九三〇

東京期米

限	後場寄	後場引
五月	二九三一	二九二九
六月	二九七五	二九六四
七月	三〇一七	三〇一二

大阪期米

限	後場寄	後場引
五月	二九四〇	二九四七
六月	二九八三	二九七六
七月	三〇四二	三〇四四

東京株式（長期）

銘柄	後場寄	後場引
東株	一三四八〇	一三四八〇
東新	一二五一〇	一二五一〇
品新	一二三〇〇	一二三〇〇
中先	一二三一〇	一二三一〇
信當中先	不申	不申
新當中先	不申	不申

東京株式（短期）

	五品	東新
寄	二二二〇	二二五七〇
引	不申	二二四九〇
高値	三三一〇	二二五九〇
安値	三三一〇	二二四六〇

大阪株式

銘柄	後場寄	後場引
大株	九〇五〇	九〇二〇
大新	七八九〇	七八八〇
鐘紡	二五三〇〇	二五二三〇
鐘新	一三〇九〇	一三〇二〇
日糖	六六三〇	六六三五
郵船	不申	不申
東新	一二五四〇	一二五一〇

橫濱生糸

限	後場二節
五月	一三一〇〇
六月	一三一九〇
七月	一三一三〇
八月	一三一〇〇
九月	一三〇七〇
十月	一三〇八〇

滿洲日報

關內出兵と東北四省の不安

諸方面よりの情報を綜合すると、蔣介石、馮玉祥兩軍の衝突は到底免るべからざるものであり、兩者の抗爭はいよ〳〵シーリヤスなものになつて來た。之に伴ひ張學良氏は、既に蔣介石の要求に對して、參戰承諾を與へたと云はれてゐる。而も、相當大規模なる動員計畫を進め最近開かれた首腦部會議に於いては、自重論者の意見を壓して、蔣介石氏援助、馮玉祥牽制のため關內に出兵し、以て平津地方の勢力を恢復すると共に、東北四省の積極的保境安民策を執るに決したと傳へられる。故張作霖氏ほどの統制力を以てせぬ學良氏が、亡父の力を以ほ蹉跌せる計畫を、再び踏まんとすることは、驚くべき事業であつて、東北四省の實に此に存すといはざるを得ない。

◇

今、これが風雲急なる關內の實狀に照して觀るに、非常なる政狀の變化のない限り、何人も容易に首肯し得るところである如く蔣石軍は今や、河南の馮玉祥軍と殆んど包圍の狀態にある。そのこれに對する戰略は兵站を顧みの調內線作戰あるのみで、マア最初に衝かんとするは山西なるべきは想像に難くない。それは山西の地形と地盤相接壤せる馮軍の前の關係から觀ても瞭かである。閻錫山は此爲め和戰兩策を講じつゝあるが、山西省內の爲めには平津地方駐屯の兵を省內に撤退せしめねばならぬとすると、平津一帶の實權は勢ひ馮玉祥と款を通じつゝある生智軍の掌握することゝなる。そして唐は蔣馮の戰の推移を中立的態度で洞ケ峠をきめこむ。馮有勢となれば馮に寢返りを打つことは消息通の推定するところである。蔣介石氏とてこれを知らぬ筈がない。茲に於て唐軍の津浦線方面移駐の電命となつたのである。

◇

今日の兵勢から觀れば、孤立無援の山西は結局馮軍の馬蹄に蹂躪さるゝこととなるべく、其結果は馮軍の京畿方面の侵入となるは自明の理である。斯うなると、さしづめ脅威を受くるは奉天軍である。馮氏を不倶戴天の仇敵とするは張作霖在世當時より今日に至るも易らぬ奉天のたて前である。それ故に奉天側の蔣介石氏との提携は必要以上に進められ、隣邦の忠告をも無視して易幟改制を斷行しこれが歡心を買ふに力め來つたのである。隨つて、今回、時局急變に際し蔣よりの關內出兵要求に際し張學良氏が一部反對論者の意思を抑へて承諾の意を表明せるも亦止むを得ざるところである。

◇

然るに、東北四省內の實狀はどうであるか。張學良氏は故張作霖氏の後を繼ぎて日尙淺く其絕對和平主義が纔に、四省官民の囑望をつないでゐるのであるる若しコノ官民の希望に反し、兵を動かし關內の戰禍に捲きこまるゝとならば、彼に對する信望は地に墜ち內部に動搖を來すべきは容易に考へ得らるゝところである。こは啻に奉票の暴落によるる經濟的の大混亂のみならず內政的に一問題發生せずには措かぬであらう。この時東北四省に特殊の利害關係を有する我が國の受くる影響また尠なからざるものがあるは自然の理である。而かも、コワ蔣氏の勝敗如何に拘らず當然來るべき東北四省の運命である。馮氏勝てば東北四省は、目前に馮軍の脅威を受け保境の爲めこれが東北四省侵入を防止せねばならず、蔣氏勝てばまた、東北四省と蔣派との關係は今日以上に緊密となり、事毎に蔣氏の牽制を受くることゝなるであらう。孰れにしろ、奉軍の戰禍に捲き込まるゝは、遲くも六月中と看做さるゝが故に東北四省の政治的乃至經濟的危機は目前に迫つてゐるものと觀て宜い。

満蒙鐵道驛傳競爭

快い四洮線の旅　窓外に展く興亡史

驛員は總べて日本語を解す

（第九信）鄭家屯にて　加藤白班選手

◇開原は昔草茫々の大原野であつたが、鐵道開通によつて奧地海龍城、掬鹿地方の大きな大豆の集散地を控へてグン〳〵發展し、今日ではむしろ鐵嶺を凌駕してゐると云はれてゐる、大豆、高粱さては玉蜀黍等の集散は恐ろしい數に上つてゐて從つて油房、精米業の發達は素晴らしい。其開原も夜の裡だ、列車は曉闇の中を北に〳〵と進み金溝子、馬仲河を過ぐ馬仲河は蒙古王達爾罕王旗下の領內で附近一帶は往時一人が都して殷賑を極め、元代に至つて征略されて驛の南方約二丁の邊に城壁の殘影を止めてゐるに過ぎない、昌圖此處も鐵道開通によつてふくれた街である

◇昌圖の驛に着いた頃東天がほのかに明る味を帶び出した、旅の夜明はしみ〴〵身に泌みてうれしいものだ、スル〳〵と夜の幕は揚げられて遠い所まで朝の空氣に濕んだ情景を見せてくれる、水氣を含んだアカシヤの密林、楊柳が朝風になびいてゐる莊家堡が朝の列車を見送つてゐる、競爭第二日目の行程に入つたのだ、事務車掌と色々話をする、氏は我白班の雄千田君を知つてゐる人で話は色々はづみ結局は競走の事に落ちて行く。

◇次は滿井、日露役の休戰の最前戰として西沙河子の塔塚を兩軍休戰條約會見所として有名である泉頭を過ぎ双廟子の名に懷しみを感じ桓勾子、牛哨を經て四平街に入る、私の大きな役目の一つがこの驛で果されるのである、六時十六分四平街着、驛の所在地は全く鐵道開通によつて開かれた新市街であつて滿蒙五鐵道の一つである四洮鐵路の開通と相俟つてその發展を促されてゐる

◇停車と共に懷しい滿日の小旗を持つて滿日支局長櫻井氏、販賣店の菊地氏等が出迎へてくれる、四洮線との間に五十分から暇があるので色々話し合ふ。

◇四平街から鄭家屯まで、私の責任コースはかくして漸次縮められて行くのだ、動搖の少い氣持の好い線路だ、それに驛員の殆ど總てが日本語を解する、一寸した事だが私に力を與へてくれる、此線は大正二年十月締結された滿蒙五鐵道の一つとして企畫され、翌年三月、四鄭鐵路局が生れて四年十二月正金銀行との間の借款契約によつて六年に起工同年十一月四平街鄭家屯の間に汽笛の勇ましい音が近郊の土民の眠りを覺ましたのである、四洮鐵路局の事務室で站長周寶學氏の證印を貰つて長い汽笛を五月の空に揚げて出發、泉溝を通過して八面城に入る

◇この八面城の名は形狀八角の蝙石碑が附近より發掘された爲に冠せられたものでこの八面碑は今遼代の遺蹟を知る貴重な參考資料として泉溝より東一支里の關帝廟に納められてゐる、窓外はやわらかい風が吹き通して窓外の風物は滿洲特有の變化のないものであるが赭い土にも青い草にも遠い丘陵にもそれ〴〵捨て難い趣きがある。

◇プラツトホームの短い小さい驛、曲家店に着いた時、村の童が石に板を敷いてギツコンバツタンやつてゐる、私は小さかつた頃、田舍でよくそんな事をして遊んだものだ遠い幼時の幻を再びこの汽車の中で想ひ出さうとは誰が豫期した事であらう、無心に戯れる子供等の健かに延びん事を祈り乍ら傳家屯を經て三江口に入る。この村は遼河の舟楫上特に重要地點として古時は頻りに荷物が動いた所であるが、今は淋しい街に化してしまつてゐる、丁度播種期なので只鋤の痕が農民の細いしかも撓まぬ努力の跡となつて歷然と目の續く限り印せられてゐる。遠い所で馬がいなないてゐる。

◇一棵樹を經て鄭家屯に入るプラツトホームに降り立つといづれも欽筋いかめしい驛員のみだ、ヤツト站長に會つて證明の印を貰ふ、そして直に午前十時發四平街行に移乘して三十分程發車を待つ、この間領事館より李といふ人が挨拶に來てそして云ふ「御成功を祈ります、この邊は雨が降るとすぐ水が出ますが、雨も降らず非常にうまく行きましたね」戻り道だ、歸りの心强さは又格別だ快く一眠り。

全身忽ち灰色に染まる　名物蒙古砂の本場

連絡不便な四洮、洮昂兩線

（第九信）洮南にて　秋山紅班選手

◇鄭家屯を離れる頃から車中は冷氣を加へ蒙古氣分が漂ふ、今まで呑氣に熟睡してゐた支那人等も毛布を引き出し、外套を被つて寢る、氣溫は餘程低くなつたらしい、加賀山局長一行のいびきは益々高くなり交響樂の行進で汽車は無心の曠野を走る、薄明の月も今は雲に閉ざされ、見渡す限りの天地に星の影さへ見えない、何と雄大なそして感慨の深いことだらう、ありし昔の蒙古民族の東征を夢に畫く

◇廿日午前六時十七分洮南車站に着す、西村洮南公所長は一行を迎へ公所特別の箱馬車で城內に向ふ、朝まだきに露さへないヒカラビタ砂塵埃は濛々として立ち、頸や手は灰を降りまいたやうに眞白くなる、コンサージの洋服が小倉の鼠服のやうに變る、これで雨でも降れば道は泥濘と化し客馬車の車輪は半沒すると云ふ、張海鵬と男はどうしたわけで斯んな邊鄙な處を選んで站を設けたものか、驛から城內まで約廿町ある、其間全くの草原でツンドラ帶を成した荒蕪地である、張海鵬の考へとしては其の土地の地價を吊り上やうとしたのであつたらしい、城門前で騎兵と重砲兵が操練してゐた、公所の雨夜君の話では毎朝五時頃から練兵をしてゐるとのことであつた。

◇洮昂線驛は城內より約十町の地點にあり四洮と聯絡をしないので旅客は一時乘替へをせねばならない斯うした不便を與へてまで鐵道の聯絡を避けてゐるのは普通の常識では判斷ができないのである、縱し有力者のために地價を左右し其れがため困るのは人民である、其ればかりでない驛傳リレーに立つて寸分を爭ふものにとつてこれ位馬鹿氣た鐵道はないと多少憤慨する、これが支那の支那たる所以だとあきらめることが矢張り沒法子なのであらう

◇公所で小憩の後入時三十分洮昂線に入る

洮昂線の洮南驛 ◇

八相　投書歡迎　新聞行數五十行以內のこと　中傷を目的とするのは採らず

交通事故の頻發に就て

運轉手　E W 生

最近頻々として起る交通事故の原因に就て私等が日常の實地經驗によりて得たるところを貴重なる紙面を拜借して市民諸彥の參考に供したいと思ひます、私は自動車だけの事故に就て述べることにしますが、大低の事故の原因は八割迄は法外な速度に據るもので殘りは運轉手の不注意と通行人の不注意で事故の原因は決して運轉手だけの不注意でなく全く双方共惡い例が多いのであります、市街地に於て直線な道路を規定外の速度を以つて走行中突然十字街路に於て横道より相當な速力を出して來た自動車、オートバイ、自轉車が直線道路を疾走して來た自動車の警報に氣付いて急にその場に停車出來得ればよいがその反對であるとすれば、直線行進中の自動車は速力が大であるから急に停車しやうとしても不可能である、此の樣な場合に依りて惹起する事故は双方共の不注意であります、又走行中の自動車が通行人の方に來るのを知りながらみす〳〵對側に横斷せんとするとき自動車の速度がなければそれでよいが、若しあつたとき隙いたらこれも双方の不注意が原因であります、殊に通行人は歩道を迪り横斷せんとするときは左右に兩眼を働かして横斷するに安全を確めてからでなければなりません、內地の日本人と比べると滿洲の人は大陸的なのんびりとした氣質があるやうで幾ら警報器を鳴らしてもすぐ避讓しやうともせず、閑氣に構へてゐる、殊に支那人に於て甚しいのであります、前に述べた通り八割迄は過速度に據りて起る事故としましたが現在の如くタクシー業者が激烈なる競爭を行ひ、勢ひ料金を値下げして一人でも多く客を拾收しやうとする結果料金が以前より安いから一回でも回數を增さんとする、增さうとするのがそも〳〵速度を出さなければならぬ原因となるタクシー業者もよくこの點に留意して事を處理しなければ事故は頻發するばかりである殊に技術不熟練、性質の惡い運轉手には成るだけ免許證を與へぬ樣にしてお互市民が一致して細心に注意しそして交通巡査がもう少し機敏に行動を行ひ、前記の事を實行したら交通地獄の大連市は明るい尤も安全な整然たる立派な街となるに相違ないのであります、ついでに警察當局にお願して置きたい事は、運轉手に免許證を交附するに本人の人格をも考慮してもらひ近來の就職難につれて知識階級者がこの方面に心ざし先天的不良な運轉手が漸減するだらうとは思ひます警察當局を初め一般社會に高潔な職業として認めて貰ひ殊に警察官吏の私等に對する行爲は傲慢侮辱であるからこれも矯正して貰らひたいのであります

哈爾賓を中心に長途電話を統一

哈爾賓に總局を設け四局を分局に改む

【哈爾賓】北滿における支那長途電話局には黑龍江長途電話局、吉黑長途電話局、哈滿綫長途電話局、東鐵長途電話局の四ケ所があつてそれ〴〵獨立した通信の系統をたてゝゐるため各局線とも連絡する方法なく頗る不統一のものであつたが蔣東北電政監督は今回の來哈を機とし右各局を同一系統の下に總括することゝなり常地電話局長光家楨氏を北滿長途電話局長に兼任せしむるとともに左記六項の規定を設けて實行することになつた

一、各長途電話局の名稱を取り消し哈爾賓に北滿長途電話總局を設け從來各地にあつた電話局は分局と改む
二、長途電話の連絡は哈爾賓總局を中心とする
三、商民は各局において自由に通話をなすことを得
四、各地電話局の分局は適當な地點に定めること
五、料金を制定すること
六、市內電話との接續をなすこと

赤化宣傳員を制限

【哈爾賓】浦鹽の赤化宣傳委員會は同會から各地に派遣する日、鮮、支の多數宣傳員が徒らに金錢を消費するのみか反對に買收される事が兩々あるに鑑み今回嚴重なる規定を設け派遣員の資格を制限する事になつたが其によると黨機關に五年以上の關係を有し正黨員となつてから三年以上を經過したもので農勞大學の出身たることを要し且旅費は百留を限度とすることになつてゐる

東鐵消費組合復活方を請願

【哈爾賓】綏芬河の東支鐵道消費組合及び海拉爾の東支鐵道商業部出張所は何れも不正行爲があつたので閉鎖を命ぜられてゐるが今回東支鐵道當局は爾後絕對に不正行爲をしないこと及び支那官憲の命令は嚴重に遵守することを條件としてこれが復活方を請願して來たので支那側では愼重審議の上許可する意向であると

けふの放送

簡易支那語會話

滿鐵學務課　秩父固太郎

第百課

1 您學話有幾年了　2 還不到一年哪　3 您能說的這麼好　4 不敢說會說　5 您學的眞快　6 沒有的話　7 大概的話都懂罷　8 現在還不行哪　9 您太客氣了　10 還得學幾年　11 用不了幾年　12 那能行麼　13 一定能行　14 恐怕學不好　15 您得常說常聽　16 那是好法子

（譯文）

1 貴方は語學を習つて何年に成りますか
2 まだ一年には成りません
3 貴方はこんなに善く話が出來られるのですね
4 話が善く出來るなどゝは申兼ねます
5 貴方は覺え方が速い
6 いゝえ、そんな事は有りません
7 大抵の言葉は皆判るでせう
8 今まだ駄目です
9 どう致しまして（それは御遠慮です）
10 まだ何年か稽古しなければ成りません
11 何年なんて掛かりませんよ
12 そんなで出來ますかね
13 屹度遣れます
14 多分善く覺えられぬでせう
15 貴方は始終話したり聽いたりしなければ不可ません
16 それは善い方法です

（語彙）1 講書　2 背念　3 歇　4 翻譯　5 演說

（新字）恐・常・講・背・歇・翻・譯・演（完了）

慢性的胃腸疾患特効藥

胃腸良藥

アイフ

急性胃加答兒　慢性胃加答兒
胃酸過多症　胃アトニー症
胃擴張　胃下垂症　慢性胃弱
初期胃癌及び胃潰瘍　胃痙攣
急性腸加答兒　慢性腸加答兒
大腸加答兒　慢性下痢　粘液性下痢　初期腸結核及び腸潰瘍　胃腸病より起る肺尖加答兒　食傷り水傷りより起る腹痛下痢
嘔吐等の諸症に最も卓効あり

慢性胃腸病にて

●常に食慾進まず胸先支へ嘔つき胃痛み
●下痢又は軟便にて大便に粘液を混じ
●腹はり放屁多くゴロ〱鳴り胃腸痛み
●胃酸過多症にて食前食後に胃部痛み
●下痢のため營養衰へ身体衰弱甚だしく
●元氣無く顔色悪しく物事を氣にし
●神經衰弱を起し氣短く夜熟睡を得ず
●衰弱のため肺尖加答兒を起し熱出で
●胃腸内壁のただれにて少しく飲酒や不消化物を食するも覿面下痢や痛みを起し
●重症にて下痢の際便に血液膿汁を混じ裏急後重を感じ胃癌又は腸結核等の疑ひある危險症には是非ともアイフを服用せられよ

アイフは胃腸病に對し最も親切に調劑せる良藥にして其の主藥は加答兒の原因たる腸胃内壁の爛れて居る部分に附着して創面に薄皮を張り炎症を鎭め粘膜を強壯にし粘液の分泌を減じ大腸に於ては硫化水素と化合し硫化蒼鉛となるから自然と胃腸の弛緩を引しめ蠕動を制し下痢を止め痛みを鎭静する特効がある。故に胃腸病者は此のアイフを内服すれば胃腸を健全にし食慾を進め血色を良し榮養の吸收を佳良にするから從つて體重著るしく增加し服用後目に見えて健康を回復し隨分の重症でも必ず滿足なる大効果を得べし。

藥價

普通アイフ	四日分　七十五錢	八日分　一圓五十錢	十七日分　三圓	四十五日分　七圓
重症用特製	十一日分　五圓	二十三日分　十圓	三十六日分　十五圓	八十日分　三十圓

本舗へ御注文の方は藥價を郵便爲替又は振替大阪三四五番順和公司へ御拂ひ込みあれば着金次第直に御送藥す

發賣本舗　順和公司

大阪市東區淸水谷西之町三六五番地
電話東五六四番・五〇〇二番・五〇〇三番
振替口座大阪三四五番

コドモページ 成績紙上展覽會

後悔

遼陽小學校尋六 松尾勝

昨日の事であつた。ろくにかみもしないで朝の御飯をすまして倉庫へ行き、鍬を持つて畠へと向つた。掘つては上げ、上げては掘りし、からうじて一うねはすんだ。鍬をそばに置いて休んで居るとお母さんが窓から「もつと深く掘らないとだめだよ」とおつしやつた。「もう一ぺん此處を深く掘るのか」とがつかりしながら再び鍬を掘つた。畠はすんだ。此度はぶらんこの方へ遊びに行かうと思つて玄關へ廻つた。すると二階の方で誰かがさうじをして居る。僕は靜ちやんだらうと思つて「一ついたづらをしてやらう」とひとり言を言ひながら土を二階の方へ投げた。すると誰も出て來ないのでもう一つ投げた。さうしたらお母さんが出てゐらつしやつて「今せつかくさうじをして居るのにきたないじやないの」とどなられた。僕は「電信柱へ投げたのだよ」と言つた。「あゝ僕が惡かつた」と思つた時もうお母さんは其の場には居らつしやらなかつた。

かへる

金州小學校三年 山本嘉與子

此の間私が川さきさんとあそんで居ますと、にいやんが大ぜいあつまつて、何かして居ました私はふしぎに思つて川さきさんと行つて見ますとどうでせう、かへるがひもにむすばれてゐます。そのよこでにいやんが石をなげつけて居ます。私は生ものをころしたり、いぢめたりするやうなものはろくな人にはなれないと書いてあつたのをかんがへました。そして私と川さきさんとにいやんたちがのいてからかへるをたすけるのをそうだんしてゐますと、そこにおさむさんが來て「何をしてゐるの」とき〻ました。それで私がそのわけを話しますと、おさむさんも一生けんめいにかんがへてゐました。私はふとかんがへました「あのね、いい事があるのよ、かへるのひもを切つてやつて、どこかにいやんの見つからない所にかくしておいたらいいぢやないの」と、いひました。みんなが「そうね」といひました。それでおさむさんがないふを持つて來てかへるのひもをといてやりました。そしてかへるのおうちを石でつくつてやりました

しんだい

大廣場小學校三年 大藤菊枝

私は皆さんにおくられてお船に乗つてみるとびつくりしました今まで見たことのないしんだいがあります。そのしんだいにはカアテンがあります。それに上と下とあります。上に上る時ははしごをかけて上ります。私はしんだいにねるのをたのしみにして居ました。まもなく夜がきました。私はうれしくてたまりません。ねまきを着てはしごをかけて上りました。そしてカアテンをあけたりしめたりしましたので、お母さんが早くねなさいとおつしやいました。私はそれからすやすやとねむりました。十二時ごろやすちやんがやかましくいつたので目がさめてこまりました。私は朝、お母さんに、しんだいがよくてもねむられなければつまらないねといひました。私はしんだいでねるのがすきでした。

小平島遠足

松林小學校六年 月成靖

「ヤアー小平島が見える」皆は一度に元氣づいた。旅大道路から左に折れると、急に道は惡くなつた。支那の部落を通りぬけて山路にさしかゝつた。さつき通つて來た部落が箱庭の様に見下される。右手を見ると十數丈のだんがい絶壁である。波が白ぢやの様にうねりうねつて岩にぶつかつてゐる。山の頂きにたどりつくと、さつきまで暑かつたのに太陽の熱が急にゆるくなつた様だ。一町先に一つの大きなヘゲ島がある。上が平で航空母艦の様で面白い島だと思つた。はるか水平線上に見える白帆の影もきれいに晴れわたつた春の空に浮んでゐる。すべてが生き生きとしてのんびりした氣分はこゝでなければ味ひ得ないことでせう。町の黄塵や騒々しい電車のひゞく音もなく自分等の心のたましひまで洗ひ淸められた

靜物(油繪)

大廣場小學校六年 緒方一美

アルノ日ノオサンポ

伏見臺小學校尋二 外松ミツ子

私ハ オトツイ オトウサント ネエサント フトウノハウニ サンポニイキマシタ。フトウニイツタラ 大キナフネガ ナンゾウモアリマシタ。私ハオトウサンニ「アレハナントイフフネデスカ」トキキマスト オトウサンハ「ハルピンマルダ」トイヒマシタ。私ガ下ヲヨクミルト フナノリサンガ イソガシサウニ ハタライテヰマシタ。私ハ ナニカタベタクナツタノデ オトウサンニ「シナリヤウリガタベタイ」ト イツタラ オトウサンガ シナリヤウリヤノハウヘハイツテイキマシタ。中ニハイルト ブタマンジユウノ ニホイガシタノデ私ハ「アアイイニホイ アアイイニホイ」トイヒナガラ ズンズン中ニハイツテイキマシタ。オトウサンハ「ブタマンジユウガホシイノ」トイツテ 私ノカホヲミテワラヒマシタ。ネエサント私ト二人デハイルト ボーイサンガ「イラツシヤイマセ」トイヒマシタ。ソレカラオトウサンガニイヤンニ「ヤキソバー ツトブタマンジユウ一ツクダサイ」トイヒマシタ。ニイヤンハ「ハイ」トイツテモツテキマシタ オトウサンハ「サアタベヨウ」トイヒマシタ。私タチハタベハジメマシタ。ミンナタベテシマフト オトウサンガモウカヘラウトイヒマシタ ソシテ マチヘイツテクリヲオミヤゲニモツテカヘリマシタ

かなりや

松林小學校三ノ三 篠田美智子

私のうちには一羽のかなりやがかつてあります。それは、お父さんがりいさんといふしなじんにたのんで、てんしんからかつてきたのです。それから二三日ばかりたつと、もう私によくなれたとみえて、私がえをやらうと思つてかごの戸をあけるとそのそばでまつてゐます。そしてよくなれた上大へんよくさへづります。お母さまは「ほんとうに此かなりやはかわいいね」とおつしやいました。毎日私が學校からかへるじぶんには、その美しいかなりやのこえがきこえます。私は小鳥の中でかなりやが一ばんすきです。

てふてふ

金州小學校尋三 加藤秀太郎

學校からかへるとちゆうでてふてふがひらひらとんでゐた。僕は小山內君に「てふてふがとんでゐる」といつた。小山內君と僕はてふてふを取らうとした。僕はぼうしをぬいでてふてふめがけてなげつけたがてふてふは向ふにとんで行つてここまでお出といふやうなかつこうをしてゐた。僕は又おいかけた。ぼうしで取らうとしてぼうしをくるくるまわした。するとてふてふがぼうしの中にはいつた。「うまい」と思つたらにげてしまつた。ちよつとよこを見ると田中君たちもおひかけてゐた。向ふの方では出なべ君もとろふとしてゐた僕はきつくなつたので小山內君となかよくかへつた。

童謠

ひよこ

大廣場小學校二年 二瓶きよこ

ひよこひよこ
かはいいひよこ
とうさまかあさま
よろこんで
うちのひよこは
かはいい子ども
ぴよぴよたけよ
かはいいひよこ
こ米をやりませう
なつぱもやりませう

ひよこひよこ
こやはどこだ
こやはここよ
とうさまかあさま
どこにゐる
とうさまかあさま
はたけにゐるよ
はたけはどこぢや
むぎのそこよ
ひよこひよこ
かはいいひよこ

ほんとにすずめは
かはいいな

こひのぼり

大廣場小學校二ノ二 堀義彦

こひのぼりは
いさましい
一ばん上が
やぐるまだ
そのつぎながい
ふきながし
まごひとひこひが
あがつてる
風をたくさん
のみますと
まるまるふとつた
こひになつて
からだをゆすつて
およぎます
ちつとも風が
ないときは
ぴちやこやせて
およがれない
おなかがへつて
およがれない

お日さまと子牛

大廣場小學校二年 弟子丸李枝

日ながのお日さま
ねむさうだ
もうもう小牛も
ねむさうだ

すずめ

大廣場小學校二年 金子隆之助

すずめがちいちく
ないてます
ちいちくちいちく
ないてます
ほんとにすずめは
かはいいな
ぼくらがくちぶへ
ふいたらば
すずめもいつしよに
ちいちくちゆう

キンギヨ

大廣場小學校一年 村田知子

マイニチマイニチ
キンギヨウリ
キンギヨヤキンギヨト
ウリニクル
アカイクロイ
タクサンノ
キンギヨハユラユラ
オヨイデル

もくれんの花

大廣場小學校二ノ二 森照男

白い花の木れんが
僕のお內にさきました
とてもきれいで
うつくしい
六つひらいて
あと二つ
つぼみは
明日さくでせう

愈よけふ八丈島へ 聖上、東京驛御發輦

午前八時十五分發特別列車で 横須賀で『那智』に御移乘

【東京二十七日發電】天皇陛下にはいよ〳〵二十八日八丈島、大島をはじめ大阪、神戸に行幸あらせ給ふ。此の日陛下には午前八時五分宮城御出門特別宮廷列車で八時十五分東京驛御發九時四十分横須賀着、軍艦那智に召され十時四十五分皇禮砲轟く中を八丈島へ向はせ給ふ、八丈島着御は卅日の御豫定である

陛下は御上陸後四里半を御徒歩にて御縦斷あらせられる、陛下には「ありの儘の島の姿を見たい」との御内意を傳へさせられた由で殆ど原始の儘なる島の姿を御覽に入れる事となつた、尚陛下は背廣の御服裝に中折の御輕裝に替へさせられ三原の嶮岨を

御登攀

遊ばされるが、三原御登山の砌は御說明役として中村東大理學部長が選ばれた、同氏は大島研究の權威である、又中泉青山師範教諭は大島で採取の博物標本を天覽に供する外、元村では島の女四名に島特有の情緒ある大島節を唄はしめ御輿を添へ奉ることになつてゐる

情緒に富む 大島節を天聽に

島人行幸を待侘び奉る

【大島元村廿七日發電】行幸を仰ぐ大島では椿の花は散つたが総葉の眞赤な花がこれに代り緑蔭には大島櫻の實が枝もたわわに稔つてゐる、緑を嚙む白浪の碎ける中を島人は奉迎

準備に、忙はしい一船毎に降りる人の數は增し元村四軒の旅館は既に滿員で島は未曾有の賑はひを呈してゐる、大島御上陸地點は當日の天候に依り決定するが

感激にみちた 美しい集り

少年東郷會發會式に 老元帥の珍しい演說

【東京特電二十七日發】海軍記念日の二十七日午後、少年東郷會發會のため都下小學校二萬の兒童が日比谷公園新音樂堂に老元帥を迎へて感激に滿ちた美しい集まりを催した、爽かな初夏の風に萬國旗が勇ましくはためき渡る、三時五十分水交社に於ける記念式を終つた元帥は

怒濤の様な萬歳を浴びながら式場到着、やがて小笠原長生中將の紹介でマイクロホンの前に立ち、めつたに聞いたことのないあの重い口を徐ろに開き意外な程元氣な聲で

少年諸君、諸君はお上のために日本國家を背負つてたたねばなりません、忠孝の二つを心がけ學問を勵み體を大切にして立派な人になつてほしい、力や才があつても誠の心が缺けてゐては眞實の御奉公は出來ません、どうぞ誠の道を踏違へない様に進んで下さい、これが東郷が心から諸君に希望するところであります

と父が子を諭すやうに諄々と語る滿場水を打ちたるが如く靜まりかへつて

食入る

様に耳を傾けた小日向小學校五年生小池君がはきはきしたよい立派な答辭を述べると、元師の面にはうれしさうな微笑が浮んだ、日露戰役當時三笠の一等水兵だつた加賀谷啓介氏は態々秋田から上京、元師の姿を眺めて「ちつともお變りはありません」と感激の涙を流してゐた

春日池で模型艦二隻爆破

海軍記念に相應しい催し

昨二十七日は海軍記念日なので各方面に於てこの佳き日をさまぐな催しごとで祝つたが、殊に當日午後一時五十五分即ち日本海々戰に於て「皇國の興廢この一戰にあり」と云ふ信號を發した時刻、市內春日町春日池に於ては海軍協會の軍艦模型爆沈が行はれると云ふので池畔には觀衆約一千名が集つた、軈て二時頃となるや灰色に塗られた長さ一間位の模型艦二隻が池のまん中に浮べられた、この二隻の船底にはダイナマイトを仕掛け電流を通ずるや轟然たる音響と共に模型艦は沈沒した、並居る觀衆はやんやと拍手、海軍記念日らしい催しごとであつた

—壯快なる軍艦模型の爆沈—
きのふ海軍協會が春日池にて

呉竹仙史の力作

古い自由黨の人、天覽富嶽描きの書家、康有爲亡命で山縣老公に長詩を送つて痛棒を喰はした快男兒、京都書壇の大御所安田呉竹仙史は過般來遊約一ケ月の豫定で遼東ホテルに滯在中である——寫眞は山本滿鐵社長に贈つた得意の二行書六十六翁尙鑒鑠鐵宕の老手流石に天下の珍である

春似春山千載秀 德如滄海萬年涓
　　山本大人雅正　呉竹仙史

聯合軍樂隊 勇しく行進

きのふの東京

【東京廿七日發電】日本海大海戰二十五周年記念日に當る二十七日靖國神社では午前十時半より記念祭執行、竹田中佐の率ゆる陸戰隊一個大隊三百五十餘名及び横須賀鎭守府及び第一艦隊の編成する聯合軍樂隊百餘名は神前で捧銃の拜禮を終つて市中を勇壯なる軍樂行進を爲した

兵卒給與が 月額一圓の增加

教科卒は一圓廿五錢增し 四月に溯つて支給

【東京特電二十七日發】第五十六議會の協贊を經た陸軍兵卒增給勅令は廿七日を以て公布されたが之によると增額豫算は二百四十萬圓で給與令改正の主なる點は次の如くである

一、增額（月額）

下士勤務上等兵の六圓を七圓に上等兵及同級の五圓四十錢を六圓四十錢に、一二等及同級の四圓五十錢を五圓五十錢に、教科卒の一圓五十錢を二圓七十五錢に改正す

一、支給日の變更

從來下士に對しては兵卒同樣十日毎に支給したのを毎月一回とす

尙此の勅令によれば增給は四月一日に溯ぼることになつてゐるので全國各部隊の兵卒は今月末四五兩月分の增額を併せて支給される

神宮奉唱歌

內務省で募集

【東京廿七日發電】內務省は今秋神宮式年御遷宮を機會として神宮奉唱歌を一般から募集するに決定した右奉唱歌は今後神宮參拜其の他神宮式日に國民に奉唱せしむるものであると

古物屋さんが

節約の申合せ

大連古物商同業組合は百餘名の組合員を擁してゐるが今般左記の通り生活の改善を期せんがために虛禮と冗費を省き出來得る限り節約する事を申合せた

一、組合員は中元、歲暮等の贈答を一切廢すること

一、組合員が當地を引揚ぐる時の外一切金品の餞別をせぬこと

一、組合員又は其の家族にして不慮の災害若くは重病に罹り貧困のため治療の資なき場合、役員は慎重調査の上救濟の方法を講ずること

一、葬儀は質素を旨とし供花、放鳥、香典返し等の虛禮を廢すること

グラウンドを 交換して練習

實業滿俱では各自ホームグラウンドで練習してゐるが、例年のごとくグラウンドを交換して練習することゝなり、廿七日から滿俱は實業グラウンドで、實業は滿俱グラウンドで各〻練習することゝなつた

早大大勝 加大との野球

【東京特電二十七日發】カリホルニヤ對早大第一回野球戰は廿七日午後三時より神宮球場にて横澤（球審）天知・池田（壘審）のもとにカリホルニヤ先攻で開始したが・二〇A對零で早大大勝す・バツテリーは加州ジ・エコブ・ソンパワ・ワイヤツト・早大清水・多勢・伊丹・閉戰五時十分

法政軍惜敗す

【ホノルル特電二十六日發】本日法政對ハワイ大學との野球試合は三對二で法政惜敗した・法政バツテリーは田村・藤田尙は藤井は練習中飛球が目に當り負傷した

巡警と群群集が 鮮人に暴行

小山軍曹顏に受傷 廿六日柳條溝にて

【奉天特電二十七日發】廿六日午後四時頃瀋海線の踏切地點に近き柳條溝の我守備隊分遣所附近で一名の鮮人が煙草の行商をしてゐると支那巡警が煙草を買つて代金を拂はぬので口論から摑み合となつたが忽ち附近から支那人が群集して大騷ぎとなり、煙草行商の鮮人は袋叩きにされ援助に向つた東亞勸業公司の小作人李參玉（五三）も暴民のため毆打されて後頭部其他に重傷を負ひおまけに所持金七十七圓四十錢まで强奪された、急報により奉大署から大竹警部補外八名の警官及び守備隊からも小山軍曹外兵數名が現場に赴いたが群衆は尙戰鬪を續け小山軍曹は投石に當り顏面に負傷し、漸く鎭撫した時は前記巡警も煙草賣も孰にか逃走した後であつた

滿鮮を股にかけ 利權詐欺を働く

名士の名を利用して 警視廳の手に捕はる

【東京二十七日發電】警視廳の渡邊警部は二十七日大磯から實業家と稱する田野豐（五三）を引致取調を開始した、同人は數年來田中首相、一木宮相、山本滿鐵社長その他セミヨノフ將軍等の名を利用して內地、北海道はもとより滿鐵關係方面、朝鮮等に於て名も無い利權を持廻り詐欺を働いて居たものでその被害額數十萬圓に上つてゐるが、更に數年前に前運羅公使

金儲けの名案

早く御覽！『金儲けを見つける座談會』福澤桃介氏等財界お歷々の金儲け話公開！講談俱樂部六月號の特別大記事で大變な評判！

滿蒙日本人紳士錄

昨日より配本を開始 豫約お申込みの順に配達

本社編纂の滿蒙日本人紳士錄は愈昨日製本出來したるに付き、豫約お申し込の順に依り順次に配本いたします、豫約金五圓は配本と引替に頂きますから、お留守居にても判る樣に御配慮を願上ます。そして成るべく釣錢のいらぬ樣御用意下さい。非常に多數の豫約がありますのと毎日の製本出來高に限りがありますから、昨日配本を開始しても最後の配本を終りますのは六月中頃であらうと思はれます。豫約申込みの遲かつた方は其頃まで御待ち願ひます。

滿洲日報社

亡き戰友を偲ぶ

在鄉軍人會弔魂團一行 來る三十日夜、旅順から來連

帝國在鄉軍人會弔魂團一行八十名は安藤滿洲中將引率の下に來る三十日午後十時三十分旅順より來連關東軍庫に一泊、三十一日午前十時中央公園忠靈塔に參拜、正午星ケ浦樂天閣に於ける大連武官署長招待の午餐會、午後六時より大連市長主催の奉華樓の晩餐會に列席三十一日出帆の陸軍御用船海籍丸で內地に向ふ豫定である

藤井家慶事

大連民政署庶務課長藤井唐三氏令妹とし子孃は今回中西滿鐵地方課長の媒酌で滿鐵人事課員古賀叶氏と婚約成り二十八日午後二時大連神社で華燭の典を擧げ午後三時よりヤマトホテルで披露宴を催す由、新郎は大正十四年出の帝大卒業、新婦は大連高女卒業の才媛であると

橘高廣氏歡迎會

映畫評論者家として知られたる警視廳檢閱係長警視橘高廣氏の歡迎會が二十七日夜六時半から滿鐵情報課主催で電氣遊園[illegible]瀛閣で催された、情報課より石本憲治、青木源之助、石原巖徹、芥川光藏、中山晴夫氏等、大連署檢閱係今井民造、本社山口海旋風等の諸氏出席含畜あり興味ある映畫談、深刻なる特殊犯罪談等に關する歡談を交はし九時散會した

常識講座計畫

社會館で準備中

大連市立社會館では一般市民の健全なる常識の發達を期する爲め今後毎月乃至隔月各方面專門家或は學者に依頼し學術、經濟、時事問題、文藝等に關する常識講座を設くべく目下之が具體案につき協議中であると

滿日社友會

廿九日に開催

嘗て滿洲日日新聞に在社した人々によつて組織された滿日社友會では二十九日午後六時から市內扇芳亭で懇親會を開く筈（會費五圓）

貔子窩に水道

水に惠まれぬ貔子窩にもいよ〳〵水道を引く事になり二十八日午後一時半より同地避病院跡で上水道新設工事の地鎭祭を行ふに決定した

支那遊廓火事

二十一日午後一時四十分ごろ市內淺間町三番地飲食店主王局玉方臺所より發火、同家を全燒して料理店十一號に延燒せるが消防隊の活動により一戶全燒二戶半燒にて二時十分鎭火した、賑やかな支那遊廓地帶とて一時はなか〳〵の騷ぎであつた、原因損害等目下取調中

又た偽藥被害

既報偽醫師の藥賣被害が本日も亦屆出があつた——市內惠比須町五八番地表具商東市平妻タカ（四五）が十九日午後二時頃一人で留守居中を訪れ言葉巧に血の道の藥と稱し佐賀報製劑研究所發賣のオルミン長崎シーボルト製藥所製の刺傻を賣付けたものである

某氏と共に武器の密輸をしたことが判明し一時滿鮮に姿を晦ましてゐたものである

けふのラヂオ

昭和四年五月廿八日（火曜日）

自午前十一時 相場（特產、錢鈔、株式、各地相場）

自午後〇時三十分 相場（特產、錢鈔、各地相場）ニユース

自午後三時三十分 相場（特產、錢鈔、株式、各地相場）ニユース

自午後七時三十分（海軍記念放送）

一、ニユース

二、支那語講座 簡易支那語會話 滿鐵學務課 秩父固太郎

三、浪花節 五郎正宗孝子傳 桃中軒菊水

四、民謠 （一）白頭節（二）安來節（三）都々逸（四）五ツ節 桃中軒菊水、三味線百合子

五、支那劇 珠簾寨 沛東俱樂部員

六、料理獻立

七、天氣豫報

八、ラヂオ體操

公示催告

大連市西公園町四十九番地 滿鐵社員消費組合本部 申立人 元木照五郎

目錄

一、證券ノ種類及番號 船荷證券壹通外第貳〇參號

一、證券發行日附 昭和參年拾貳月參拾日

一、船舶名稱 香港丸

一、發行人及證券作成地 商船株式會社大阪支店、大阪市

一、船積港 大阪

一、荷送人 田村駒商店

一、荷受人 滿鐵社

一、陸揚地 大連

一、品名及數量 綿布 壹部

一、價格 金七百八拾七圓五拾錢也

右證書ニ付キ前記申立人ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲シタルニヨリ其所持人ハ昭和四年十一月三十日午前九時迄ニ當法院ニ權利ヲ屆出テ且ツ其證書ヲ提出スヘシ若シ右期日迄ニ屆出及ヒ提出ヲ爲サヽルニ於テハ其無效ヲ宣言スルコトアル可シ

昭和四年五月二十五日

關東廳地方法院

公示催告

大連市寶町一番地同泰油房事務所 申立人 姜西亭

目錄

一、證書種類及番號貨物引換證レ第七〇參號

一、發送人及荷送地 東永茂、開原驛

一、到着地 同泰油坊、大連埠頭

一、證書發行所 開原驛

一、證書及許送發行年月日 昭和四年五月拾九日

一、品名 金元大豆（麻袋入）

一、數量 參百五拾袋（四九、七〇〇斤）

一、價格 金參千圓也

右證書ニ付キ前記申立人ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲シタルニヨリ其所持人ハ昭和四年十一月三十日午前九時迄ニ當法院ニ權利ヲ屆出テ且ツ其證書ヲ提出スヘシ若シ右期日迄ニ屆出及ヒ提出ヲ爲サヽルニ於テハ其無效ヲ宣言スルコトアル可シ

昭和四年五月二十五日

關東廳地方法院

本社懸賞當選小說

人生の曲藝（143）

（禁無斷上演）

瀨野皓太作　淺枝次朗畫

ホテル、オブ、ミラクルス（一）

諸君よ。この長々しく而も興味あり氣に見えて實は退屈極まりない物語りを、若しも氣永に忍耐強くお讀みになつた讀者諸君に對して、私は汗顏、尙足らざる思ひでお詫をしなければならない。と、言ふのは、この物語の冒頭において、不思議な慘死を、哈賓賓は松花江の氷上にとげた妖艷無比、名聲赫々たる東京劇場の花形女優葉山百合子が殘して行つた數々の疑問に對して、殆ど何一つとして適確な答へを與へてゐないからである。

諸君は徒らに、內村信策を中心とする十有五年の歷史をたゞ、かの冒頭の不思議な事件の解答を與へられるべき期待のもとにお讀みになつたとすれば、たゞ失望を、そして、より不可解な新しい數々の疑問をさへ負はされて來たのであつた。

葉山百合子は、恐らくは內村が探し求めてゐるかの「罹紅玉」の更生の姿であるかも知れないと思はれるふしも有るし、そして又、その昔旅順の法文科大學の若い學生たちの所謂「我らの太陽」カフエルミの女主人公日下部麗子の後身であるかも知れないと思はれるふしもあるし、そして又、この二人には更に關係のない別の不思議な女性であると思はれるふしもあるし……

さて、この疑問のまゝに、漸く吾らは哈爾賓の怪奇なホテル、オブ、ミラクルスへ話を戾さねばならないのを遺憾とする。

あゝ、シャンデリヤは力なく曇り、人のいきれは臊臭となつて大ホールに鬱積する。煙草の匂ひ、香水の波、それらは今や殆ど魅力なきまでの力弱さだ。

「妖星は墜ちた」

語られる言葉のうちには醜穢な皮肉と、あくどい興太が交じへられるだけだ。

この一月ばかりの間、葉山百合子の美しさに君臨された蠱美あるホールの群衆は、一度その女王を目失へば、又もとの亂痴に歸つて了つた。

「お前らは向ふへ行つてろ。俺には考へ事があるのさ」

若い露西亞青年は、群り寄つて來る踊り子たちを押しやらうとしてゐる。

「あら、考へ事だなんて、こゝではそんな陰氣な事はやらないものよ」

脂粉の化物が青年の力に立てついてゐる。

「煩せえな。俺はお前見た樣な化物は厭だつて事さ。俺はな、もつと素張らしい事を考へてるんだぞ素張らしい事を」

あゝ、この青年でさへ醉ひ痴れてゐるのだ。

「まあ、耳寄りた話だわ。その素張らしい事つてのは？」

「ふん、吃驚するな。あしたお葬式に出かけ樣つてんだ」

踊り子たちは顏を見合せたが、その意味を解しかねてゐる樣だつた。

「綺麗な娘さんのお葬式にな」

「まあ、この人も思召しがあつたのだとさ」

踊り子たちは笑ひ崩れて了つてゐた。

けれども、この踊り子たちの笑ひを、蒼白く醉ひ疲れた耳にまるで氷の樣に聽いてゐる中年の婦がゐる。

昨夜、百合子と盃をから合はせて健康を祝しあつたあの不思議な出來事。そして、生涯たつた一度だけ自分の身の上話をする氣になつたあの妖艷な日本婦人の俄な奇禍を、彼女は蒼白い耳と眼に受けてゐるのであつた。

醉ひ疲れてはゐても、この豚の如き婦の心には好さが溢れてゐる而も、それは〻昨夜の百合子の言葉この方の好さであつて見れば彼女の酒は、もうそれ以上心には廻らない。

「あの心の美しい方をそのまゝ死なせでもすれば……」

ほんとに心は暗くはなるのだ。が、その時は午後の二時。百合子が、口のうちに二度ばかり「罹紅玉」、罹紅玉」と叫んで死んで行つた、丁度、その刻限だ。

「胸さわぎのすること」

その婦を捕まえてゐるのは、おゝ、こゝにも人生は曲藝をつゞけてゐる、かの支那陸軍將校ではないか。

新刊紹介

▲優生學（五月號）兵庫縣武庫郡香爐園森具六六七七日本優生學協會（定價三十錢）

▲海防（五月號）東京麴町區丸の內一丁目六番地海上ビル海防義會（定價二十錢）

▲情熱的論理（北村雙子著）若き著者の隨筆集である、著者は大阪育ちの才女である、一種のあくどさはもつてゐるが女性にしては持ち過ぎてゐる雜識と明快な文章とは一般に推奬されてゐる（四六判六〇四頁金一圓八十錢）東京麴町下六番町平凡社

▲東北四省政局の現狀（園田一龜著）東三省に國民黨の勢力が侵入するにいたつて以來最近にいたるまでの東三省政局の概要を說明し各主要機關の組織を揭げてゐる、知られてゐるやうで知られてゐない事情の解說で滿蒙をみるものゝ好參考書である

▲衞生長壽法（三宅秀著）八十二歲の著者の長壽法研究であるがいはゆる長壽法の秘訣秘法と類を同じくするものではなく總べて統計上の事實を根據として內外の資料によつて爲された衞生長壽研究である（菊判布裝四〇八頁金二圓五十錢）東京神田富山房

▲人間不滅（石川千代松著）動物學の泰斗たる著者の隨筆集でその專門的見地から高遠な研究を極めて分り安く說いてある。內容は人間の系統、本性、生死、遺傳、進化等の問題を初め婦人問題、教育問題、歐米巡遊記、動物學の先覺者の評論等多方面にわたつてゐる（總クロース四六版五四〇頁金二圓五十錢）東京日本橋萬里閣書房

▲情熱時代（三上於菟吉著）短篇集、情熱時代、毒草、或る無理心中の話、秋の一日、女よ爾の胸は錢だを收めてある（四六判四五二頁金一圓三十錢）東京麴町下六番町平凡社

▲朝鮮消防（五月號）朝鮮總督府警務局內朝鮮消防協會（定價十五錢）

▲祖國（六月號）東京市外千駄ケ谷町千駄ケ谷五六二學苑社（定價五十錢）

▲露西亞事情　東京芝區新橋驛烏赤口角露西亞通信社（定價廿錢）

六月川柳課題

六月五日〆切「ベール」　引野のぼる選

六月十日〆切「旅」　橫田和泉選

六月十五日〆切「茶柱」　高橋月南選

△一人五句限り用紙ははがき別記

滿日社文藝係

大連汽船出帆

●青島、上海行
奉天丸　五月廿九日前十一時
天津丸　六月一日前十一時
大連丸　六月四日前十一時

●天津行
長平丸　五月卅日前十一時
天潮丸　六月二日前十一時
濟通丸　六月四日前十一時

●登州府、龍口行
龍平丸　五月廿七日後六時

●安東行
濟通丸　五月卅一日後六時

●名古屋行
第六大星丸　五月廿八日

大連汽船株式會社
電話番號代表四一八五番
專屬荷取扱店（大連市敷島町）
永和公司
電話七二一七五・七八六八番

社船大連出帆

●鹿兒島三角行
廣發丸　六月一日

●日本海行
春丸　六月十五日

●龍口行
南都丸　五月　日

大連市山縣通一二九
栃木商事株式會社大連出張所
電話七四一八番

政記輪船出帆

順利號　五月廿八日營口行
福利號　五月廿八日營口行
得利號　五月廿九日芝罘行
有利號　五月卅日龍口行
永利號　五月卅日芝罘行
全利號　五月卅一日通州行
同利號　五月卅日芝罘行
恒安號　五月卅一日芝罘行

政記輪船股份有限公司
電話四一四一番

島谷汽船大連出帆

●南鮮裏日本各港函館小樽行
鮮海丸　五月卅一日
大成丸　六月廿十日

●寄港地鎭南浦、仁川、群山、木浦、釜山、浦項、萩、境、宮津、舞鶴、新舞鶴、敦賀、伏木、函館、小樽

●南鮮裏日本北海道樺太行
長成丸　六月十五日

●寄港地　鎭南浦、仁川、釜山、舞鶴、敦賀、伏木、新潟、函館、小樽、大泊

●各等客室設備あり

島谷汽船株式會社大連出張所
大連市山縣通一五三
代理店　大三商會
電長四七一一・三四八二・六二三三

高橋汽船大連出帆

●芝罘行　大連芝罘間定期船
衞籌丸　五月廿八日午後六時

大連加賀町三〇
代理店　鹿玉軒記
電六一一七・三八五一

滿洲日報新聞工場用
電話二一三一四番

大阪商船出帆

●門司神戶（大阪行）午前十時出帆
ばいかる丸　五月廿九日
はるびん丸　六月一日
うらる丸　六月四日

●香港
丸　六月七日

●上海福州基隆高雄行後三時出帆
長沙丸　六月五日

●朝鮮經由長崎鹿兒島行
福建丸　六月十六日
盛京丸　六月廿六日

●北米シヤトル、タコマ行（上海神戶四日市橫濱經由）
關東丸　六月十二日
ありぞな丸　六月八日

●紐育行（神戶四日市橫濱經由）貨物
はゝな丸　客お斷り

●歐洲行（上海香港新嘉坡經由）貨物
あんです丸　七月十七日
客お斷り　五月三十日

●天津行
武昌丸　六月一日前十一時
貴州丸　六月八日後五時
河南丸　六月十五日正午

●橫濱直行（後三時出帆）
河南丸　五月卅日
武昌丸　六月七日
貴州丸　六月十四日

大阪商船株式會社大連支店
電話四一三七番
專屬船客案內所滿洲旅館協會
信濃町遼東ホテル內電四一三一番
乘船切符發賣所　大連市伊勢町
ジヤパンツーリストビユーロー
大連案內所電五五五四番

國際運輸株式會社大連支店

專屬荷客扱店（大連市山縣通）
電話三一五一番
大山通り列符發賣所電七〇三四番
沙河口切符發賣所・東來洋行內
電話九五〇六番
二ホーム荷扱所
電話四八〇二番

日清汽船大連出帆

●青島、上海行午前九時出帆
華山丸　五月卅一日
唐山丸　六月八日

代理店　大阪商船株式會社大連支店
電話四一三七番
專屬荷客扱店（大連市山縣通）
國際運輸株式會社
電話三一五一番

阿波共同汽船

●芝罘、威海衞、青島行
第十六共同丸　五月卅一日後七時

●芝罘、威海衞、青島行
第廿一共同丸　五月廿八日後七時

●芝罘、威海衞、仁川行
第廿六共同丸　五月廿九日後七時

●鎭南浦行
長山丸　五月卅一日

滿鐵とは貨物連絡取扱致候
大連市山縣通二〇〇番地
阿波國共同汽船會社
大連支店
電長六八九一・五〇〇一番

日本郵船出帆

●歐洲行
松本丸　五月卅日漢堡行
鹽播丸　六月十九日漢堡行
敦賀丸　七月廿五日漢堡行
だかあ丸　六月六日孛浦行
だあばん丸　七月二日孛浦行

近海郵船大連出帆

●長崎、神戶、大阪、橫濱行
玄武丸　五月卅日
勝浦丸　六月廿一日

●橫濱行
相模丸　六月八日
淡路丸　六月十四日
玄武丸　六月廿九日

●天津、牛莊行
相模丸　五月卅一日
淡路丸　六月六日
勝浦丸　六月十三日
玄武丸　六月廿一日

●基隆、高雄行
第二蓬老丸　六月六日

朝鮮郵船大連出帆

●青島、仁川行
會寧丸　六月八日

●仁川、長崎、鹿兒島行
羅南丸　六月一日

朝鮮鐵道各主要驛及本社各寄港地物受證發行
右汽船出帆日時は天候其他の關係により變更する事有之候
水路圖誌（海圖）販賣所
朝鮮郵船株式會社大連代理店
近海郵船株式會社大連代理店

日本郵船株式會社大連出張所
大連市山縣通電話三七三九・七八四六番
專屬客荷取扱店　監部通（吾妻橋）丸二商會
電話四二四六・五八八八番

夕刊 滿洲日報 五月二十七日

最後の通電を發して蔣氏、馮玉祥氏に忠告
閻錫山氏は馮玉祥氏に下野外遊勸告の通電を發す

【上海二十六日發電】蔣介石氏は二十五日馮玉祥氏に宛て長文の最後忠告電を送り又閻錫山氏も馮玉祥氏に宛てその外遊を勸告した通電を發した、其の大意は左の如くである

反省し悔悟せば逮捕令を取消さん
＝蔣介石氏の通電＝

予の三度に亘る忠告にもかゝはらず貴兄は反省せず、ために中央が貴兄を國民黨より除名し免官し更に貴兄を逮捕査辦するの命令を發するの餘儀なきに至りしことは予の遺憾極まりなきところなり、惟ふに

貴兄は 廣西派と夙に結びたり、貴下が西北の邊陬に籠りて飽くまで中央に弓を引かんとする時は自から武漢派廣西派の轍を踏み自滅せんのみ予が一度起つて貴下を討伐するはいと安易なるところなり、されど予は吾等が革命の歷史に偉大なる足跡を印したる貴下の悲慘なる最後を見るに忍びず、漸く訓政期に入りたる中國を再び戰火の巷と化し幾多の無辜の同胞を殺戮し建設事業を破壞し去るは予の最も煩悶するところである、例へ逮捕査辦令發布さるとも貴下が自ら

過ちを 悟り反省するあらば中央は貴下の逮捕令を取消すであらう、冀はくば西北の窮地に在りて自ら墓穴を掘らんよりも遠く外國に出でゝ支那が内亂を止め國威發展を期せねばならぬ理由を究められよ

◇木村選手出發前の密議◇ けさ十三列車展望車にて……右より紅班第二走者木村選手、南里選手、縄田班長

上海に着いた犬養翁（左は古島一雄氏二十三日寫す）

一切不問に附し共に外遊せん
閻錫山氏からの通電

誤解と中傷に出發した貴下と蔣介石との意見疎隔が遂に干戈に訴ふるに至らば革命の前途は將に累卵の如く危うし、予は國を愛し黨を愛し貴兄を愛するが故に此の際大局より見て貴兄の忍耐を希望し一切を不問に附して遠く外國に出でんことを望む、貴兄が外國に出でなば予も勿論貴兄と共に下野外遊し貴兄が歸國せぬ以上予も亦歸國する意思なし、總ては國家のためである、古人は云ふ「軍刀を棄てなば直に佛たらん」と、冀はくば此の心事を以て熟慮三度し故國の危急を救はれんことを

孫文靈柩車昨夕北平を出發
◇…百一發の弔砲轟く裡に

【北平二十六日發電】靈柩車は本日午後五時豫定の如く前門驛を發し南下したが宋慶齡女史は靈柩車の前方車に入つたまゝ戸を鎖して誰にも面會せず商震、何世叡氏等の見送りにも出でず遂に姿を見せず、百一發の弔砲轟き見送り一同の脫帽裡に孫文遺骸は北平を離れ生前最も愛好した金陵紫金山へと向つた

靈柩車天津を通過

【天津廿六日發電】孫文靈柩車は午後八時着津、支那側各團體代表列國軍司令官領事團等二千餘名の敬虔なる默送裡に八時半南下した

中央黨部の宣言書

【上海二十六日發電】中央黨部宣傳部は全國民黨員及び全國民に與ふる數千語に亘る長文の宣言書を發表したが其の要點は民國十五年以來の馮玉祥氏の凡有罪惡を並べ立てた上

一、馮玉祥の眼中には孫總理なく革命なく支那國家もない、只私利私慾あるのみ

二、總理奉遷祭に全世界の賓客が萬里を遠しとせずして參加するのに彼は自から來らざるのみならず西北各地方の交通機關を破壞し西北方面の國民の奉安祭列席を阻害してゐる、反革命の罪惡之より甚だしきはない

等の點を力說し最後に此の逆賊を征伐するにあらざれば眞の和平統一は望まれず、國民は一致協力して中央を支持せよと結んでゐる

荻川放談（43）
弔文（其一）

一昨廿五日は舊曆四月十七日で故張作霖の遭難一周年に當る、張家では其祭事も行はれたようだが、世は殆どこれを忘れたる如く、時も時、獨り故孫文の移靈祭が喧傳さる、若し故孫文が支那革命の宗主なら、故張作霖は支那革命から赤賊退治の元祖ならずとせんや、其志望は武力を以て國民黨革命を破壞せんとするにあつたにせよ、之に赤賊討伐の名を附し、實際に國民黨の共産化を濟ふた、これなくんば今日の支那は、共産黨の爲に滅茶苦茶になつて居つたかも知れない。

◇

國民黨が第三インタアナショナルの支持援助を受けて、廣東から北伐に進んだときを懷ふと、支那が破壞と云ふ奈落に沈むとしか考えられなんだ、それが今日あるを致して、故孫文の移靈祭まで行はるゝに至つたは、國民黨が第三インタアナショナルから離脫したからで、此離脫こそ、故張作霖の揭げた赤賊討伐の旆旗に怯えし結果なり、それで若し國民黨が故孫文を崇むるなら、國民は故張作霖に對し深甚の感謝を表すべきに、今日此頌をうした聲すら聞えぬはどうした譯か。

◇

斯う書くと、過去ならそりやこそ日本の軍閥庇護と騷ぐかも知れないが、現在ではそんな莫迦者は世間にあるまい、ないのみか、日本が故張作霖に同情を寄てた所以こそ、こゝだとの理解も浮んで來るならん、日本は善隣支那の共産化を嫌ふ、是東洋の平和を紊せばなり、それで今や張作霖なきも其人によつて揭げられし赤賊討伐の旆旗は朽つるものでなし、こゝに此旆旗を翳して、赤賊退治元祖遭難の一周年に、功績を稱えて其の靈魂を弔ひ、之に若干の言葉を寄せんとす。

◇

思へば故張作霖も、勢威を望んで自我を振舞ひ、これに東三省民の膏血を注がしめたことは僅少でなく、前記の功績を以て或は此の罪咎を償はれぬかも知れず、其の遭難一周年の淋しきはこゝらかとも案ぜらる、そうとすれば亡父の遺業を享けたる張學良は、代つて其罪咎を償ふべき善政を布き、それで動もすれば隱れんとする亡父の功績を發揚するに努むべし、是ぞ孝の道生る、然らば善政が如何云へば祭の基にして、善政もこゝから亡父の常に唱へた保境安民、其保境安民が要求する日支經濟提携こそ大切で、亡父の命日に、僧を呼び經を讀むなんかは第二義に屬するなり。

入閣是非で板挾みの床次氏
新黨の內部二論に分る

【東京特電二十七日發】內閣改造の根幹とも見られつゝある床次氏の入閣に就て新黨クラブ側の見解は依然兩樣に分れてゐる、即ち

一、榊田清兵衛、大内暢三、長島隆二等の諸氏は成立後既に二ケ年を經たる現內閣に入ることは現內閣過去の功罪をすべて分擔することゝなるのみならず政友會側は之を以て聯立內閣と稱するかも知れぬが理論上、實際上新黨が併吞さるゝ純政友會內閣であるから床次氏のためには斷じて採らざる處であるといふ

一、金杉英五郎、岡喜七郎、本多貞次郎、津崎尙武等の諸氏は床次氏の生くる途は現內閣に入閣して政友會と接近し適當の機會に渾然融合するにあると稱してゐる

兩說とも床次氏本位であることは一致してゐるが此の兩派の間に立つ床次氏が近く首相より勸說を受けた際如何なる態度を執るかは興味を以て見られてゐる

滿洲蒙古鐵道驛傳競爭踏破行程

◇……十九日午前八時十分開始
驛傳競爭成績
◇……廿七日午前八時十分現在

紅班　踏破鐵道　二〇八五・五哩（實走行程二五〇五・八哩）

白班　踏破鐵道　一一三六・四哩（實走行程一八七五・三哩）

滿蒙鐵道驛傳競爭
紅白兩班四選手が明朝長春で邂逅
殆ど同時刻に引繼
秋山、木村紅班と加藤、神藏白班

我社驛傳競爭紅班秋山選手は廿七日午前八時海倫を發してハルビンに向つたがハルビン歸着は午後六時過ぎの豫定である、斯くて同選手は十時四十分ハルビン發、南下して廿八日朝長春に至り此處に十日間二千餘哩を走破せる同選手の行程は終り同班第二走者木村選手が新なる活躍を開始する、又白班の加藤選手は豫定の如く廿六日夜西安一泊廿七日午前七時西安發、奉天行直通列車に投したが午後九時奉天着、十時十分直に北上し廿八日午前七時長春着此處にて第三走者神藏選手に引繼ぎをなす、即ち廿八日朝は長春に於て兩班の四選手が偶然に邂逅するといふ場面が演出されるわけである

紅班の第二走者
木村選手けさ出發す

紅班秋山選手は二十九日午前八時十分大連驛を出發し既に九日間二千餘哩を走つて今朝海倫を出發する豫定であるが、秋山選手と某地點に於て引繼ぎをなすべき第二走者木村選手は二十七日午前八時十分發急行列車で大連驛出發北行したが驛には縄田班長、南里、藤井、長谷部等各選手、及び大連市長代理として小泊庶務課長その他の見送りがあつたが、木村選手は某方面に於ける或種の冒險的作戰を實行すべく、出發前縄田班長、南里選手らと再度打合せをなし意氣揚々出發した

驛傳競爭の途につきし人々へ
長尾昌一

ただに先を急ぐといふ旅の男に幸こそ祈らむ

◇

稀しく驛傳の男こそ愛しけれただし日に生命こめつつ

◇

たまきはる驛傳の男に幸あれやその驛路につつがあらせず

◇

今宵はも何處の驛や過ぎつらむあらしあらすな驛傳の男に

◇

その生命傳へて時も早や歸れ十五の驛路めぐるその男よ

◇

道遠し十五の驛路めぐる男は愛しかりけり自愛祈らむ

東鐵重役らけふ來連
歐亞連絡會議の歸途

今月十五日より廿四日まで京城で開催された歐亞連絡會議出席者鮮鐵及東支鐵道重役エムシヤノフ氏外九名は近藤鮮滿案内所浦鹽支船部員の案内により廿七日大連入港のばいかる丸で來連、直にヤマトホテルに入り小憩後旅順に赴き各所を視察したが廿八日は沙河口工場及び中央試驗所を視察し同日午後二時山本滿鐵社長訪問の上歸任すると

滿鐵社員會評議員會
廿五日午後の分

滿鐵社員會評議員會は既報の如く廿五日正午休憩後午後一時再開左の如く諸議案を附議決定して午後五時過ぎ散會した

△鐵道無賃乘車證に關する件 俸給七十圓以下の職員及傭員に對し二等乘車證を發給する事は社業の現狀より見るも猶ほ考慮の餘地ありとして多數で否決

△日本人社員の家族にして七十歲以上の高齡者にパス發給の件（附添人を含む）保留

△幹事會の狀況を地方聯合會代表者に通知する件、可決

△昭和三年度決算並に本年度豫算承認の件、可決

△ファンクション・システムを人事制度に採用の件 本案は社內各部に於ける特殊技能者所謂エキスパートが從來兎角昇進、待遇等に於いて不安なる地位にあり、故に人事制度に職能本位制を採用して專門家を優遇すると共に社員の採用に際しても嚴密な適性檢査による科學的試驗を經て入社せしむるにあり、社の人事組織を合理的ならしむるの懸案であるが採決の結果人事制度研究委員會を設けて考究することに決定

△社員會組織改正に關する件 今期評議員會の重要案件である本案は議論百出し就中開原撫順等の反對あつたが結局直接選擧制の如きは理想に走り過ぎる嫌ひあり議長より撤回を提議したるも更に幹事會に於て案を練ることに落着き保留となつた

納稅成績は良好
總額の四割は教育費に

大連市役所では過般市會に於て決定した昭和四年度戶別割六十七萬六千餘圓の內、第一期分の徵稅令書三萬一千餘通を目下夫々納稅義務者に送達して居る、右に就き市當局は語る

恒久的財源の乏しい大連市は昭和四年度一般會計總豫算額百十六萬一千餘圓の約七割即ち八十七萬七千餘圓を市稅に待つ有樣で、しかも市の財政は今日の收入を翌日に所謂る其の日暮しなので若し歲出の七割に達する市稅の納稅成績が假に不良であつたら直に行き詰る外はないが、幸に本市の納稅成績は非常に良好で、就中市稅中最樞要の戶別割が殆ど完納に近い好成績を示して居るので今日迄財政的に何等の支障を來さなかつたので將來も市民各位の努力に依り一層向上を期し度いと思ふ

なほ市稅總額の四割戶別割の約半分を教育費に充當してゐる譯である

人事

▲廣井辰太郎氏（東京帝大教授）廿七日バイカル丸にて來連

▲宮原國雄氏（豫備陸軍中將）同上

▲三村友義氏（砲兵中佐陸軍省兵器局員）同上

▲大庭秀藏氏（砲兵中佐陸軍造兵局員）同上

▲エムシヤノフ氏外九名（歐亞連絡會議出席者一行）同上

▲橘高廣氏（警視廳檢閱係長）同上

▲淺野舞踊研究所一行　同上

▲富永能雄氏（滿鐵用度事務所長）同上歸任

▲尾間明氏（本社取締役）同上

▲伊藤洪俊氏（旅順工大教授）同上

▲伊藤肇氏（滿鐵醫院醫長）同

▲庵谷忱氏（奉天商工會議所會頭）廿七日來連遼東ホテルへ

▲林岡田一郎氏（大倉組奉天支店長）同上

▲板垣征四郎氏（步兵大佐關東軍參謀）廿七日着任の挨拶に赴訪

▲田中千吉氏（大連民政署長）二十七日旅順水交社に擧行の海軍記念日祝賀會參列のため旅順へ

▲石本鏆太郎氏（大連市長）同

大觀小觀

◇

東北四省の積極的保境安民主義とやらで、關內出兵決定すと。身のほどを知らぬも甚だし。

◇

犬養翁が國民黨の新人連に訓諭してゐる。彼等の崇敬する孫文氏は無茶苦茶の排日をやれとは遺訓しなかつた筈だ。

◇

果然、蔣馮兩氏の下野說。國民政府統一のため形式的にも引留むべからず。しかし恐らくは芝居であらう。「下野々々爾を奈何せん」。

◇

改造には床次氏の入閣が絕對條件といふ。若しフラれたら潰れる內閣か。

◇

本溪湖神社問題は近來の不祥事、當局者の威信を云爲するよりも、人心の激發を防ぐことが必要。

◇

石本市長はスポーツを解する由、但しスポーツの精神を解するか何うかは判らず。

天氣豫報

廿八日（晴後曇）南東の風

日出四時三十二分　日沒七時九分
滿潮前零時三十五分　後一時
干潮前六時十五分　後八時

けふ、大連の海軍記念日

驅逐艦の檣頭高く「ゼツト旗」飜へる

記念祭や祝賀會、講演會等々て各方面大いに賑ふ

今二十七日は海軍記念日と云ふので、大連神社では午前十時より記念祭を執行、石本市長は市民を代表してこれに參列した、一方市役所主催の記念日祝賀會は午前十一時半からヤマトホテルに於て催され、市長、市關係者、目下入港中の驅逐艦「槇」乘組の將校及市民等多數參集してこの佳き日を記念し合つた、尙驅逐艦「槇」では午後一時五十五分、恰度日本海戰に於て「皇國の興廢この一戰にあり」と云ふ

信號を 發した時刻を期し「ゼツト旗」を檣頭高く掲げてサイレンを高々と鳴らす、その外午後四時からは海軍協會主催の春日池に於ける軍艦模型爆沈が賑やかに催される、尙市內各學校の催し事では

▲工業專門學校 正午から春日池にて學生の射擊演習を勇ましく行つた
▲商業學校 午前九時全校の生徒が講堂に集つて驅逐艦槇の新見少佐の論演を聽き正午終る
▲第一中學校 午前九時より小關海軍大尉の「現在及將來の海軍」と題する講演會があつた
▲第二中學校 旅順の安田海軍大尉を招き午前八時半から記念講演會を開きそれが終るや職員のテニス競技會にと移つた
▲彌生高女 午前八時より澄田校長が海軍記念日に對しての講演をなし、これが終るや直ちに運動會にと移りテニス、バスケツトボール等賑やかに行はれる
▲神明高女 午前九時より運動會を催してこの日を記念し合ふ

小學校 では

▲常盤小學校 講話後中央公園で模擬戰が賑やかに行はれた
▲伏見臺小學校 講話後野球試合
▲朝日小學校 青島攻擊に參加した海軍の兵隊さんのお話があつた

また日本橋春日兩小學校でも矢張講話あり春日校兒童は午後四時半から鏡ケ池で行はれる海軍協會主催の模型軍艦爆沈を見學、松林小學校では瀨尾中尉の講話後校庭で運動會を催した、その他嶺前、南山麓、沙河口大正等も同じく講話又は運動會を催してこの佳き日を記念した

水交社祭典に聖上親しく臨御

いと莊嚴に執行さる

【東京二十七日發電】二十七日第二十四回海軍記念日に際し東京水交社の祭典は午前十時半岡田海相以下水交社員並に戰死者遺族參列して嚴肅裡に執行、天皇陛下は午前十一時四十分御出門同五十分着御、伏見總裁宮首め、東鄕元帥各大臣奉迎、陛下には岡田海相の御先導で祝賀會場臨御、海相は天皇陛下萬歲を奉唱し午餐膳上には粗末な握り飯と數子が盛られ陛下の御前に其の一皿を獻上した、午後零時四十分陛下には餘興の大相撲を終始御興深く御觀覽あらせられ午後三時四十分還幸あらせられた

寫眞說明

(左)上は大連神社の記念祭、下は街頭に靡る祝旗(右)上は驅逐艦「槇」に掲げられんとする「ゼツト旗」下は常盤小學校兒童の模擬戰

我國のトーキーは珍しい中だけ

けさ、滿鐵の招聘で來連した橘高廣氏映畫界を語る

立花高四郞のペンネームで映畫評論家として知られてゐる警視廳映畫檢閱係長の橘高廣氏が滿洲映畫界及び滿蒙事情視察のため滿鐵情報課の招聘で廿七日入港のばいかる丸で來連したが東京を中心とした最近の映畫界の傾向について語る

大體に トーキーは武藏野館がフオツクスの部分トーキーを封切したが

評判が よくないやうだ其後契約上のことで紛糾してゐる、パラマウントもこの廿九日に第一聲をあげるが、我國ではトーキーは先づ經濟上難しい、例へばWE社の如きは機械一臺に技師一名をつけるといつた調子だし、その取扱が甚だ面倒な上に、フヰルムの生命は短く[illegible]つ東京の一流館で封切しても之が配給系統が確立されてゐない

米國で こそ今まで無聲だつた映畫が聲を出すといふのでアトラクションを與へたかも知れぬが、日本では立派に解說者がゐて映畫は聲を持つてゐるのだからトーキーが珍らしいといふ時代が過ぎれば下火になるだらう、しかし之はドラマテイツクな映畫のことで二三卷のサウンドピクチアーは相當に歡迎される、それで斯んな事が言はれてゐる、やつと映畫が藝術らしくなつて來た時にサウンドが加つて映畫はまた大黎明期に入つたと……、一方映畫興行は

行詰り でボードビルのやうな所謂レヴユウも凋落し出し、兎に角變態的興行をつゞけてゐる、新しい言葉はあの女優にエス、エがあるとか無いとか云ふのでエス、エとはセキジアル、アツピールを意味してゐる

尙橘氏は社告の如く廿八、九日の兩夜大連滿鐵社員倶樂部食堂で本社主催の下に映畫講演會を催すことになつてゐる(寫眞は橘高廣氏)

旅費まで添へて淚の說諭願

乳呑兒と兩親を捨てた娘の國元から大連署宛に

乳兒と年老た兩親を振り捨てゝ家出し女給に成り下つてゐる娘を歸して下さいと旅費まで添へて淚の說諭願が二十七日大連署に舞ひ込んだ——山口縣豐浦郡彥島町塘田與一の二女キツノ(二〇)は昨年末生れて間もない子供を親に押しつけ家出し、大連市岩代町ロンドンカフエーに女給に住み込んだが其兩親は再三歸國を勸めたが手紙の返事すら出さず勝手な生活を續けてをり、乳兒は每日母を慕つて泣き通し、兩親は身の行末を案じ警察のお力で娘を歸して下さいといふのである

又も暴行監禁で小崗子署訴らる

金州居住の支那人から

目下繫爭中の小崗子署對青山醫師事件にからまり又も小崗子署長萩野谷信順氏及び猪股司法主任、千葉衞生主任、田尻巡查の四氏を相手取り金州董家會王新才(三七)から暴行並に不法監禁の告訴を二十七日大連地方法院檢察局に提出した、訴面によれば

告訴人 王は去る三月十四日所用あり青山醫師の宅を訪ねてゐる際小崗子署田所巡查が突如入り來り、王に對し「藥を出せ」と命じたが、王は自分は當家の者でない旨を答へると同巡查は矢庭に王を亂打した上捕縛し本署に引致數十回に亘り苛刑を加へて猪股司法主任の強要的訊問をもつて王に對しモヒ賣買の事實を陳述せよと迫つた、しかし告訴人は何等の犯罪なき爲め、その旨を答へるや同司法主任は無法にも再び監房に押し入れ、十六日午後九時ごろまで三日間に亘り不法拘禁したといふのである

告訴の裏面には相當複雜なる事情が介在してゐるらしいが苟くも

警察官 が民間とこの種の告訴のなし合ひをなして爭ふことは警察權の威信に關する問題であると非難の聲が高いが、監督官廳は事件の取調べを進める一方小崗子署に對し相當干涉的態度に出づるものと見られ成行は注目されてゐる

旅大刑務所

吉林省の監獄長らが參觀

【吉林特電二十七日發】吉林高等法院書記官長單作丹氏を初め法院關係者及び監獄長等一行七名は獄舍改善に資すべく今回二班に分れて旅順、大連の刑務所その他兩地法院を參觀する事となり、第一班は一兩日中に出發する筈であるが、第二班は約一週間後第一班の歸吉を待つて出發する豫定である、又一行は次の如し

第一班 吉林高等法院書記官長單作丹 第二監獄典獄長(吉林)馬昱珊 第二監獄典獄長(哈爾賓)單作善 通譯官 吳作華

第二班 吉林高等檢察廳首席檢察官葉露華、監獄科長、陳鼎 第二監獄長(長春)李振藩 通譯官 吳仁華

社員招聘

一、年齡二十五歲より四十五歲迄、中等教育以上の者採用す

御希望の方は履歷書携帶本人御來談を乞ふ(但し午前中)

外勤 數名
內勤 一名

帝國生命大連出張所 大連市但馬町五一 電七〇五六

戀女房から傷害の告訴沙汰

打撲傷を負せた夫に

市內武藏町七十四番地祈禱師伊藤富全(四六)は加賀町四〇番地永木正次郞の妻シオ(四三)と姦通しこの程大連地方法院に於て懲役二年を言渡されたが、その戀女房から今度は傷害の告訴を出した——

信仰が 足りないからと卽ち伊藤とシオの馴れ合ひの關係は一昨年シオの夫正次郞が有金を持つて家出したのは自分に信仰が足りないからと思ひ立ち每日伊藤の祈禱所に通つてゐるうち情交し、遂に昨年七月本夫正次郞に姦通の告訴を出され先日懲役二年を言渡されたが(本夫の告訴取下げで事件は消滅となつた)其後二人は天下晴れて夫婦となり同棲生活を續けてゐるうち伊藤はシオに嫌氣を感じて虐待し去る四月離緣して終つた、本月初めシオは自分の荷物を引取りに伊藤方に訪れると伊藤は「お前の荷物はないお前のやうな女を妻にした覺えはない」と口論を始め伊藤はシオの

頭部を 毆打し全治一週間內の打撲傷を負はしたといふので中年の戀もはかなく散つて遂に告訴沙汰となつたものである

浦田家の不幸 南滿教科書編輯部員浦田繁松氏の令息昭三君は豫て病氣の處二十七日午後五時死去した、因に葬儀は二十八日午後四時沙河口西本願寺にて執行

濱崎滿倶投手

渡滿最初の失敗

市內花園町五十一番地竹內方元大野球選手濱崎眞二君は本年四月滿鐵鐵道部に入社し滿倶正投手として既に君の元氣な姿を幾度か滿倶グラウンドに見せてゐるが、濱崎君未だ滿洲の油斷ならない小盜兒は御存じないと見え、二十六日午後五時ごろ三十圓の白毛布を物干棹に掛けておいた儘盜まれ二十七日小崗子署に屆出でたがこの小盜兒は、山東省福山縣生れ鄒本儀(三七)と云ひ目下取調中

淺野舞踊團一行來る

九州小倉に於て上中流家庭の少女を集め純眞なる舞踊を發表してゐる淺野舞踊研究所一行は、所長淺野喜平氏に引率され二十七日入港のばいかる丸にて來連、一行は學校を休んでの旅行なので敎師も同行し學課の遲れざる樣注意してゐるといふ、滿鐵社員倶樂部並に大連高等音樂院舞踊科主催、滿鐵社會課主催の下に二十八、九の兩日午後七時半より協和會館に於て舞踊大會を開催の筈

泉二博士

撫順炭礦視察

【撫順特電二十六日發】司法省刑事局長泉二博士は隨員三名と共に二十六日午前九時二十五分の列車にて來撫、大林署長の案內にて古城子露天掘、製油工場を視察したが語る

十數年前小坂鑛山の小規模な露天掘を見た事があるが石炭は坑內掘しかないと思つてゐた處、斯くも大仕掛の露天掘を見て吃驚した、石炭を露天で掘れる事は經濟的にも有利であらうし第一數萬の坑夫の保健上喜ばしい事だ、又燃料界の時[illegible]的に要求する重油が七萬噸も年々製產し得る製油工場を日本の手に依つて經營し得る事は大きな國家的誇りであり、行詰れる日本の液體燃料界も是で救はれるであらう

尙博士一行は同日午後三時半にて離撫、二十七日奉天一泊、哈爾賓視察三泊の後再び奉天に引返し京城を視察、六月八日ごろ離鮮歸京の豫定であると

今泉家の不幸

夫人と長女相次いで逝去

本社營業局販賣部員今泉文次氏は去る廿五日長女美佐子(二)を喪ひ其葬儀を濟ましたばかりの廿六日夜また夫人綾子(二四)に逝かれ重ね／＼の不幸に際會した、綾子さんは去る二月長女分娩後產後の肥立惡く大連醫院に入院治療中藥石効なく母子とも相次で逝いたものである、夫人の葬儀は本日午後五時途中葬列を廢し市內常安寺に於て執り行はれる

支那軍艦、渤海灣で邦船の拉致を企つ

漁船保護の遼海丸が幸ひ取戻し 關東廳、警告を發す

渤海灣漁撈が始まつたので同方面に本邦漁業者が多數入込み漁撈に從事してゐるが、廿六日午後一時ごろ支那軍艦海鷗丸は三山島沖五浬の地點に於て、第二艦隊司令袁方齋の命なりと稱し漁撈に從事中の日本汽船神福丸を拉致せんとしたのを、幸ひ漁船保護の爲め出動中の大連水上署遼海丸が發見、阻止の上取戻したが、渤海灣は支那の領海なるが故に

日本人 の漁撈を許可せずとの理由の下に今後も同樣の行動に出でん形勢あり、同所は支那陸地より三浬以外の海面で國際法により當然、黃海領域に屬する場所であるから本邦人の漁撈に對し何等容喙の權利はない筈で、關東廳では右報告に接し遼海丸の無電を以て支那側の今後に於ける同樣不法行爲に對し警告を發し反省を促すことを命じ、目下支那艦監視と共に引續き警戒中である

驛傳競走號

◇紅白兩軍は期せずして最後に旅順に入ることに一致したが同日であるか何うかはまだ判斷がつかないしかし旅順に下車する時間だけは一致しないことだけは今から想像が出來る、それは紅は最後に金福線があり白班は營口線を最後に通過することゝなると思はれるからだ

◇紅の場合を考へると金福線は城子疃發が午前八時二十五分と午後二時三十五分で周水子で旅順線に乘換ると旅順へは午後二時五十九分か午後十時三十八分に到着することになる、又白班の場合は京奉線の溝幇子から營口に出で大石橋で本線に入るとすると溝幇子營口間は一日一回運轉であるから大石橋を午前零時三十五分發で南下するより外なく周水子着が六時五十七分でこれが大連發一番列車に連絡するから午前九時三十六分旅順着となる譯である

◇だが白班が若し溝幇子營口間を京奉線通過の際にでもすまし營口大石橋間だけを最後とすれば大石橋歸着は每日七回あるが、本線への連絡は五回しかなくこれが又周水子から旅順への連絡は四回に減じて結局旅順着は午前なら九時三十六分、午後なら二時五十九分、七時三十分、九時三十五分、十時三十八分着となる

南船北馬

◇…奉天の神木として信仰されてゐた松島町の大きな柳は愈滿鐵で撤去することゝなり神木の祟りを恐れる苦力を督勵して廿五日切り倒した、怪物ござんなれと大刀を拔き拂つて待ち構へてゐたものもゐた【奉天發】

◇…營口縣立の師範學校、高級中學校、商業學校、女子師範學校その他小學校の敎員五十餘名は奉票暴落で增俸方を知事に請願し、本月から增俸を實施する旨明言されてゐたに拘らず、今以て實施されないので敎員達は同盟罷業斷行の氣勢を示してゐるため縣當局では大に警戒してゐる【營口發】

平安異香(1)

葉多默太郎作　中一彌畫

非常線(一)

銀の雨と降りそゝぐ、初春の眞晝の日ざしを享けて、上氣した女の頬のやうに、ふくらかに赤く咲いた庭の梅、風もないのにヒラリと散つて、泉水の水に音もなく泛ぶと、ピチリと魚が躍る。

縁に、眼を細くして、ゴロく咽喉を鳴らしてゐる小猫一匹。

ふとその時、なまめかしい、嬌やかな嬌聲と共に、檜扇をハタハタと掌にうつ音が聽こえた。今日の歌合せの會の餘興に招いた女傀儡子の藝が始まつたのであらう。なまめかしい色の袖や裳が、深々と垂れた御簾越しに、ヒラくするのが見え始めた。

今日は正月の子の日。この日禁裏に子の日の御遊があるのに倣つて、この女ばかりの下屋敷にも子の日遊びが催されたのである。

所は兵庫福原の荒田郷である。

時は治承四年、平相國淸盛が全盛絢爛の時代である。この時、この宅を營んだものといへば、平氏に非ずんば人に非ずの平家一門か、さもなくても平氏に何かの關係を有つて當世の顯職にある名門貴族の他はなかつたので、したがつて、今女傀儡子の袖の香に、見物の上﨟の微笑に、騷きに嬌妖滴るばかりの雰圍氣を作つてゐるこの邸も、名ある顯門の別業に相違ないのである。

然しこの時、この艶色嬌聲をよそにして、裏庭の雜木林の中にぽつねんと坐つてゐる一人の男があつた。布子に奴袴に錆た野太刀一本、下男である。貯魚池に向つて蹲踞んでゐるので、魚でも釣つてゐるのかと思ふと、大事さうに膝ん坊を抱きこんで、水藻に泡の立つのを眺めながら呟いてゐる。

「どうしたもんだらうなあ。助けたいのは山々だが、鞍馬の山の瀧落し、助けりや此方の命がねえと來らあ。だがあいつに云はせりやあかうだ。與七さんだつて權さんだつて、時々此處へ來ては助けてやらうかなんて云ふのだけど、あんな奴に恩を着るのは厭だ、彌陀六さん、あたしやお前がなくちや助かつてやらないんだよつて。テヘ、、、、可愛いことを云やがらあ——彌陀六さん、あたしやお前がまだ獨身でゐることも、ちやんと聞いて知つてゐるんですよ、かテヘ、、滑つこい肌だらうたあ」

ふらくと立上つて、向ふを見ると、雜木林の端づれにしよんぼりと、軒の崩れた納屋が一棟立つてゐる。それへ歩いて行つて、

「おつうちやん」

「………」

「おつうちやん、おつうちやん」

「誰だい?あ、彌陀六さん?」

「大きな聲をするでねエ。まあ顔を見せた」

「この顔かい」

女を監禁するのでわざく嵌めたものらしい新しい鐵格子の入つた窓へ、夕顔のやうにぽつかりと白い顔を浮ぶ。

「辨當の時刻でもないのに彌陀六さん、何しに——あ、分つた。お前、助けてくれるんだね」

「うむ、まあさういふつもりになつたんだが、おつうちやん、お前の方に間違はないだらうなあ。何しろ此方は命がけだからなあ。一つ間違へば首が飛ぶ」

「あ、今日は子の日だね。皆は遊びに夢中になつてゐる。こんないい都合はありやしない。それでお前は今日にしたんだねエ。利口だよ。何の馬鹿の彌陀六なもんか。さあ早くこゝを出しておくれ。あたしやもう氣違ひになりさうなんだから」

「あゝ出すよ、出してやるよ。だが、お前の方に」

「分つてゐるよ。あたしやお前にまんざらでもないんだよ。一緒になるよ、一緒に。嘘なんかいふおつねかね。京都へ行つて御前樣にこんな薄情な目にあはされた怨みを晴らしさへすりや、あたしや淸々してお前のお内儀さんになつて百姓なとして暮すのさ。間違ひつこはないんだから早くよう彌陀六さん」

「よし、さうなりや俺も男だ。おつうちやん安心しろ、出してやるぞ」

「まあ、頼もしいわねエ」

彌陀六、腰の刀を拔いて鐵格子をギシく、やつてゐたが切れないので、こん度は手だ。五人力の彌陀六の力は恐ろしい、さしもの鐵格子がグウと曲がる。

これには流石のおつねも驚いたが、頭を出してみて、

「もう出られるか知ら」

一 その時、

「彌陀六、彌陀六やア」

誰かゞ呼び呼び此方へ來る樣子

映畫と演藝

童謠舞踊大會 プログラム決る

大連滿鐵社員俱樂部大連高等音樂院主催滿鐵社會課後援の二十八九日兩夜の淺野童謠民謠舞踊大會のプログラムは左の如くである

第一部

一、日本青年團歌　淺野百合子
二、空は青雲　淺野ユリ子、山田ツネ子、山田トヨ子
三、バタコ　石井キヨエ、竹內エミ子
四、スターダンス　石井キヨエ、今井キミエ、竹內エミ子、小園マサ子
五、鐘金草　山田トヨ子、田山ツネ子
六、船頭歌　淺野百合子
七、兵隊さん　竹內エミ子、石井キヨエ
八、荒城の月　山田ツネ子、淺野百合子、山田トヨ子

第二部

一、兎の讀本　梶谷洋子、川原トシエ
二、野の花　淺野百合子、山田トヨ子、小園マサ子
三、足柄山　竹內エミ子
四、スイツツルの旋律　石井キヨエ、小園マサ子
五、別後　淺野百合子
六、雪やこんこん　川原トシエ、梶谷洋子
七、オリエンタルダンス　淺野百合子、山田ツネ子

第三部

一、南米の面影　西崗みよ子、稻垣滿壽子・伴奏吳種子
二、新舞踊小品　荒川淸子、唄某夫人、尺八草崎圭山、ピアノ村岡樂童
イ、祇園町
ロ、滿洲前衛の唄
三、ヘブライの少女　荒川秋子、伴奏橫山幾子
四、舊舞踊老松　荒川淸子、伴奏村岡樂童
五、南京言葉　石井キヨエ、竹內エミ子
六、つばき　山田トヨ子、小園マサ子
七、鉢をおさめて　山田ツネ子、山田トヨ子
一、出船の港　淺野百合子
二、てるてる坊主　竹內エミ子
三、新作小倉節　淺野百合子
四、お嫁入り　梶谷洋子、石井キヨエ
五、道中双六　川原トシ子、小園マサ子、山田トヨ子
六、月の沙漠　山田トヨ子、山田ツネ子、小園マサ子、淺野百合子
七、軍艦マーチ　全員

發聲映畫雜話(二)

矢野クニジ

さて雜話は雜然として進行するが、發聲映畫が價値を見出されたのは前記の通りである。然らば何時頃から工夫されてゐたかは明記出來ないが、先鞭をつけた人は發明王トーマス、エイ、エデイソンであつて、蓄音機のレコード板に吹込みつゝ一方撮影を行ふと云ふ大抵の人が考へつきさうな方法であつた。しかしこんな方法では俳優の動作と音聲が完全に同期化しない。氣合が合はないので間が拔けた樣なものになつて全々失敗であつた。が、このシンクロナス、モーションを巧に行へば良いと云ふ考へで、このモーションを機械的に行はしめる撮影記音の方法を考案してエデイソンはキネト、フオンなる名前をつけた。

この方法で撮影と記音には見事成功したがさて映寫となると再び動作と臺詞は相前後してシンクロナイズしなく失敗に終つた。其後エデイソンは其儘に放棄してゐた樣であつたが、今月ワーナーブラザーズ會社のヴアイタフオンと云ふ發聲映畫方式はこの原理に外ならないものでシンクロニズムと云ふことを改良して巧妙に行つてゐるにすぎない。又我國の東條研究所に於てこの程完成の域に達したと傳へ、某キネマ會社との間に製作契約が成立したと云はるゝものもこのキネト、フオンの改良されたものである。

今日發聲映畫として價値あるものを擧げるならば先づ次の四種に指を屈すべきである。

1、フオー、フキルム
2、ムーヴイ、トーン
3、フオト、フオン
4、ヴアイタ、フオン

1は前記の如くド、フオレー博士の發明に成り、2と3はこの原理に大同小異のもので、4はエデイソンの流れを汲んだキネト、フオンの成長したものである、ムーヴイ、トーンを提げて立つてゐるのが、パラマウント、ユニバーサル。メトロ、ゴールドウイン。コロンビヤ。ユナイテツド、アーチスツ等の各映畫會社で、フオト、フオンはパテーがジエネラル、エレツクトリツク會社より權利を受けて使用し、ヴアイタ、フオンは前記の如くワーナーブラザー會社が振り翳してゐる方式である。特許權は1、2、4ともウエスターン、エレクトリツク會社が持つてゐる。

滿洲日報

釋宗演全集

ユニオンビール
ミツ矢サイダー
ミツ矢平野水
ミツ矢レモラ
最新式 設計による新設東西二大工場にて生産したるユニオンビールが色に香に味に如何に新風味を發揮せるか

日本軍と知りながら故意に狙擊した巡警
捕へられた一犯人の自白で 我總領事館交渉開始

【奉天特電二十七日發】二十五日午後九時頃駐奉歩兵第三十三聯隊第五中隊が奉天鐵西に於て野外演習中突然支那巡警が我が兵に對して發砲せる事件に付て我が憲兵隊で嚴重取調の結果犯人の中一名は日本軍隊であることを知りつゝ殊更に狙擊せる旨を自白したので、我が總領事館では支那側に對しいよ〳〵交渉を開始する筈である

蔣介石氏援助のため東北四省より出兵か
卅日首腦會議で決定

【奉天特電二十六日發】張學良氏は蔣介石氏より出兵要求の電報頻りに到る爲め張作相、萬福麟氏等の來奉を待つに先だち昨二十五日最高幹部會議を召集の上討論の結果、東北四省の政治經濟上出兵反對論者もあつたが張學良氏左右の人々は多く積極主義なるため、遂に蔣介石氏援助の爲め出兵に決し出來得べくんば平津地方の地盤回收を圖り、四省の積極的保境安民主義を確立すべしと云ふことゝなつた、その爲め廿七日開催の四省巨頭會議を三十日に延期して各將領の來奉に便にし、萬一それ迄に都合惡き際は各代表の派遣を乞ふて是非決定する筈であると

馮派の便衣隊員 東北各地に入込む

【奉天特電二十六日發】馮玉祥氏は蔣介石氏と戰鬪開始にあたり張學良氏の動靜及び東三省各地の軍情調査の爲め此程部下の便衣隊員九十餘名を派遣するに決し先發は商人に變裝して三々伍々隊を組んで目的地に出發したとの報告を南京政府より得た張學良氏は管下各關係機關に對し之が取締方を通告したが此の便衣隊が目的地とし居るところは錦縣一帶、新民縣、營口縣、安東縣、瀋海鐵路沿線、奉天城內等であると

蔣介石氏も下野か
傳へられるその理由

【南京卄六日發電】最近支那人方面に蔣介石氏は孫文移柩祭終了後對馮玉祥戰爭の進行が面白く行かねば下野して政治的に時局解決を圖るべしとの消息が裏面的に有力に傳へられて來た、其の主なる理由は、

一、各軍師長等が河南に入つて馮玉祥軍を討伐することを好まず蔣介石の專斷的態度に不滿を抱く者も少なくない

二、浙江財閥、交通系財閥其の他は武漢戰爭が終るやいなや又軍費を徵發されるので蔣介石の政權維持を望まぬこと

三、革命完成後內亂戰爭なしとの期待が蔣介石に依つて二つまで裏切られて一般民衆は蔣を信頼せず、人心漸く蔣介石を去らんとしてゐること

四、政界軍略及び國民黨の大勢漸次蔣介石に不利ならんとし、蔣派が左右兩派と連絡してまで蔣介石の失脚防止に狂奔してゐること

などで、此の形勢を感知した蔣介石氏は政府首席として各國使節の接見及び孫文祭を終つた後自身と馮玉祥氏と共に下野して政治的に時局を解決し、以て將來の再起にうせんとする措置に出でるであら利と云ふのである

孫文陵墓

北平で客死した孫文の靈柩は丸四年北平西部の碧雲寺に安置されてゐたが全國統一に成功した國民政府は過般南京紫金山にこれが陵墓を造營中のところこの程漸く竣工し靈柩は去る二十六日北平發本二十八日南京に到着六月一日盛大なる奉安祭が執行されることになつた、寫眞は南京紫金山のふところ、明太祖陵孝陵と並んで新たに造營された孫文陵墓

孫文靈柩車 濟南を通過

【濟南二十七日發電】孫文の靈柩車は今朝八時四十分濟南着九時十分南下した、津浦線濟南驛は出迎への人で埋められたが日本人に對する不穩の空氣はなかつた、西田領事は驛に出迎へて花輪を捧げた、群衆の中に在つた記者の耳にした一私語に「孫總理の靈柩は軍艦で海路南京に遷され此の靈柩車の中には安置されて居ない筈だ」と云ふのがあつた

關內警備司令に孫氏を推す
張學良氏この會見で 孫氏は健康勝れぬとて拒絕

【奉天特電二十七日發】この程來奉せる孫傳芳氏は張學良氏と打合せの上二十六日大連に向つたが、仄聞するところに依れば、學良氏は孫氏に對し、關內警備司令に就任すべく勸めたところ孫氏は健康が勝れぬ故を以て一應拒絕した、然し多分同氏は受諾するものと見られてゐる

出迎への爲め蔣氏徐州へ

【上海廿七日發電】蔣介石氏は靈柩出迎への爲め今朝浦口發列車で宋美齡夫人、唐生智氏等を同伴し徐州に赴くことゝなつたが同地で陳調元、徐源泉、毛炳文氏等の軍部首腦者會合し對馮軍事會議を開かれる模樣もある

宮崎未亡人等南京に到着

【南京廿七日發電】故孫文靈柩奉安祭列席の宮崎滔天未亡人、同龍介氏の一行は今朝七時南京到着、國民政府は驛頭に海軍々樂隊及び衞戍司令衞隊一隊を派遣し歡迎の意を表した、犬養、頭山翁の一行は午後四時到着の豫定である

韓復渠軍の寢返り原因
近く討馮通電を發せん

【北平二十六日發電】各方面の情報一致して馮氏の主力なる韓復渠軍の對馮態度動搖し來れることを報じてゐるが、其の原因として傳へられる處は

一、馮の蔣介石討伐通電は大義名分に添はず國民の同情を得る價値なし

二、馮蔣若し戰はゞ馮に勝目なし

三、漢口で蔣と會見以來蔣より多額の軍費供給を受けた

等で場合に依つては石友三、門致中氏等聯合して反馮通電を發するやも知れぬ形勢にあり、若し斯くなる時は馮は河南放棄の外道なしと言はる

至極平穩な撤兵後の青島
初夏の陽うらゝかにはえて 街は一年前に歸へる

我派遣軍撤退後第三日の青島は昨日迄たて籠つてゐた濃霧も心地よく晴れ渡り物凄く鳴つてゐた霧笛の音も消へて港內に碇泊する第二遣外艦隊の木曾、對馬と驅逐艦二隻、米國軍艦六隻は初夏の陽光にさへてゐる。日本軍に代りて新たに警備に就た支那憲兵、保安隊、巡警隊は數組に分れて市中の示威的行軍に廻つてゐる。出發準備と見送りが連日續いた一昨日までの忙しさにさか聊か氣の拔けた樣な淋しさも手傳ふが、市內は一般に物賣りの聲も長閑に一年前の平靜に立ち返りて落付きを見せてゐる。

◇

日本軍の引揚をねらつてゐたストライキはどうかと自動車を驅つて觀察して見るに燐寸、絹糸、ビール、油房、製材、煙草の諸工場が集つてゐる臺東鎭工場地一帶はどの煙筒からも煙りを吐き出し、荷物を積んだ支那大車人力車、人が平常通り往き來して補修工事をしてゐた四方、滄口への街道も修理完了されてスプリングの揺れ具合が頗るよい

◇

曾てはストライキの本場であつた四方で膠濟鐵路の職工が去る十五日ビラを撒きポスターを貼つた時は何を仕出かすか分らないやうな情勢であつたが、昨今は全く鳴りを靜めてゐる、貼紙の色が褪せた如く氣勢衰へてゐるから當分は事を起すまいといふ樂觀的な觀方と、公安局長の一片の訓諭位で納まるものかと今に火の手を擧げると云ふ悲觀的な觀方と二樣の觀察が下され紡績の方もこれと同樣の空氣に支配されて居るやうである。

◇

紡績工夫の賃銀は去る十四年春のストライキ前まで平均日給卅五六仙であつたものが、現在では倍額の七十仙近くになつて居り、宿舍、休憩時間等上海方面に比べて劣つて居らぬから不平を訴ふる餘地はなからうとも見えるが、幾つもの黨派があつて工會同志が相反してゐる形大な上海で失敗した指導者は素直で比較的統一ある青島に目をつけ青島から全國を「リード」する樣な懸念がないでもない、そうした場合、從來の如き單なる經濟的の勞資爭議であればよいが市黨部が職工も會社も支配すると云ふ政治的に秩序立つた仕事を始める事になると解決は面倒であり、問題は複雜で大きくなる、然し今は未だ其處まで進んでゐないし準備が整ふてゐないから暫く推移を見てゐるより外ない。

滄口の鐘淵、富士、長崎の三紡績と支那人經營華新紡績の職工八千の形勢も四方と大した變りがない事が察知され若し萬一罷業が起つた場合のために夫々の對策が講ぜられてゐる。

◇

膠濟沿線各地からは無事平穩の報が集まり濟南は便衣隊の潛入說で警備頗る嚴重との事であるが、支那側が四千に近い軍隊、憲兵、巡警隊を配置して大事を取つて居るのと、三面海に圍まれ表裏共に海上から見透しのきく地形的に惠まれた青島は確に守備の地と云つてよい、かくてわが軍撤退後の青島は膠濟沿線の各地と共に、今の處至極平靜に、明るい初夏の陽がキラ〳〵とアカシヤの葉にはえてゐる(在青島伊原生)

張學良氏の教育振興
私財五百萬元を投ず

張學良は教育振興の目的を以て遼寧省管內各縣に新民學校三十二校を創設すべく各縣知事に命じたが最近更に私財五百萬元現大洋を同校の創立資金として支出し同時に東北文化社委員に對し右新民學校を至急開校せしむる樣命じた

中支教育視察
奉天から派遣

遼寧省に於ては今回管下各縣下に於ける教育關係者中より三十名を選拔し江蘇、浙江の學事視察をなさしむべく目下準備中であるが一行は六月六日大連より海路上海に向ふと

國債整理は政府の一大試錬
政府の方針注目さる

【東京二十七日發電】國債五十八億圓の整理方針確立に關して二十五日小川、中橋、山本三相は協議を重ねたが此の公債方針を實行せんとせば現內閣並に黨の重要政策上一大轉換を招來するものであつて鐵道公債問題の處分と共に政府の一大試錬と見られてゐる、卽ち國債整理の實行に伴ふ財源は政府が今日まで唱道し來つた兩稅委讓案へ直接甚大なる影響を與へ當然之が放棄を覺悟すべきものであるが、田中首相は地租委讓に關しては過般議會に於て聲明せる方針に何等の變改をも見て居ないことを聲明してゐるので此の間の處置對策については一大決心を要するの時機に到來したのであるが果して首相が內閣改造と共に此の一大政策を以て國民に見ゆるやは政界のみならず財界の注目するところとなつて來た

モ博士に敍勳

【東京二十七日發電】今回來朝したモツト博士に二十七日左の通り敍勳の御沙汰があつた

萬國基督教青年會理事長 ジョン、アール、モツト

敍勳一等授瑞寶章

白班加藤選手は昨夜奉天に到着
紅班秋山選手は呼海線を征服 廿六日海倫一泊

豫定の列車運轉休止のため止むなく哈爾賓に一夜を明した紅班の秋山選手は慌ただしき假寢の夢を結びもあへず廿六日早朝松花江を渡つて馬船口驛に赴き、午前九時發の列車で呼海線を走り同日午後七時三十八分海倫に安着した、同夜は妥に一泊翌廿七日午前八時發列車で海倫を出發同午後六時三十一分再び馬船口を經て哈爾賓に到り同夜々行列車で長春まで引返し同地にて翌廿八日朝第二走者に後を引繼ぐ事になつてゐる又白班の加藤選手は廿六日朝朝陽鎭を出發豐頭海龍を通過して梅河口より西安線に乘り込み同日西安に到着し一泊した、而して今朝七時發直通列車で奉天に向ひ同日午後九時着奉直に某方面に向ひ出發する豫定

應募一萬八千通
廿七日夕まで到着の分

驛傳競爭所要時間豫想投票懸賞募集は廿七日夕までに到着した分の中廿五日發信の分とソレ以外の分と嚴密に撰り分けた結果合計一萬八千三百四十六通の多數に上つたが大體此れより增加することは少いと見られる、勿論之は未開封の儘の通數のことであつて實際の數は此の四、五倍になるであらう、而して此の大多數は在滿の人々であるが內地朝鮮支那等各地よりの應募數が案外に多いことも注目を惹いてゐる

驛傳ゴシツプ

驛傳競爭所要時間の豫想投票といふことは必然時々應募者が自らダイヤを作つて見ねば判らぬことになり各方面で熱心な研究者を續出したが中には折角苦心したダイヤを其の儘にするは惜しいといふわけか態々兩班の班長に送られる向きがある、然し惜しいかな其の大部分は實際の狀況を無視し單に鐵道の時間を結び合せたものに過ぎない、支那側の鐵道は地圖の上では大抵續いてゐるが鐵道每に連絡斷が離れてゐるを知らぬ向が多い

◇

世間の話を聞くと時間の豫想には斯ういふのがある、本紙に所載の各鐵道時間を結びつけて徑路や連絡區間の時間を無視したものである、又、全體の哩數と列車一時間の平均速力で割つて計算したといつて頭の好さを誇つてゐる人もある、斯うなると寧ろ御愛嬌の方だ

◇

紅だ、白だと何處へ行つても驛傳の話――そして驛傳フアンを生じ全滿愛讀者を擧げて紅と白との兩班に分けて白熱的な驛傳時代を現出した。したがつて一會社、一商店、一家庭――一置屋の藝妓部屋まで紅が勝つ、イ[illegible]白が勝つの二派に分れて、兩班に對する熱烈な激勵の電報、手紙が日々幾十通となく配達される、白の加藤選手が消息を斷つた時など一時に海嘯のやうな電話の見舞に留守をあづかる班長以下選手は大に感激した

英巡洋艦へ答禮

田中大連民政署長、石本市長代理小泊庶務課長兩氏は廿七日午前十時答禮のため英國巡洋艦カムバーランドを訪問した

床次氏の入閣は改造の必須條件
兒玉秀雄伯語る

【東京二十六日發電】新任拓務大臣として下馬評に上りつゝある者には與黨、貴族院を通じて今や三、四人にしてとゞまらざる狀態であり、其の中でも首相の個人關係よりして比較的實現の可能あるものとしては貴族院の兒玉秀雄伯が噂せられてゐるが、當の兒玉伯は其の噂を全然打消しつゝ改造問題について左の如く語る

私の事などは全く世間の下馬評にとゞまつてゐるに過ぎぬことは斷言して憚く、最近田中首相に改造問題で話したことはあるが、改造するなら鐵筋コンクリートにしろと進言してゐる次第で、床次君の入閣は改造の必須條件と信じてゐる次第である

床次氏に入閣交渉
行く行はれん

【東京特電二十七日發】政友會の秦豐助氏は過般來湯河原に於て床次氏と數次會談し政局に關する意見を交換して入閣を懇望したが床次氏は廿八日歸京することゝなつたので首相は近くいよ〳〵正式に床次氏の入閣を求むる筈である

事業化せる工業研究
關東廳調査

商工省工務局では產業獎勵の意味を以て關東廳に對し官營並に民間機關に於ける工業に關して

一、研究完了事項中事業化せるもの及び事業化可能見込みあるもの

二、研究着手中の事項の概要

の調査報告方を移牒して來たので當局は直に大連に於ける日清製油、大華冶金公司、大連工業、滿蒙殖產、奉天に於ける滿蒙毛織等の諸會社にこの旨示達し右二項に該當する事業の概況を徵した處、既に事業化したのや事業化可能の見込みあるもの、研究着手中のものは左の通りであると

▲日清製油會社 諸植物油の精製法、大豆油粕の食料としての利用法、太豆油搾取改良法

▲大華冶金公司 高速度鋼、不銹鋼、電氣抵抗線、板および棒、マグネツト鋼、タングステン及モリブデン等のフエロアロイ、白金鋼アルミニユーム製造、タングステンカーバイト鋼

▲大連工業會社 耐寒性防濕防水布

▲滿蒙毛織會社 模樣入毛布、絨氈原料糸、山羊絨及ラクダ「ヘヤー」除去

▲滿蒙殖產會社 製膠事業、ゼラチン製造、フイルム及び骨炭製造

政友會が功勞章制定

【東京特電二十七日發】田中首相の人事行政に對して兎角の批評が多いが就中黨內の意向では多年黨の爲に盡瘁した長老でありながら自ら名聞を求めず不遇の地位にあるものが殆ど其の功績に報いらるゝ處ないのは遺憾であるといふのである、首相も近來此の點に留意し始めたやうであるが更に全國の各支部を通じて多年黨務に努力した長老に對し功勞章といふやうなものを贈る案を立てたので目下幹部の手に於て詮衡中であると

市民乘艦を許し兩驅逐艦旅順へ
廿七日夜は市中照明

今二十七日の海軍記念日祝賀のため二十六日旅順より回航してきた第二遣外艦隊中の驅逐艦「槇」「椿」の二隻は目下西埠頭に繫留中であるが廿七日夜はサーチライトを照らし大連全市を照明することゝなつた、而して同艦では今回の海軍記念日廿五周年を迎ふるに當り、海事思想普及のため市民中より希望者の乘艦を許し廿八日午後一時旅順に歸航の際兩艦に約三百名を乘組ましむることゝなつた、乘艦希望者は廿七日大連市役所內の海軍協會へ現住所職業氏名年齡を明記して申込まれたいとのことである

午後には一層參加者增加
盛況を極めて終了す 廿六日の小銃射擊會

本社後援市民射擊會は晝からは一層參加者が殖え初心者は銃の分解に至る迄憲兵隊員から懇切に敎へられ熱心に練習してゐた、尙午後二時迄の締切時間には二百九十三名の申し込みあり頗る盛會で漸く四時頃射ち終つた

當日の成績左の如し

▲特別一等射手

一等 四十二點 中村謙介
二等 四十二點 田切七郎
三等 四十一點 內野末吉
四等 四十點 西村榮
五等 四十點 丹治正市

▲一般射手

一等 四十五點 齋藤俊六
二等 四十一點 淺川英次郎
三等 四十一點 田上良穗
四等 四十一點 西郡宗三郎
五等 四十一點 貞重治
六等 四十點 下重司郎
七等 三十九點 佐藤良吉
八等 三十九點 常包勝次
九等 三十九點 山中忠藏
十等 三十七點 安田孝三
十一等 三十七點 伊藤銀治
十二等 三十七點 緒方庄人

▲學生射手

一等 三十五點 河野榮一郎
二等 三十一點 岩田正平
三等 三十一點 內藤正弘
四等 三十一點 藤原政雄
五等 二十九點 村野保
六等 二十九點 伊藤正夫
七等 二十九點 武田泰明
八等 二十九點 五十嵐喬
九等 二十八點 原田光夫
十等 二十八點 桝田耕亮
十一等 二十八點 和田誓大
十二等 二十七點 三澤五郎

尙中村謙介、西郡宗三郎の兩氏新[illegible]に

幹事に任命されたが、中村氏は東亞土木の社長で珍しい左利の名手であり西郡氏は海關副稅務司で肝腎の人差指を痛めてゐるので中指で引金を引いてゐるが多年海外に在つて各種の射擊優勝牌を所持してゐる熱心な射擊手であると

吳光新氏夫人けふ別府へ
城口顧問と

二十六日出帆の香港丸で吳光新顧問城口忠一郎氏は第二夫人吳少梅及二子を伴ひ別府に向つたが同氏は去る二十四日同船にて第一夫人吳蓮及第二夫人を連れ歸連したものである、因に今度は當分大連には歸らぬ由、尙同船には元張宗昌第四師長祝宏德氏も乘つて居たが仄聞するに張宗昌氏は此度の亡命の際には僅かの所持金しか無かつた爲同氏が此の調達の爲在滿直魯系の將官連から金融を圖り是を持參するのだと云ふ噂もある

歐亞連絡準備協議會

本月末哈爾賓に於て開催される歐亞連絡時刻表會議及び日滿歐亞連絡運輸寢臺約束手續に關する日本側の下打合せ會議は二十七日午後一時から滿鐵社員俱樂部にて開催された、出席者は左の如くであつて廿八日まで開會する

▲滿鐵 古山第二涉外係主任、角田涉外課員、彥坂營業課員、森審查係員

▲鮮鐵 佐藤參事、福田營業課員

▲鐵道省 新井國際課長、小林事務官

人事

▲新井堯爾氏(鐵道省國際課長)小林勇藏氏(同事務官)加藤鎌三郎氏(同上)小島信彥氏(同上)他九名二十六日午後八時十分着連ヤマトホテルへ

▲板垣大佐(關東軍司令部參謀)二十六日來連遼東ホテルへ

▲神崎正助氏(營大公司專務理事)二十六日午後四時出帆の濟通丸にて天津へ

安田稠子

「バーカー大佐」と稱し男になりすまして花嫁を貰ひ六年間も誤間化してゐた立派な「女」アーマ・アーケルスミス夫人の化けの皮が剝がれた▲そしてその女はとう〳〵懲役九ケ月に處せられた▲罪名は結婚屆を出す際に名を僞り性を僞り「二重結婚」をしお上を馬鹿にしたといふ僞證罪だが判決に當つて判事は「この敎育なく無遠慮なる圖太い女は神の宮を穢し自然の掟を亂り乘へ人の世の法と良俗とを蔑ろにした」と述べてゐる▲犯人のアーケル・スミス夫人は相手のエルフリダ・ハワード孃と二年間も交際した上、今から六年前堂々と結婚し前後四年間立派に夫婦生活をして來た▲エルフリダ夫人も自分の夫が女であらうとは今度新聞で見て初めて知つた位でその間の玄妙不可思議には誰あつても驚かぬものがないと云ふ變り方である

特產

◇定期後場(銀建)

▲大豆(强調)單位厘

限月	寄付	高値	安値	大引
五月末	六四六〇	六五〇〇	六四六〇	六四六〇
六月末	六四一〇	六四一〇	六四一〇	六四二〇
七月末	六三七〇	六三七〇	六三六〇	六三七〇
八月末	六三六〇	六三六〇	六三六〇	六三六〇
九月末	六三四〇	六三六〇	六三四〇	六三六〇

出來高 四十八車

▲三等大豆(出來不申)

▲豆粕(强調)單位厘

限月	寄付	高値	安値	大引
六月限	二一七〇	二一七五	二一七〇	二一七五

出來高 三千枚

▲豆油(出來不申)

▲高粱(保合)單位厘

限月	寄付	高値	安値	大引
六月末	一四七〇	一四八〇	一四七〇	一四八〇

出來高 十一車

▲包米(出來不申)

◇現物後場(銀建)

	寄付	大引
混保大豆(袋込)	六五〇〇	六五三〇
大豆(裸物)	—	—
出來高	二十車	
三等大豆	出來不申	
豆粕	二一六〇	二一六五
出來高	五千枚	
豆油	一六二〇	一六二〇
出來高	二千二百箱	
高粱	出來不申	
包米	出來不申	

錢鈔

◇定期後場(單位錢)

期	寄付	高値	安値	大引
期近	九五六〇	九五六〇	九五二〇	九五二〇

出來高 期近 百八十五萬圓

◇現物後場(單位錢)

	銀對金	銀對洋	金對洋
一時半	九五八〇	一三七七	一八一〇
二時半	九五六〇	[illegible]	[illegible]
三時半	—	—	—

出來高 銀對金 一萬圓 銀對洋 一千圓

商品

後場 出來不申

神戶特產物(廿七日)

品目	價
大豆現物	七五〇
大豆先物	六五五
豆粕現物	二二七
豆粕先物	[illegible]
滿洲小麥	[illegible]
豆油現物	[illegible]

大阪綿糸

限月	後場寄	後場引
六月	二三七六〇	二三八三〇
七月	二三六五〇	二三六四〇
八月	二三四九〇	二三四八〇
九月	[illegible]	[illegible]
十月	[illegible]	[illegible]
十一月	[illegible]	[illegible]

東京期米

限月	後場寄	後場引
五月	二九三一	二九二九
六月	二九七五	二九六四
七月	三〇一七	三〇一二

大阪期米

限月	後場寄	後場引
五月	二九四〇	二九四七
六月	二九八三	二九七六
七月	三〇四二	三〇四四

東京株式(長期) [illegible]

東京株式(短期) [illegible]

大阪株式 [illegible]

橫濱生糸 [illegible]

滿洲日報

關內出兵と東北四省の不安

◇諸方面よりの情報を綜合するに、蔣介石、馮玉祥兩軍の衝突は到底免るべからざるものであり、兩者の抗爭はいよ〳〵シーリアスなものになつて來た。之に伴ひ張學良氏は、既に蔣介石の要求に對して、參戰承諾を與へ、相當大規模なる動員計畫に就いては、自軍論者の意見をも最近開かれた首腦部會議に於て、蔣介石氏援助、馮玉祥統制のため關內に出兵し、以て平津地方の勢力を恢復すると、東北四省の積極的保境安民策を執るに決したと傳へられる。故張作霖氏ほどの統制力を有せぬ學良氏が、亡父の力を以てして蹉跌せる計畫を、再び踏まんとすることは、驚くべき事業であつて、東北四省の責に此に存すといはざるを得ない。

◇今、これが風雲急なる關內の實狀に照して觀るに、非常なる政局の變化のない限り、何人も首肯し得るところである。蔣軍は今や、河南の馮玉祥と殆んど包圍の狀態にある。故にこれに對する戰略は兵語の所謂內線作戰あるのみで、馮を動かんとするは山西なることは想像に難くない。そは山西の地形と地盤相接攘せる馮玉祥の關係から觀ても瞭かである。閻錫山は此爲め和戰兩樣の策を講じつゝあるが、山西防守の爲めには平津地方駐屯の兵を省內に撤退せしめねばならぬ。とすると、平津一帶の實權は勢ひ馮玉祥と款を通じつゝある閻智軍の掌握することゝなる。そして唐は蔣馮の戰の推移を中立的態度で洞ケ峠をきめこむであらう。軍事的有勢となれば馮に寢返りもすることは消息通の推定するところである。蔣介石氏とてこれを知らぬ筈がない。茲に於てか唐軍の津浦線方面移駐の電命となつたのである。

◇今日の兵勢から觀れば、孤立無援の山西は結局馮軍の馬蹄に蹂躙さるゝこととなるべく、其結果は馮軍の京畿方面の侵入となるは自明の理である。斯うなると、さしづめ脅威を受くるは奉天軍である。馮氏を不俱戴天の仇敵とするは張作霖在世當時より今日に至るも易らぬ奉天のためである。それ故に奉天側の蔣介石氏との提携は必要以上に進められ、隣邦の忠告をも無視して易幟改制を斷行しこれが歡心を買ふに力め來つたのである。隨つて、今回、時局急變に際し蔣よりの關內出兵要求に際し張學良氏が一部反對論者の意思を抑へて承諾の意を表明せるも亦止むを得ざるところである。

◇然るに、東北四省內の實狀はどうであるか。張學良氏は故張作霖氏の後を繼ぎて日尙淺く其絶對和平主義が纔に、四省官民の輿望をつないでゐるのである。若しコノ官民の希望に反し、兵を動かし關內の戰禍に捲きこまるゝとならば、彼に對する信望は地に墜ち內部に動搖を來すべきは容易に考へ得らるゝところである。こは啻に奉票の暴落による經濟的の大混亂のみならず內政的に一問題發生せずには措かぬであらう。この時東北四省に特殊の利害關係を有する我が國の受くる影響また尠なからざるものがあるは自然の理である。而かも、コワ蔣氏の勝敗如何に拘らず當然來るべき東北四省の運命である。馮氏勝てば東北四省は、目前に馮軍の脅威を受け保境の爲めこれが東北四省侵入を防止せねばならず、蔣氏勝てばまた、東北四省と蔣派との關係は今日以上に緊密となり、事毎に蔣氏の牽制を受くることゝなるであらう。孰れにしろ、奉軍の戰禍に捲き込まるゝは、遲くも六月中と看做さるゝが故に東北四省の政治的乃至經濟的危機は目前に迫つてゐるものと觀て宜い。

滿蒙鐵道驛傳競爭

快い四洮線の旅 窓外に展く興亡史

驛員は總べて日本語を解す

(第九信)　鄭家屯にて　加藤白班選手

◇開原は昔草茫々の大原野であつたが、鐵道開通によつて奧地海龍城、掏鹿地方の大きな大豆の集散地を控へてグン〳〵發展し、今日ではむしろ鐵嶺を凌駕してゐると云はれてゐる、大豆、高粱さては玉蜀黍等の集散は恐ろしい數に上つてゐて從つて油房、精米業の發達は素晴らしい。其開原も夜の裡だ、列車は曉闇の中を北に〳〵と進み金溝子、馬仲河を過ぐ馬仲河は蒙古王達爾罕王旗下の領內で附近一帶は往時蒙人が都して殷賑を極め、元代に至つて征略されて驛の南方約二丁の邊に城壁の殘影を止めてゐるに過ぎない、昌圖此處も鐵道開通によつてふくれた街である

◇昌圖の驛に着いた頃東天がほのかに明る味を帶び出した、旅の夜明けはしみ〴〵身に泌みてうれしいものだ、スル〳〵と夜の幕は揚げられて遠い所まで朝の空氣に濕んだ情景を見せてくれる、水氣を含んだアカシヤの密林、楊柳が朝風になびいてゐる莊家堡が朝の列車を見送つてゐる、競爭第二日目の行程に入つたのだ、事務車掌と色々話をする、氏は我白班の雄千田君を知つてゐる人で話は色々はづみ結局は競走の事に落ちて行く。

◇次は滿井、日露役の休戰の最前戰として西沙河子の塔塚を兩軍休戰條約會見所として有名である泉頭を過ぎ双廟子の名に懷しみを感じ桓勾子、虻牛哨を經て四平街に入る、私の大きな役目の一つがこの驛で果されるのである、六時十六分四平街着、驛の所在地は全く鐵道開通によつて開かれた新市街であつて滿蒙五鐵道の一つである四洮鐵路の開通と相俟つてその發展を促されてゐる

◇停車と共に懷しい滿日の小旗を持つて滿日支局長櫻井氏、販賣店の菊地氏等が出迎へてくれる、四洮線との間に五十分から暇があるので色々話し合ふ。

◇四平街から鄭家屯まで、私の責任コースはかくして漸次縮められて行くのだ、動搖の少い氣持の好い線路だ、それに驛員の殆ど總てが日本語を解する、一寸した事だが私に力を與へてくれる、此線は大正二年十月締結された滿蒙五鐵道の一つとして企畫され、翌年三月、四鄭鐵路局が生れて四年十二月正金銀行との間の借款契約によつて六年に起工同年十一月四平街鄭家屯の間に汽笛の勇ましい音が近郊の士民の眠りを覺ましたのである、四洮鐵路局の事務室で站長周寶學氏の證印を貰つて長い汽笛を五月の空に揚げて出發、泉溝を通過して八面城に入る

◇この八面城の名は形狀八角の蠟石碑が附近より發掘された爲に冠せられたものでこの八面碑は今遼代の遺蹟を知る貴重な參考資料として泉溝より東一支里の關帝廟に納められてゐる、窓外はやわらかい風が吹き通して窓外の風物は滿洲特有の變化のないものであるが諸い土にも青い草にも遠い丘陵にもそれ〴〵捨て難い趣きがある。

◇プラツトホームの短い小さい驛、曲家店に着いた時、村の童が石に板を敷いてギツコンバツタンやつてゐる、私は小さかつた頃、田舍でよくそんな事をして遊んだものだ遠い幼時の幻を再びこの汽車の中で想ひ出さうとは誰が豫期した事であらう、無心に戲れる子供等の健かに延びん事を祈り乍ら傳家屯を經て三江口に入る。この村は遼河の舟楫上特に重要地點として古時は頻りに荷物が動いた所であるが、今は淋しい街に化してしまつてゐる、丁度播種期なので只鍬の痕が農民の細いしかも撓まぬ努力の跡となつて歴然と目の續く限り印せられてゐる。遠い所で馬がいなないてゐる。

◇一棵樹を經て鄭家屯に入るプラツトホームに降り立つといづれも金筋いかめしい驛員のみだ、ヤツト站長に會つて證明の印を貰ふ、そして直に午前十時發四平街行に移乘して三十分程發車を待つ、この間領事館より李といふ人が挨拶に來てそして云ふ「御成功を祈ります、この邊は雨が降るとすぐ水が出ますが、雨も降らず非常にうまく行きましたね」戻り道だ、歸りの心强さは又格別だ快く一眠り。

全身忽ち灰色に染まる 名物蒙古砂の本場

連絡不便な四洮、洮昂兩線

(第九信)　洮南にて　秋山紅班選手

◇鄭家屯を離れる頃から車中は冷氣を加へ蒙古氣分が漂ふ、今まで呑氣に熟睡してゐた支那人等も毛布を引き出し、外套を被つて寢る、氣温は餘程低くなつたらしい、加賀山局長一行のいびきは益々高くなり交響樂の行進で汽車は無心の曠野を走る、薄明の月も今は雲に閉ざされ、見渡す限りの天地に星の影さへ見えない、何と雄大なそして感慨の深いことだらう、ありし昔の蒙古民族の東征を夢に畫く

◇廿日午前六時十七分洮南車站に着す、西村洮南公所長は一行を迎へ公所特別の箱馬車で城內に向ふ、朝まだきに露さへないヒカラビタ砂塵埃は濛々として立ち、頸や手は灰を降りまいたやうに眞白くなる、コンサージの洋服が小倉の鼠服のやうに變る、これで雨でも降れば道は泥濘と化し客馬車の車輪は半沒すると云ふ、張海鵬と男はどうしたわけで斯んな邊鄙な處を選んで站を設けたものか、驛から城內まで約廿町ある、其間全くの草原でツンドラ帶を成した荒蕪地である、張海鵬の考へとしては其の土地の地價を吊り上げやうとしたのであつたらしい、城門前で騎兵と重砲兵が操練してゐた、公所の雨夜君の話では毎朝五時頃から練兵をしてゐるとのことであつた。

◇洮昂線驛は城內より約十町の地點にあり四洮と聯絡をしないので旅客は一時乘替へをせねばならない斯うした不便を與へてまで鐵道の聯絡を避けてゐるのは普通の常識では判斷ができないのである、權力者のために地價を左右し其れがため困るのは人民である、其ればかりでない驛傳リレーに立つて寸分を爭ふものにとつてこれ位馬鹿氣た鐵道はないと多少憤慨する、これが支那たる所以だとあきらめることが矢張り沒法子なのであらう

◇公所で小憩の後八時三十分洮昂線に入る

洮昂線の洮南驛—◇

赤化宣傳員を制限

【哈爾賓】浦鹽の赤化宣傳委員會は同會から各地に派遣する日、鮮支の多數宣傳員が徒らに金錢を消費するのみか反對に買收される事が兩々あるに鑑み今回嚴重なる規定を設け派遣員の資格を制限する事になつたが其によると黨機關に五年以上の關係を有し正黨員となつてから三年以上を經過したもので農勞大學の出身たることを要し且旅費は百留を限度とすることになつてゐる

哈爾賓を中心に長途電話を統一

哈爾賓に總局を設け四局を分局に改む

【哈爾賓】北滿における支那長途電話局には黒龍江長途電話局、吉黒長途電話司、哈滿線長途電話局、東鐵長途電話局の四ケ所があつてそれ〴〵獨立した通信の系統をたてゝゐるため各局線とも連絡する方法なく頗る不統一のものであつたが將東北電政監督は今回の來哈を機とし右各局を同一系統の下に總括することゝなり局長尤家楨氏を北滿長途電話局長に兼任せしむるとともに左記六項の規定を設けて實行することになつた

一、各長途電話局の名稱を取り消し哈爾賓に北滿長途電話總局を設け從來各地にあつた電話局は分局と改む
二、長途電話の連絡は哈爾賓總局を中心とする
三、商民は各局において自由に通話をなすことを得
四、各地電話局の分局は適當な地點に定めること
五、料金を制定すること
六、市內電話との接續をなすこと

東鐵消費組合復活方を請願

【哈爾賓】綏分河の東支鐵道消費組合及び海拉爾の東支鐵道商業部出張所は何れも不正行爲があつたので閉鎖を命ぜられてゐるが今回東支鐵道當局は爾後絶對に不正行爲をしないこと及び支那官憲の命令は嚴重に遵守することを條件としてこれが復活方を請願して來たので支那側では慎重審議の上許可する意向であると

八相

投書歡迎　中傷を目的とするのは採らず　新聞行數五十行以內のこと

交通事故の頻發に就て

運轉手　E　W　生

最近頻々として起る交通事故の原因に就て私等が日常の實地經驗により得たるところを世間の參考に供したいと思ひます、私は自動車だけの事故に就て述べることにしますが、大低の事故の原因は八割迄は法外な速度に操るもので殘りは運轉手の不注意と通行人の不注意。事故の原因は決して運轉手だけの不注意でなく全く双方共悪い例が多いのであります、市街地に於て直線な道路を規定外の速度を以て走行中突然十字街路に於て横道より相當な速力を出して來た自動車、オートバイ、自轉車が直線道路を疾走して來た自動車の警報に氣付いて急にその場に停車出來得ればよいがその反對であるとすれば、直線行進中の自動車は速力が大であるから急に停車しやうとしても不可能であります、此の樣な場合に依りて惹起する事故は双方共の不注意であります、又走行中の自動車が通行人の方に來るのを知りながらみす〳〵對側に横斷せんとするとき自動車の速度がなければそれでよいが、若しあつたとき轢いたらこれも双方の不注意が原因であります、殊に通行人は步道を迴り横斷せんとするときは左右に兩眼を働かして横斷するに安全を確めてからでなければなりません、內地の日本人と比べると滿洲の人は大陸的なんびりとした氣質があるやうで幾ら警報器を鳴らしてもすぐ避譲しやうともせず、閑氣に構へてゐる、殊に支那人に於て甚しいのであります、前に述べた通り八割迄は過速度に操りて起る事故としましたが現在の如くタクシー業者が激甚なる競爭を行ひ、勢ひ料金を値下げして一人でも多くを拾收しやうとする結果料金が以前より安いから一回でも回數を增さんとする、增させうとするのがそも〳〵遠因を出さなければならぬ原因となるタクシー業者もよくこの點に留意して事を處理しなければ事故は頻發するばかりである殊に技術不熟練、性質の悪い運轉手には成るだけ免許證を與へぬ樣にしてお互市民が一致して細心に注意しそして交通巡査がもう少し機敏に行動を行ひ、前記の事を實行したら交通地獄の大連市は明るい尤も安全な綜然たる立派な街となるに相違ないのであります、ついでに警察當局にお願して置きたい事は、運轉手に免許證を交附するに本人の人格をも喪破してもらひ近來の就職難につれて知識階級者がこの方面に心ざし先天的不良な運轉手が漸減するだらうとは思ひますが警察當局を初め一般社會に高潔な職業として認めて貰ひ殊に警察官吏の私等に對する行爲は傲慢侮辱であるからこれも矯正して貰らひたいのであります

けふの放送

簡易支那語會話

滿鐵學務課　秩父固太郎

第百課

1 您學話有幾年了　2 還不到一年哪　3 您能說的這麼好　4 不敢說會說　5 您學的很快　6 沒有的話　7 大概的話都懂罷　8 現在還不行哪　9 您太客氣了　10 還得學幾年　11 用不了幾年　12 那能行噯　13 一定能行　14 恐怕學不好　15 您得常說常聽　16 那是好法子

(譯文)

1 貴方は語學を習つて何年に成りますか
2 まだ一年には成りません
3 貴方はこんなに善く話が出來られるのですね
4 話が善く出來るなどゝは申兼ねます
5 貴方は覺え方が速い
6 いゝえ、そんな事は有りませんよ
7 大抵の言葉は皆判るでせう
8 今まだ駄目です
9 どう致しまして(それは御遠慮です)
10 まだ何年か稽古しなければ成りません
11 何年なんて掛かりませんよ
12 そんなで出來ますかね
13 屹度遣れます
14 多分善く覺えられぬでせう
15 貴方は始終話したり聽いたりしなければ不可ません
16 それは善い方法です

(語彙) 1 講書　2 背念　3 默　4 翻譯　5 演說

(新字) 恐。常。講。背。默。翻。譯。演(完了)

コドモページ 成績紙上展覽會

後悔

遼陽小學校尋六 松尾勝

昨日の事であつた。ろくにかみもしないで朝の御飯をすまして倉庫へ行き、鍬を持つて畠へと向つた。掘つては上げ、上げては掘りし、からうじて一うねはすんだ。鍬をそばに置いて休んで居るとお母さんが窓から「もつと深く掘らないとだめだよ」とおつしやつた。「もう一ぺん此處を深く掘るのか」とがつかりしながら再び鍬を握つた。畠はすんだ。此度はぶらんこの方へ遊びに行かうと思つて玄關へ廻つた。すると二階の方で誰かがさうじをして居る。僕は靜ちやんだらうと思つて「一ついたづらをしてやらう」とひとり言を言ひながら土を二階の方へ投げた。すると誰も出て來ないのでもう一つ投げた。さうしたらお母さんが出てゐらつしやつて「今せつかくさうじをして居るのにきたないじやないの」とどなられた。僕は「電信柱へ投げたのだよ」と言つた。「あゝ僕が惡かつた」と思つた時もうお母さんは其の場には居らつしやらなかつた。

かへる

金州小學校三年 山本嘉與子

此の間私が川さきさんとあそんで居ますと、にいやんが大ぜいあつまつて、何かして居ました。私はふしぎに思つて川さきさんと行つて見ますとどうでせう、かへるがひもにむすばれてゐます。そのよこでにいやんが石をなげつけて居ます。私は生ものをころしたり、いぢめたりするやうなものはろくな人にはなれないと書いてあつたのをかんがへました。そして私と川さきさんとにいやんたちがのいてからかへるをたすけるのをそうだんしてゐますと、そこにおさむさんが來て「何をしてゐるの」ときゝました。それで私がそのわけを話しますと、おさむさんも一生けんめいにかんがへてゐました。私はふとかんがへました。「あのね、いい事があるのよ、かへるのひもを切つてやつて、どこかにいやんの見つからない所にかくしておいたらいいぢやないの」と、いひました。みんなが「そうね」といひました。それでおさむさんがないふを持つて來てかへるのひもをといてやりました。そしてかへるのおうちを石でつくつてやりました。

しんだい

大廣場小學校三年 大藤菊枝

私は皆さんにおくられてお船に乘つてみるとびつくりしました。今まで見たことのないしんだいがあります。そのしんだいにはカアテンがあります。それに上と下とあります。上に上る時ははしごをかけて上ります。私はしんだいにねるのをたのしみにして居ました。まもなく夜がきました。私はうれしくてたまりません。ねまきを着てはしごをかけて上りました。そしてカアテンをあけたりしめたりしましたので、お母さんが早くねなさいとおつしやいました。私はそれからすや〱とねむりました。十二時ごろやすちやんがやかましくいつたので目がさめてこまりました。私は朝、お母さんに、しんだいがよくてもねむられなければつまらないねといひました。私はしんだいでねるのがすきでした。

靜物（油繪）

大廣場小學校六年 緒方一美

小平島遠足

松林小學校六年 月成靖

「ヤアー小平島が見える」皆は一度に元氣づいた。旅大道路から左に折れると、急に道は惡くなつた。支那の部落を通りぬけて山路にさしかゝつた。さつき通つて來た部落が箱庭の樣に見下される。右手を見ると十數丈のだんがい絶壁である。波が白ちやの樣にうねりうねつて岩にぶつかつてゐる。山の頂きにたどりつくと、さつきまで暑かつたのに太陽の熱が急にゆるくなつた樣だ。一町先に一つの大きなハゲ島がある。上が平で航空母艦の樣で面白い島だと思つた。はるか水平線上に見える白帆の影もきれいに晴れわたつた春の空に浮んでゐる。すべてが生き〱としてのんびりした氣分はこゝでなければ味は得ないことでせう。町の黄塵や騒々しい電車のひゞく音もなく自分等の心のたましひまで洗ひ清められた

かなりや

松林小學校三ノ三 篠田美智子

私のうちには一羽のかなりやがかつてあります。それは、お父さんがりいさんといふしなじんにたのんで、てんしんからかつてきたのです。それから二三日ばかりたつと、もう私によくなれたとみえて、私がえをやらうと思つてかごの戸をあけるとそのそばでまつてゐます。そしてよくなれた上大へんよくさへづります。お母さまは「ほんとうに此かなりやはかわいいね」とおつしやいました。毎日私が學校からかへるじぶんには、その美しいかなりやのこえがきこえます。私は小鳥の中でかなりやが一ばんすきです。

てふてふ

金州小學校尋三 加藤秀太郎

僕が學校からかへるとちゆうでてふてふがひら〱とんでゐた。僕は小山内君に「てふてふがとんでゐる」といつた。小山内君と僕はてふてふを取らうとした。僕はぼうしをぬいでてふてふめがけてなげつけたがてふてふは向ふにとんで行つてここまでお出といふやうなかつこうをしてゐた。僕は又おいかけた。ぼうしで取らうとしてぼうしをくる〱まわした。するとてふてふがぼうしの中にはいつた。「うまい」と思つたらにげてしまつた。ちよつとよこを見ると田中君たちもおひかけてゐた。向ふの方では田なべ君もとろふとしてゐた。僕はきつくなつたので小山内君となかよくかへつた。

アル日ノオサンポ

伏見臺小學校尋二 外松ミツ子

私ハ オトツイ オトウサント ネエサント フトウノハウニ サンポニイキマシタ。フトウニイツタラ 大キナフネガ ナンゾウモアリマシタ。私ハオトウサンニ「アレハナントイフフネデスカ」トキキマスト オトウサンハ「ハルピンマルダ」トイヒマシタ。私ガ下ヲヨクミルト フナノリサンガ イソガシサウニハタライテヰマシタ。私ハ ナニカタベタクナツタノデ オトウサンニ「シナリヤウリガタベタイ」トイツタラ オトウサンガ シナリヤウリヤノハウヘハイツテイキマシタ。中ニハイルト ブタマンジユウノ ニホイガシタノデ私ハ「アアイイニホイ アアイイニホイ」トイヒナガラズンズン 中ニハイツテイキマシタ。オトウサンハ「ブタマンジユウガホシイノ」トイツテ 私ノカホヲミテワラヒマシタ。ネエサント私ト二人デハイルト ボーイサンガ「イラツシヤイマセ」トイヒマシタ。ソレカラオトウサンガ ニイヤンニ「ヤキソバーツトブタマンジユウーツクダサイ」トイヒマシタ。ニイヤンハ「ハイ」トイツテモツテキマシタ。オトウサンハ「サアタベヨウ」トイヒマシタ。私タチハタベハジメマシタ。ミンナタベテシマフトオトウサンガモウカヘラウトイヒマシタ。ソシテ マチヘイツテクリヲオミヤゲニモツテカヘリマシタ

童謠

ひよこ

大廣場小學校二年 二瓶きよこ

ひよこひよこ
かはいいひよこ
とうさまかあさま」
よろこんで
うちのひよこは
ぴよぴよなけよ
かはいい子ども
かはいいひよこ」
こ米をやりませう
なつぱもやりませう」
ひよこひよこ
こやはどこだ
こやはここよ
とうさまかあさま」
どこにゐる
とうさまかあさま」
はたけにゐるよ
はたけはどこぢや
むぎのそこよ
ひよこひよこ
かはいいひよこ」

お日さまと子牛

大廣場小學校二年 弟子丸李枝

日ながのお日さま
ねむさうだ
もうもう小牛も
ねむさうだ

すずめ

大廣場小學校二年 金子隆之助

すずめがちいちく
ないてます
ちいちくちいちく
ないてます」
ほんとにすずめは
かはいいな
ぼくらがくちぶへ
ふいたらば
すずめもいつしよに
ちいちくちゆう」

ほんとにすずめは
かはいいな

こひのぼり

大廣場小學校二ノ二 堀義彦

こひのぼりは
いさましい
一ばん上が
やぐるまだ
そのつぎながい」
まごひとひごひが
あがつてる
風をたくさん
のみますと
まるまるふとつた
こひになつて
からだをゆすつて」
およぎます
ちつとも風が
ないときは
ぴちやこやせて」
およがれない
おなかがへつて」
およがれない

キンギヨ

大廣場小學校一年 村田知子

マイニチマイニチ
キンギヨウリ
キンギヨヤキンギヨト
ウリニクル
アカイクロイ
タクサンノ
キンギヨハユラユラ
オヨイデル

もくれんの花

大廣場小學校二ノ二 森照男

白い花の木れんが
僕のお内にさきました
とてもきれいで
うつくしい
六つひらいて
あと二つ
つぼみは
明日さくでせう」

愈よけふ八丈島へ聖上東京驛御發輦

午前八時十五分發特別列車で 横須賀で『那智』に御移乘

【東京二十七日發電】天皇陛下にはいよく二十八日八丈島、大島をはじめ大阪、神戸に行幸あらせ給ふ。此の日陛下には午前八時五分宮城御出門特別宮廷列車で八時十五分東京驛御發九時四十分横須賀着、軍艦那智に召され十時四十五分皇禮砲轟く中を八丈島へ向はせ給ふ、八丈島着御は卅日の御豫定である

陛下は御上陸後四里半を御徒歩にて御縱斷あらせられる、陛下には「ありの儘の島の姿を見たい」との御内意を傳へさせられた由で殆ど原始の儘なる島の姿を御覽に入れる事となつた、尚陛下は背廣の御服裝に中折の御輕裝に替へさせられ三原の喩俎を

御登攀

遊ばされるが、三原御登山の砌は御説明役として中村東大理學部長が選ばれた、同氏は大島研究の權威である、又中泉青山師範教諭は大島で採取の博物標本を天覽に供する外、元村では島の女四名に島特有の情緒ある大島節を唄はしめ御輿を添へ奉ることになつてゐる

情緒に富む大島節を天聽に

島人行幸を待佗び奉る

【大島元村廿七日發電】行幸を仰ぐ大島では椿の花は散つたが松葉草の眞赤な花がこれに代り緑蔭には大島櫻の實が枝もたわわに稔つてゐる、巖を噛む白浪の碎ける中を島人は奉迎

準備に

忙はしい一船毎に降りる人の數は増し元村四軒の旅館は既に滿員で島は未曾有の賑はひを呈してゐる、大島御上陸地點は當日の天候に依り決定するが

健康を誇る市民が力を限りの活躍

注目を惹いた軍隊の體操や花のやうな女學生のダンス

市民運動會無事終了

快晴に惠まれ全市民の白熱的人氣に迦へられて大盛況の内に午前中の競技を終つた市民運動會は豫定通り競技進み、正午過ぎ前年度の四百米リレー優勝ティーム滿鐵消費組合及び千六百米リレーの優勝ティーム遞信倶樂部より優勝盃

返還式

あり、之に對して消費組合には滿日社長のペナント、遞信倶樂部には大連市長のペナントを授與し、續いて羽衣女學院生のダンス「ユーナイト」あり其後態々柳樹屯より來連した步兵第二十聯隊兵士の體操教練が藤田軍曹の指揮によつて、勇壯活潑に進退動作一糸亂れぬ整然さで行はれ、滿場の大喝采裡に終るやこれに代つて彌生高女二年生のげんげの花の一時に咲いたやうな

優美な

ダンス「タンツライゲン」同三年生以上のダンス「バタフライ」にスプリングダンスがあり、朝からの競走競技に固くなつた觀衆の神經を和やかにする、これが濟むと無邪氣な小學生の二百米競走から學生、一般の二百米に移り二人三脚についで當日の呼物である一般五千米は頻りに喝采を受けたが滿鐵の中島保君が一着になり、わが社主催のマラソン以來大連に於ける長距離界の

名物男

となつた五十四歳の笠松常備翁が赤帶に赤鉢卷で走り終る、このあとに肩の凝らぬ役員リレーや來賓競走があり、學生千米メドレーリレー、一般千六百米リレー、四百米リレー等があつて午後六時全競技を終り、直に一般五千米優勝者中島保君千米メドレーリレーの工事ティム、一般千六百米リレーの國際運輸、四百米リレー決勝の沙河口工場等に對して石本市長よりそれぞれ優勝盃を授與し市長の發聲で

萬歳を

三唱して六時十分大盛況裡に第三回大連市民運動會を終了した

トラックの部

▲學生五千米決勝　一着岩佐勇一（大商）一八分三〇秒、二着吉野加生（一中）三着古川政信、四着森一夫、五着前田明

▲重荷競走　一着宮原米雄、殿田留吉、齋藤新右衛門

▲學生四百米　一着白石忠義、平井正春、是松進、日比滿、堀部吉太郎

▲一般四百米　一着關根岩雄、赤島宅一、高橋愛二、尾田扶美雄、山形規、高柳辰雄、村上俊夫、並川友吉、新城弘三、後藤五男

▲綱引　遞信局二――〇西通區、菓子商組合――藥業組合、實力伯仲して容易に勝敗決せず非常に接戰となつたが結局引分となる

▲スプーンレース　一着佐藤四郎、神庭多助、吉出康、井戸田金次郎、待野一勇、伊藤勲政、比良次郎

▲二百米一着

△小學生尋五濱田大作、中村、馬場勝男、上山鋒吉郎

△同　尋六許永貴、グリシヤー林正清、奧村久夫

△同　高一男岩切正

△同　高二男秋房石之助

△女學生津田澤子

△學生富田龍彦、鶴田滿沙男、増井正和、內山健、菅井滿雄、多田益太郎、井上是一、赤城明、小橋謙雄

△一般　持留仁藏、江頭千幹、德田仲兵衛、中村孝、石村保持原茂義、坂田恒夫、千葉正義、川野公、森高殖、入江猛內史郎、高柳若雄、加藤竹次郎、田中直光、濱野軍次、大塚久夫、元田築

▲一般千六百米リレー決勝　一着（三分五〇秒五四）國際テーム（石川、野口、新城、內田）二着消費組合、三着沙河口工場

▲一般四百米リレー決勝　一着四六秒八沙河口工場、二着消費組合、三着中學ティーム

▲役員リレー　一着中學合同チーム

▲一般五千米　一着中島保（一七分五二秒）二着志水政市、三着木下儀利、四着岡田正、五着近藤庄作

▲二人三脚　一着西山諸褒、宮崎十榮、岩崎坂井、吉村齋藤

▲學生千米メドレーリレー　一着（二分一一秒八）工專チーム（坂田、藤島、川口、鹿野）二着育成、三着大商

フィルドの部

▲學生砲丸投　一等石丸正（一一米四九六）

▲一般砲丸投　一等濱野增、新保邦雄、櫻井弘之、本川竹延

▲學生走高跳　一等皆川捨三（一米六〇）

▲一般走高跳　一等岡田吉秋、尾田扶美雄、田村稻美、松本晴睦進藤正之

雜觀

百米突を獨走した石本市長が走川跳に出場して大いにジャンパー振を發揮する、結局二米突五十を飛んで未だ衰へざる意氣を示す▲これと好一對なのが市議の仙波久良君が三米突七〇を飛んで中里老組のために氣を吐いて二着となる▲學生五千米突では笠松翁と好一對で年少で長距離界の人氣者となつた大商三年生の岩佐少年（一七）が短軀よく快走した餘裕綽々として一着となつたのは注目を惹いた▲千六百リレーと四百米突リレーでは前年度の優勝チーム遞信倶樂部と滿鐵消費組合が脆くも敗れたのは意外だつた▲一般五千米突で實業團の高橋三壘手が工場との試合を濟ませてグラウンドに驅けつけると直に出場して九等に入賞したのは素晴らしい元氣であつた

旅順市民の運動會

大成功裡に終了

第三回旅順市民運動會は二十六日午前九時より開催、觀衆約八千、定刻永山會長の挨拶に次ぎ四百米突競走より開始

第七回老人提灯競走には七十四歳の佐藤辰助翁と六十七歳の藤井タイ女の一騎打があり藤井女一等を得て大喝采白玉山登山競走では女子組で郵便局の高木チヨさんが一着、對抗リレーレースは聯隊側優勝

斯くて午後五時盛況裡に終つた

亡き戰友を偲ぶ

在鄉軍人會弔魂團一行

來る三十日夜、旅順から來連

帝國在鄉軍人會弔魂團一行八十名は安藤藏洲中將引率の下に來る三十日午後十時三十分旅順より來連、關東倉庫に一泊、三十一日午前十時中央公園忠靈塔に參拜、正午星ケ浦楽天閣に於ける大連市長主催の午餐會、午後六時より大連民政署長招待の泰華樓の晩餐會に列席、三十一日出帆の陸軍御用船海福丸で內地に向ふ豫定である

常盤優勝

市內小學校公學堂庭球リーグ戰

奬學會主催の市內各小學校公學堂の庭球リーグ戰は二十六日午前八時より神明町高等女學校コートに於いて擧行され參加校十二各々妙技を盡して戰つたが結局常盤小學校と沙河口小學校の二校優勝戰に殘り常盤小學校は不戰一組を殘して十五―八で優勝し本社寄贈のメタルを授與せられ六時半終つた當日の成績次の如し

▲第一回戰（於Aコート）

勝		負
春日（一〇）	――	聖德（一〇）
沙河口（一〇）	――	聖德（九）
沙河口（一一）	――	春日（七）

（於Bコート）

勝		負
常盤（一三）	――	伏見（七）
松林（一三）	――	伏見（八）
常盤（一三）	――	松林（七）

（於Cコート）

勝		負
朝日（一二）	――	大廣場（六）
大廣場（一四）	――	西崗子公（九）
朝日（一四）	――	西崗子公（七）

（於Dコート）

勝		負
南山麓（一一）	――	日本橋（九）
大正（一二）	――	日本橋（八）
大正（一三）	――	南山麓（八）

▲第二回戰

勝		負
沙河口（一三）	――	朝日（一三）
常盤（一三）	――	大正（一二）

優勝戰

勝		負
常盤（一五）	――	沙河口（八）

加大勝つ

對慶應野球戰

【東京特電二十六日發】來朝した加州大學の第一戰たる對慶大野球戰は二十六日午後二時四十分より神宮球場にて天知、橫澤、池田の審判にてバッテリー慶宮武、島本、上野、塚越、川瀨、岡田加大ホーナー、ワイナツトにて行はれ九對六にて加大勝つ閉戰五時五分

法政遠征軍勝

【ホノルル二十五日發電】本日午後當地で行はれた法政對フイリッピンの野球戰に法政軍は圓城寺、鈴木、若林、藤田及び松井を投手とし奮戰の結果八對六で勝を占めた

—◇壯快なる軍艦模型の爆沈◇—

きのふ海軍協會が春日池にて

兵卒給與が月額一圓の増加

教科卒は一圓廿五錢增し

四月に溯つて支給

【東京特電二十七日發】第五十六議會の協贊を經た陸軍兵卒增給勅令は廿七日を以て公布されたが之によると增額豫算は二百四十萬圓で給與令改正の主なる點は次の如くである

一、增額（月額）

下士勤務上等兵の六圓を七圓に上等兵及同級の五圓四十錢を六圓四十錢に、一二等及同級の四圓五十錢を五圓五十錢に、教科卒の一圓五十錢を二圓七十五錢に改正す

一、支給日の變更

從來下士に對しては兵卒同樣十日毎に支給したのを卅月一回とす

尚此の勅令によれば增給は四月一日に溯ぼることになつてゐるので全國各部隊の兵卒は今月末四五兩月分の增額を併せて支給される

煙草行商の鮮人を巡警、支那人群衆が袋叩き

急行の小山軍曹顔面に負傷す

奉天柳條溝の騷ぎ

【奉天特電二十七日發】廿六日午後四時頃滿鐵線の踏切地點に近き柳條溝の我守備隊分遣所附近で一名の鮮人が煙草の行商をしてゐると支那巡警が煙草を買つて代金を拂はぬので口論から掴み合となつたが忽ち附近から支那人が群集して大騷ぎとなり、煙草行商の鮮人は袋叩きにされ援助に向つた東亞勸業公司の小作人李參玉（五二）も暴民のため毆打されて後頭部其他に重傷を負ひおまけに所持金七十七圓四十錢まで強奪された、急報により奉天署から大竹警部補外八名の警官及び守備隊からも小山軍曹外兵數名が現場に赴いたが群衆は尙戰鬪を續け小山軍曹は投石に當り顔面に負傷し、漸く鎮撫した時は前記巡警も煙草賣も孰にか逃走した後であつた

聯合軍樂隊勇しく行進

きのふの東京

【東京廿七日發電】日本海大海戰二十五周年記念日に當る二十七日靖國神社では午前十時半より記念祭執行、竹田中佐の率ゆる陸戰隊一個大隊三百五十餘名及び橫須賀鎭守府及び第一艦隊の編成する聯合軍樂隊百餘名は神前で捧銃の拜禮を終つて市中を勇壯なる軍樂行進を爲した

鮮人青年會の副團長拳銃で射殺さる

容疑者支那警察の手から逸す

我が官憲急行取調中

【鐵嶺特信】原籍朝鮮慶北道青松郡安德面明堂洞當時鐵嶺附屬地五稜職業股份（二七）は昨秦下一面城（鐵嶺を距る東方約十邦）開原縣下上肥地の鮮人學校教員を辭職來鐵し前記警察の傍開原縣

右胸部

に三發、右耳上部に一發を浴びて即死した、李敏雨を黃山屯で支那官憲は逮捕したが同地教員黃海道なる者が保證人となり釋放を受けて何處にか逃走せしめたので一面城鮮人は黃海道、羅錫綱、李閏奎の兩名を代表として二十五日朝鐵嶺の我領事館警察に屆出た、署からは木村書記生、高瀨警部外二名が即日現場に急行取調中である、因に被害者閔氏は妻朴氏との間に二男一女あり在鐵鮮人間の評判もよく曩に設立された鮮人青年會の副團長に推された有力者であつた

お買物は只今！

夏の大安賣

廿九日まで

浪速町の

涙華洋行

古物屋さんが節約の申合せ

大連古物商同業組合は百餘名の組合員を擁してゐるが今般左記の通り生活の改善を期せんがために虛禮と冗費を省き出來得る限り節約する事を申合せた

一、組合員は中元、歲暮等の贈答を一切廢すること

一、組合員が當地を引揚ぐる時の外一切金品の餞別をせぬこと

一、組合員又は其の家族にして不慮の災害若くは重病に罹り貧困のため治療の資なき場合、役員は愼重調査の上救濟の方法を講ずること

一、葬儀は質素を旨とし供花、放鳥、香典返し等の虛禮を廢すること

金儲けの名案

早く御覽！『金儲けを見つける座談會』、福澤桃介氏等財界お歷々の金儲け話公開！講談倶樂部六月號の特別大記事で大變な評判！

播種期

となつたので去る二十一日一面城に赴き滯在中、二十四日朝豫てより知り合ひの韓山屯居住李敏雨（開原農民組織委員長と稱す）が來り韓山屯に赴くべく誘ひ出し途中茱河々畔に到つて突然何者かの爲め拳銃をもつて狙撃せられ

大相撲夏場所

東方優勝

千秋樂勝負

【東京二十六日發電】

勝		負
常ノ花	（寄り切り）	池田川
清水川	（寄り切り）	出羽岳
外ケ濱	（吊り出し）	星甲
朝光	（反つたり）	常陸岳
東關	（上手投げ）	常陸島
幡瀨川	（寄り切り）	若常陸
荒熊山	（突き出し）	白岩
大蛇山	（寄り出し）	岩木山
和歌島	（寄倒し）	劍岳
天龍	（上手投げ）	古賀浦
武藏山	（吊り寄り）	太郎山
鏡岩	（寄り倒し）	寶川
信夫山	（肩すかし）	吉ノ山
新海	（外掛け）	雷ノ峰
山錦	（引落し）	朝汐
賀鶴	（寄り切り）	玉碇
若葉山	（同）	清川
能代潟	（ひねり）	玉錦
錦洋	（寄り倒し）	大ノ里
常陸岩	（だし投げ）	豐國

常ノ花（同）宮城山（打出し五時五十分）斯くて東方勝星百三十五、西方七十四にて再び東方優勝した、優勝者常ノ花に賜杯並に額を優勝旗は高砂取締より常ノ花に授けられた

滿日社友會

廿九日に開催

嘗て滿洲日日新聞に在社した人々によつて組織された滿日社友會では二十九日午後六時から市內扇芳亭で懇親會を開く筈（會費五圓）

けふのラヂオ

昭和四年五月廿八日（火曜日）

自午前十一時　相場（特產、錢鈔、株式、各地相場）

自午後〇時三十分　相場（特產、錢鈔、各地相場）ニュース

自午後三時三十分　相場（特產、錢鈔、株式、各地相場）ニュース

自午後七時三十分（海軍記念放送）

一、ニュース

二、支那語講座　簡易支那語會話　滿鐵學務課秩父固太郎

三、浪花節　五郎正宗孝子傳　桃中軒菊水

四、民謠（一）白頭節（二）安來節（三）都々逸（四）五ツ節　桃中軒菊水、三味線百合子

五、支那劇　珠簾寨　浦東倶樂部々員

六、料理獻立

七、天氣豫報

八、ラヂオ體操

公示催告

大連市西公園町四十九番地 滿鐵社員消費組合本部 申立人 元木照五郎

目錄

一、證券ノ種類及番號　船荷證券壹通外第貳〇參號

一、證券發行日附　昭和參年拾貳月參拾日

一、船舶名稱　香港丸

一、發行人及證券作成地　大阪商船株式會社大阪支店、大阪市

一、船積港　大阪

一、荷送人　田村駒商店

一、荷受人　滿鐵社員消費組合本部

一、陸揚地　大連

一、品名及數量　錦布壹箇

一、價格　金七百八拾七圓五拾錢也

右證書ニ付キ前記申立人ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲シタルニヨリ其所持人ハ昭和四年十一月三十日午前九時迄ニ當法院ニ權利ヲ屆出テ且ツ其證書ヲ提出スヘシ若シ右期日迄ニ屆出及ヒ提出ヲ爲サヽルニ於テハ其無効ヲ宣言スルコトアル可シ

昭和四年五月二十五日

關東廳地方法院

公示催告

大連市寶町一番地同泰油房事申立人 姜西亭

目錄

一、證書種類及番號　貨物引換證レ第七〇參號

一、發送人及荷送地　東永茂、開原驛

一、到着地　同泰油坊、大連埠頭

一、證書發行所　開原驛

一、證書及託送發行年月日　昭和四年五月拾九日

一、品名　金元大豆（麻袋入）

一、數量　參百五拾袋（四九、七〇〇斤）

一、價格　金參千圓也

右證書ニ付キ前記申立人ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲シタルニヨリ其所持人ハ昭和四年十一月三十日午前九時迄ニ當法院ニ權利ヲ屆出テ且ツ其證書ヲ提出スヘシ若シ右期日迄ニ屆出及ヒ提出ヲ爲サヽルニ於テハ其無効ヲ宣言スルコトアルヘシ

昭和四年五月二十五日

關東廳地方法院

本社懸賞當選小說（禁無斷上演）
人生の曲藝（143）
瀨野皓太作　淺枝次朗畫

ホテル、オブ、ミラクルス（一）

諸君よ。この長々しく而も興味あり氣に見えて實は退屈極まりない物語りを、若しも氣永に忍耐強くお讀みになつた讀者諸君に對して、私は汗顏、尙足らざる思ひでお詫をしなければならない。と、言ふのは、この物語の冒頭において、不思議な慘死を、哈爾賓は松花江の氷上にとげた妖艶無比、名聲赫々たる東京劇場の花形女優葉山百合子が殘して行つた數々の疑問に對して、殆ど何一つとして適確な答へを興へてゐないからである。

諸君は徒らに、內村信業を中心とする十有五年の歷史をたゞ、かの冒頭の不思議な事件の解答を興へられるべき期待のもとにお讀みになつたとすれば、たゞ失望を、そして、より不可解な新しい數々の疑問をさへ負はされて來たのであつた。

葉山百合子は、恐らくは內村が探し求めてゐるかの「緋紅玉」の更生の姿であるかも知れないと思はれるふしも有るし、そして又、その昔旅順の法文科大學の若い學生たちの所謂「我らの太陽」カフエルミの女主人公日下部麗子の後身であるかも知れないと思はれるふしもあるし、そして又、この二人には更に關係のない別の不思議な女性であると思はれるふしもあるし……

さて、この疑問のまゝに、諸君らは哈爾賓の怪奇なホテル、オブ、ミラクルスへ話を戻さねばならないのを遺憾とする。

あゝ、シャンデリヤは力なく曇り、人のいきれは惡臭となつて大ホールに鬱積する。煙草の匂ひ、香水の波、それらは今や殆ど魅力なきまでの力弱さだ。

「妖星は墜ちた」

語られる言葉のうちには醜穢な皮肉と、あくどい與太が交じへられるだけだ。

この一月ばかりの間、葉山百合子の美しさに君臨された整美あるホールの群衆は、一度その女王を目失へば、又もとの亂脈に歸つて了つた。

「お前らは向ふへ行つてろ。俺には考へ事があるのさ」

若い露西亞青年は、群り寄つて來る踊り子たちを押しやらうとしてゐる。

「あら、考へ事だなんて、こゝではそんな陰氣な事はやらないものよ」

脂粉の化物が青年の力に立てついてゐる。

「煩せえな。俺はお前見た樣な化物は厭だつて事さ。俺はな、もつと素張らしい事を考へてるんだぞ素張らしい事を」

あゝ、この青年でさへ醉ひ痴れてゐるのだ。

「まあ、耳寄りな話だわ。その素張らしい事つてのは?」

「ふん、吃驚するな。あしたお葬式に出かけ樣つてんだ」

踊り子たちは顏を見合せたが、その意味を解しかねてゐる樣だつた。

「綺麗な娘さんのお葬式にな」

「まあ、この人も思召しがあつたのだとさ」

踊り子たちは笑ひ崩れて了つてゐた。

けれども、この踊り子たちの笑ひ聲は、蒼白く醉ひ疲れた耳にまるで氷の樣に聽いてゐる中年の婦がゐる。

昨夜、百合子と盃をから合はせて健康を祝しあつたあの不思議な出來事。そして、生涯たつた一度だけ自分の身の上話をする氣になつたあの妖麗な日本婦人の俄な奇禍を、彼女は蒼白い耳と眼に受けてゐるのであつた。

醉ひ疲れてはゐても、この豚の如き婦の心には好さが流れてゐる。而も、それは／＼昨夜の百合子の言葉この方の好さであつて見れば、彼女の酒は、もうそれ以上心には廻らない。

「あの心の美しい方をそのまゝ死なせでもすれば……」

ほんとに心は暗くはなるのだ。が、その時は午後の二時。百合子が、口のうちに二度ばかり「緋紅玉、緋紅玉」と叫んで死んで行つた、丁度、その刻限だ。●

「胸さわぎのすること」

その婦を捕まえてゐるのは、おゝ、こゝにも人生は曲藝をつゞけてゐる、かの支那陸軍將校ではないか。

新刊紹介

▲優生學（五月號）兵庫縣武庫郡香櫨園森具六六七日本優生學協會（定價三十錢）

▲海防（五月號）東京麴町區丸の內一丁目六番地海上ビル海防義會（定價二十錢）

▲情熱的論理（北村兼子著）若き著者の隨筆集である、著者は大阪育ちの才女である、一種のあくどさはもつてゐるが女性にしては持ち過ぎてゐる難識と明快な文章とは一般に推奬されてゐる（四六判六〇四頁金一圓八十錢）東京麴町下六番町平凡社

▲東北四省政局の現狀（園田一龜著）東三省に國民黨の勢力が侵入するにいたつて以來最近にいたるまでの東三省政局の概要を說明し各主要機關の組織を揭げてゐる、知られてゐるやうで知られてゐない事情の解說で滿蒙をみるもの〻好參考書である

▲衞生長壽法（三宅秀著）八十二歲の著者の長壽法研究であるがいはゆる長壽法の秘訣秘法と類を同じくするものではなく總べて統計上の事實を根據として內外の資料によつて編された衞生長壽研究である（菊判布裝四〇八頁金二圓五十錢）東京神田富山房

▲人間不滅（石川千代松著）動物學の泰斗たる著者の隨筆集でその專門的見地から高遠な研究を極めて分り安く說いてある。內容は人間の系統、本性、生死、遺傳、進化等の問題を初め婦人問題、教育問題、歐米巡遊記、動物學の先覺者の許論等多方面にわたつてゐる（總クロース四六版五四〇頁金二圓五十錢）東京日本橋萬里閣書房

六月川柳課題

六月五日〆切「ベール」引野のぼる選

六月十日〆切「旅」横田和泉選

六月十五日〆切「茶柱」高橋月南選

△一人五句限り用紙はがき別記

滿日社文藝係

▲情熱時代（三上於菟吉著）短篇集、情熱時代、聽草、或る無理心中の話、秋の一日、女よ爾の胸は纖だを收めてある（四六判四五二頁金一圓三十錢）東京麴町下六番町平凡社

▲朝鮮消防（五月號）朝鮮總督府警務局內朝鮮消防協會（定價十五錢）

▲祖國（六月號）東京市外千駄ケ谷町千駄ケ谷五六二學苑社（定價五十錢）

▲露西亞事情 東京芝區新橋驛烏森口角露西亞通信社（定價廿錢）